

救急医療体制の推進に関する研究

ドクターカーの活用と類型化についての研究

研究分担者 高山 隼人 長崎大学病院 地域医療支援センター 副センター長  
野田 龍也 奈良県立医科大学 公衆衛生学 講師

研究要旨

【目的】社会復帰率の向上や防ぎえた死亡の減少のために、全国でドクターカーによる病院前救急医療が展開されている。本研究班に先行した救急に関する厚生労働研究班では、2012年にドクターカーに関する全国調査を実施した。その後ドクターカーを運営する施設も増加傾向にあると考えられる。本研究の目的は、ドクターカーを保有する全国の施設を対象に、ドクターカーの運用実態やドクターカーとして利用されている車両の属性、搭載機器等を調査し、ドクターカーが有することが望ましい条件を検討する際の基礎資料を作成することである。

【研究方法】2018年2月、全国のすべての救命救急センター（当時で288施設）に対して、ドクターカーの運用状況と搭載資機材についての調査票を送付し、ドクターカーの運用実態やドクターカーとして利用されている車両の属性、搭載機器等を調査した。

【研究結果】189施設から回答があり、回収率は65.6%であった。回答のあった189施設中、112施設（59.3%）でドクターカーを運用しており、運用方式としては、病院車運用方式61.6%、ワークステーション方式21.4%、ピックアップ方式34.8%であった（重複回答あり）。稼働時間は、24時間運用32.7%、日勤帯のみ運用52.2%であった。毎日24時間稼働できない理由として人員確保問題が93.2%の施設にあった。運用件数は、中央値132件/年であった。ドクターカー要請基準では基準なしが16.2%で、事後検証に関して実施なしが21.2%であった。病院車運用方式の車両のタイプでは、救急車タイプ57.7%、乗用車（ラピッド・レスポンスカー）タイプ42.3%であった。

【考察】2012年と今回で運用方式を比較するとピックアップ方式が増加し、複数の運用方式の混在を採用している施設が17施設から69施設と著増しており、施設や消防本部の状況に合わせ対応していることがわかる。運用件数は2012年の平均174件/年から平均271.6件/年へと増加しており、消防機関との連携も進んでいた。また、診療報酬に関しては算定の有無にばらつきがあった。患者からの医療費請求へのクレーム等により算定を行っていない施設や地域もあるため、ドクターカーによる早期治療が有効であることを国民に周知する必要がある。

【結論】ドクターカーの運用に関して、全国の救命救急センターの112施設で運用されていた。2012年に比べてピックアップ方式が増加し、病院車運用方式では救急車タイプ57.7%、乗用車タイプ42.3%であった。24時間運用できない理由として、医師を含めた人員不足が原因との回答が多かった。

A. 研究目的

社会復帰率の向上や防ぎえた死亡の減少のために、全国でドクターカーによる病院前救急医療が展開されている。本研究班に先行した救急に関する厚生労働研究班では、2012年にドクターカーに関する全国調査を実施した。その後ドクターカーを運営する施設も増加傾向にあると考えられる。

本研究の目的は、ドクターカーを保有する全国の施設を対象に、ドクターカーの運用実態やドクターカーとして利用されている車両の属性、搭載機器等を調査し、ドクターカーが有することが望ましい条件を検討する際の基礎資料を作成することである。

B. 研究方法

2017年12月末現在で、救命救急センターとして認可を受けている288施設の責任者に対して、調査票

を送付しアンケート調査を行った。調査項目は、問1から13までは運用に関する内容で、後半の設問（Q1以降）では、運用方式毎に件数、搭乗スタッフ、搭載資機材を調査した。調査期間は、2018年2月23日から3月末とした。

本研究では、今までの研究班における議論を踏まえ、ドクターカーを「診療を行う医師を派遣するための救急走行が可能な車両」と定義し、その車両の運用形態から以下の類型に分類した：

- ・ タイプ A（消防要請による医師派遣型）（1）消防からの要請に基づき、（2）医師が、（3）医療機関の緊急走行車両（一般車両、救急車等）に乗車して、（4）傷病発生現場または搬送途上のランデブー（ドッキング）・ポイントへ向かい、（5）診療（死亡確認を含む。）を行うもの。
- ・ タイプ B（消防運用型）（1）消防からの要請に

に基づき、(2)医師が、(3)消防機関の救急車等に  
乗車して、(4)傷病発生現場または搬送途上の  
ランデブー(ドッキング)・ポイントへ向かい、  
(5)診療(死亡確認を含む。)を行うもの。  
・タイプ C (転院搬送型) (1)消防からの要請が  
ない状態で、(2)医師が、(3)患者を搬送する  
車両に同乗して活動するもの。

#### (倫理面への配慮)

本研究は、個人情報や動物愛護に関わる調査及び  
実験を行わず、個人に関する情報を使用していない。  
研究の遂行にあたっては、「人を対象とする医学的  
研究に関する倫理指針」(平成26年文部科学省・厚  
生労働省告示)を遵守しつつ行った。「疫学研究の  
倫理指針」(平成14年6月17日、平成19年8月16日全  
部改正、平成25年4月1日一部改正、文部科学省・厚  
生労働省)を遵守している。

#### C. 研究結果

288 施設中で 189 施設から回答を得られ、回収  
率 65.6%であった。189 施設の中で 112 施設  
(59.3%) がドクターカーを運用していた。

ドクターカーの運営方式(複数回答可)につい  
て、病院車運用方式が 69 施設(61.6%)、ワークス  
テーション方式 24 施設(21.4%)、ピックアップ方  
式 39 施設(34.8%)であった。

複数運用方式の施設は 69 施設(77.3%)で、病院  
車運用が主たる施設が 36 施設(52.2%)であった。

病院車運用方式は、現場駆け付け型や病院間患  
者移送型によって、搭乗スタッフに違いがあると  
予想されるため、後述する。ワークステーション  
方式での搭乗スタッフに関して、医師が 19 施設の  
中央値 1 名(1, 1)、看護師が 10 施設の中央値 1  
名(0.87, 1)、救急救命士が 7 施設の中央値 3 名  
(2, 3)、その他スタッフが 0 名であった。ピック  
アップ方式での搭乗スタッフに関して、医師が 25  
施設の中央値 1 名(1, 1.25)、看護師が 15 施設の  
中央値 1 名(1, 1)、救急救命士が 4 施設の中央値  
3 名(1.5, 3)、その他スタッフが 0 名であった。

ドクターカーの運転手に関して 108 施設より回  
答あり、専属運転手 23 施設(21.3%)、院内職員が  
他の業務と兼務 35 施設(32.4%)、消防職員が他の  
業務と兼務 39 施設(36.1%)、その他はタクシー会  
社や警備会社などがあつた。

ドクターカーに搭乗する可能性のある医師数は、  
中央値 8 名(4, 14)であり、その内救急科専門医  
数は中央値 5 名(2, 8)であった。

ドクターカーの稼働曜日に関して、ほぼ毎日が  
46 施設(41.1%)、平日に限るが 50 施設(44.6%)、そ  
の他に 16 施設(14.3%)であった。その他は、曜日  
限定や運用方式によって違うなどであった。

ドクターカーの稼働時間に関して、24 時間が 36

施設(32.7%)、日勤帯のみが 63 施設(52.2%)、その  
他に 11 施設(10.0%)であった。その他は、23 時や  
24 時まで運用するなどであった。

毎日 24 時間稼働していない場合の理由に関して、  
74 施設から回答があり、人員確保困難が 69 施設  
(93.2%)であった。詳細には、医師確保困難 52 施  
設、看護師確保困難 33 施設、救急救命士確保困難  
15 施設、運転手確保困難 24 施設であった。経費  
不足が 16 施設であった。その他の理由として、夜  
間の緊急走行が危険などのコメントがあつた。

病院車運用方式でのドクターカー購入費用の負  
担に関して 77 施設より回答があり、全額病院負担  
が 38 施設、病院負担だが補助金を使用が 28 施設、  
その他が 11 施設であった。その他として、寄付や  
行政からの貸与などがあつた。

病院車運用方式で運転手の費用に関して 75 施設  
より回答があり、全額病院負担が 54 施設、病院負  
担だが補助金使用が 8 施設、その他が 13 施設であ  
つた。その他は病院研修中の救急救命士などがあ  
つた。

算定している診療報酬に関して、救急搬送診療  
料が 72 施設(64.3%)、初診料が 45 施設(40.2%)、  
往診料が 69 施設(61.6%)、救急救命管理料が 17 施  
設(15.2%)であった。

ドクターカー年間の運用件数は、中央値 132 件  
(25, 359)であった。その中で自院搬送件数は、中  
央値 70 件(17.5, 213)であった。自施設の救急車年  
間受け入れ件数は、中央値 4137.5 件(2400, 6392.5)  
であった。

ドクターカー要請に関する傷病者の基準につい  
て、地域 MC 協議会で協議した基準ありが 49 施設  
(40.5%)、地域 MC 協議会で協議なしの基準ありが  
30 施設(27.0%)、基準なしが 19 施設(16.2%)、その  
他 19 施設であった。その他は、消防と協議した基  
準などがあつた。

搬送距離や搬送予想時間等により要請を受けな  
い基準があるかについて、地域 MC 協議会で協議  
した基準ありが 18 施設、協議していない基準あり  
が 16 施設、基準なしが 67 施設、その他が 12 施設  
であった。

傷病者接触後に搬送先病院等の取り決め(基準)  
があるかについて 111 施設から回答あり、取り決  
め(基準)なしが 89 施設、取り決め(基準)あり  
が 22 施設であった。ありで、協議した施設は自院  
16 施設、他院 2 施設、MC 協議会 7 施設であった。

事後検証する場について、院内及び MC 協議会  
の双方(または合同)で実施が 54 施設(47.8%)、  
院内のみ実施が 35 施設(31.0%)、実施してない  
が 24 施設(21.2%)であった。

ドクターカー運用にあたっての困りの点については、医師の確保が 58 施設(51.8%)、看護師の確保が 50 施設(44.6%)、運転手の確保が 51 施設(38.8%)、人件費が 25 施設(22.3%)、運行経費が 41 施設(36.6%)であった。

病院車運用方式でのドクターカーの車両

病院車運用方式 1 台目について

78 施設から回答あり、傷病者の収容が可能な車両(救急車タイプ)が 45 施設(57.7%)、医療従事者の搬送のみ可能な車両(乗用車タイプ)が 33 施設(42.3%)であった。その他では、2 輪車や 3 輪車両などなかった。

車両を購入したときに、新車が 67 施設、中古車が 6 施設であった。

年間の走行距離は、中央値 22526km(13150、44085.5)であった。

現場駆け付け型の年間件数は中央値 125.5 件(19.5、311)で、その内、医師同乗ありが中央値 109.5 件(18.5、298.5)であった。

病院間患者移送の年間件数は中央値 40 件(10、149.5)で、その内医師同乗ありが 26 件(10、100)であった。

現場駆け付け型(医師同乗あり)でのスタッフ数について、医師が 68 施設で中央値 1 名(1、1.875)、看護師が 62 施設で中央値 1 名(1、1)、救急救命士が 38 施設で中央値 1 名(1、1.125)、その他では運転手や事務員が多かった。主たる運転する職種(66 施設の回答)は、専属運転手が 27 施設(41.0%)、医師が 3 施設(4.4%)、救急救命士が 17 施設(25.8%)、看護師が 0 施設、その他が 19 施設であった。

病院間患者移送(医師同乗あり)でのスタッフ数について、医師が 44 施設で中央値 1 名(1、1)、看護師が 25 施設で中央値 1 名(0.75、1)、救急救命士が 13 施設で 1 名(1、2)、その他は運転手や事務員であった。主たる運転する職種(42 施設の回答)は、専属運転手が 19 施設、医師が 1 施設、救急救命士が 6 施設、その他が 15 施設であった。

病院間患者移送(医師同乗なし)でのスタッフ数について、12 施設から回答があった。看護師が 9 施設で中央値 1 名(1、1)、救急救命士が 4 施設で 1 名(1、2.5)であった。主たる運転する職種(12 施設の回答)は、専属運転手が 4 施設、救急救命士が 2 施設、その他が 6 施設であった。

病院車運用方式 2 台目の車両

14 施設より回答があり、救急車タイプが 9 施設、乗用車タイプが 5 施設であった。

車両購入時に新車が 14 施設、中古車が 0 施設で

あった。

年間の走行距離について、中央値 31213.5km(15494.3、57000)であった。

現場駆け付け型の年間件数は、中央値 34 件(4.5、187)で、医師同乗ありの年間件数が中央値 34 件(4.5、187)であった。

病院間患者移送の年間件数は、中央値 41 件(23、114)で、医師同乗ありの年間件数は中央値 41 件(23、114)であった。

現場駆け付け型(医師同乗あり)でのスタッフ数について、医師 11 施設で中央値 1 名(1、1.5)、看護師 9 施設で中央値 1 名(1、1.25)、救急救命士 7 施設 1 名(1、1)であった。その他は運転手や事務員であった。主に運転する職種(11 施設の回答)は、専属運転手が 6 施設、救急救命士が 2 施設、その他が 3 施設であった。

病院間患者移送(医師同乗あり)でのスタッフ数について、医師 10 施設で中央値 1 名(1、1.125)、看護師 5 施設で中央値 1 名(0.5、1)、救急救命士 3 施設で中央値 1 名(1、1)であった。主に運転する職種(11 施設の回答)では、専属運転手が 7 施設、救急救命士が 1 施設、その他が 3 施設であった。

病院間患者移送(医師同乗なし)でのスタッフ数について、看護師 3 施設で中央値 1 名(1、1)、救急救命士 1 施設で中央値 1 名(1、1)であった。主に運転する職種(4 施設の回答)は、専属運転手が 1 施設、救急救命士が 1 施設、その他が 2 施設であった。

病院車運用方式 3 台目について

3 施設より回答があり、救急車タイプが 2 施設、乗用車タイプが 1 施設であった。

車両購入時に新車が 2 施設、中古車が 1 施設であった。

年間走行距離は、中央値 54676km(42688、68532)であった。

現場駆け付け型の年間件数は 1 施設で 5 件、医師同乗ありの年間件数は 5 件であった。

病院間患者移送(医師同乗あり)の年間件数は、2 施設の中央値 93.5 件(12、175)、医師同乗ありの年間件数は中央値 22.5 件(12、33)であった。

現場駆け付け型(医師同乗あり)でのスタッフ数について、医師が 3 名、看護師が 0 名、救急救命士が 0 名であった。主に運転する職種として、医師であった。

病院間患者移送(医師同乗あり)でのスタッフ数について回答 1 施設で、医師 1 名、看護師 1 名、救急救命士 1 名、運転手 1 名であった。

病院間患者移送(医師同乗なし)でのスタッフ数について、看護師 0 名、救急救命士 1 名、運転手 1 名であった。

## 搭載資機材に関して

消防機関の高規格救急車に搭載されている資機材を車内常置、持ち込み、原則搭載せずにて質問した。1台目の現場駆け付け型(表1)と病院間患者移送(医師同乗あり)(表2)、2台目の現場駆け付け型(表3)とも、自動心マッサージ器や分娩用資機材、スクープストレッチャー、担架、ショックパンツが搭載されていないことが多かった。病院間患者移送(医師同乗あり)(表4)では、上記に加えて超音波診断装置が搭載されていないことが多かった。3台目の現場駆け付け型(表5)では、常置されている機材はなく持ち込みであった。病院間患者移送(医師同乗あり)(表6)では、資機材の搭載は少なく、持ち込みもなかった。

## D. 考察

ドクターカーの運用に関して、2012年に実施した救命救急センターのアンケートでは回収率60.4%の中で運用96施設であったが、2018年では回収率65.6%の中で112施設と増加していた。運用方式は、2012年がワークステーション方式19施設、ピックアップ方式31施設、病院救急車方式62施設から、2018年ではワークステーション方式24施設、ピックアップ方式78施設、病院救急車方式69施設へと変化しており、ピックアップ方式が著増し、他も増加しており、救急現場に駆け付けるドクターカーが年々増加している。複数運用施設に関して、17施設から69施設と著増しており、施設や消防本部の状況に合わせ対応していることがわかる。

ドクターカーの稼働日では、24時間運用施設が39施設から36施設と減少していたが、毎日運用施設が43施設から63施設へと増加していた。

24時間運用ができない理由として、93.2%で人員確保困難であり、医師のみでなく看護師や運転手などの不足状況が明らかになった。

ドクターカーの運用件数は、2012年では平均174件/年であったが、2018年平均271.6件と増加していた。内容を検討するために、病院車運用方式では現場駆け付けと病院間患者移送別に集計し、現場駆け付けは年平均249.3件(中央値125.5件)、病院間患者移送は年平均102.8件(中央値40件)であり、現場駆け付け型が主体ではあるが、病院間患者移送も一定数あることがわかる。

医療スタッフに関しては、現場駆け付け型や病院間患者移送型での医師1名、看護師1名が標準的であった。しかし、看護師の同乗は2012年62.7%から2018年54.5%と減少しており、医師単独での出動施設が引き続き多いことがわかる。

今回、初めてドクターカー運用時に診療報酬を算定しているかなどを質問したが、救急搬送診療料64.3%、初診料40.2%、往診料61.6%と算定にばらつきがあることが分かった。患者からの医療費請求へのクレーム等により、算定を行っていない施設や地域もあったため、ドクターカーによる早期治療が有効であることを国民に周知していく必要がある。

搭載資機材に関しては、消防の高規格救急車に搭載されている固定用資機材や分娩用資機材などは少なく、複数の資機材が常置でなく持ち込みとなっていた。これは、現場での医療活動のために車外持

ち出しを意識しているのではないと思われる。今回は、運用によって集計したため、救急車タイプと乗用車タイプによる集計をし直すことにより、車両タイプによる違いが表れてくるものとする。

## E. 結論

ドクターカーの運用に関して、全国の救命救急センターの112施設で運用されていた。2012年よりピックアップ方式が増加していた。病院車運用方式での車両のタイプは、救急車タイプ57.7%、乗用車(ラピッド・レスポンスカー)タイプ42.3%であった。24時間運用できない理由として、医師を含めた人員不足であった。

## F. 健康危険情報 特になし

## G. 研究発表 1. 論文発表 なし

2. 学会発表  
2019年12月 第14回日本病院前救急診療医学会  
総会・学術集会予定  
(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

## H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得  
特になし
2. 実用新案登録  
特になし
3. その他  
特になし

表1 1台目現 場駆け付け型車両の搭載資機材

ドクターカー搭載資機材	車内常置・持ち込み・原則搭載せず		
心電図計	車内常置 (45)	持ち込み (15)	原則搭載せず (8)
血圧測定装置	車内常置 (44)	持ち込み (16)	原則搭載せず (8)
血中酸素飽和度測定器	車内常置 (44)	持ち込み (17)	原則搭載せず (7)
呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2 測定器)	車内常置 (26)	持ち込み (15)	原則搭載せず (25)
除細動器(ペースング機能付き)	車内常置 (37)	持ち込み (8)	原則搭載せず (23)
除細動器(ペースング機能無し(AED含む))	車内常置 (21)	持ち込み (10)	原則搭載せず (26)
人工呼吸器	車内常置 (31)	持ち込み (4)	原則搭載せず (31)
自動心マッサージ器	車内常置 (7)	持ち込み (11)	原則搭載せず (48)
超音波診断装置	車内常置 (24)	持ち込み (42)	原則搭載せず (3)
吸引器	車内常置 (41)	持ち込み (10)	原則搭載せず (17)
気道確保資機材	車内常置 (31)	持ち込み (36)	原則搭載せず (1)
ビデオ硬性挿管用喉頭鏡	車内常置 (18)	持ち込み (30)	原則搭載せず (19)
酸素投与資機材	車内常置 (45)	持ち込み (12)	原則搭載せず (11)
固定用資機材	車内常置 (35)	持ち込み (6)	原則搭載せず (27)
分娩用資機材	車内常置 (2)	持ち込み (5)	原則搭載せず (61)
マギール鉗子	車内常置 (29)	持ち込み (34)	原則搭載せず (5)
創傷保護用資機材	車内常置 (32)	持ち込み (32)	原則搭載せず (4)
スクープストレッチャー	車内常置 (14)	持ち込み	原則搭載せず (54)
担架	車内常置 (18)	持ち込み (1)	原則搭載せず (48)
バックボード	車内常置 (29)	持ち込み (2)	原則搭載せず (37)
保温用毛布	車内常置 (32)	持ち込み (2)	原則搭載せず (34)
無線装置	車内常置 (35)	持ち込み (8)	原則搭載せず (24)
懐中電灯	車内常置 (43)	持ち込み (9)	原則搭載せず (16)
トリアージタッグ	車内常置 (34)	持ち込み (25)	原則搭載せず (9)
冷却用資機材	車内常置 (8)	持ち込み (16)	原則搭載せず (44)
血糖測定器	車内常置	持ち込み	原則搭載せず

	(24)	(37)	(8)
ショックパンツ	車内常置 (24)	・ 持ち込み (3)	・ 原則搭載せず (64)
心肺蘇生用背板	車内常置 (7)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (58)
骨髄針	車内常置 (25)	・ 持ち込み (40)	・ 原則搭載せず (4)
胸腔ドレーン	車内常置 (32)	・ 持ち込み (34)	・ 原則搭載せず (3)
メス	車内常置 (33)	・ 持ち込み (35)	・ 原則搭載せず (1)
ペアン	車内常置 (32)	・ 持ち込み (36)	・ 原則搭載せず (1)
鑷子	車内常置 (32)	・ 持ち込み (35)	・ 原則搭載せず (2)
開胸器	車内常置 (20)	・ 持ち込み (23)	・ 原則搭載せず (24)

表2 1台目 病院間患者移送（医師同乗あり）の搭載資機材

ドクターカー搭載資機材	車内常置・持ち込み・原則搭載せず		
心電図計	車内常置 (40)	・ 持ち込み (5)	・ 原則搭載せず
血圧測定装置	車内常置 (40)	・ 持ち込み (4)	・ 原則搭載せず (1)
血中酸素飽和度測定器	車内常置 (36)	・ 持ち込み (6)	・ 原則搭載せず (2)
呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2 測定器)	車内常置 (23)	・ 持ち込み (8)	・ 原則搭載せず (13)
除細動器(ペースング機能付き)	車内常置 (31)	・ 持ち込み (3)	・ 原則搭載せず (11)
除細動器(ペースング機能無し(AED含む))	車内常置 (18)	・ 持ち込み (3)	・ 原則搭載せず (14)
人工呼吸器	車内常置 (30)	・ 持ち込み (6)	・ 原則搭載せず (9)
自動心マッサージ器	車内常置 (5)	・ 持ち込み (6)	・ 原則搭載せず (31)
超音波診断装置	車内常置 (14)	・ 持ち込み (20)	・ 原則搭載せず (11)
吸引器	車内常置 (39)	・ 持ち込み (3)	・ 原則搭載せず (3)
気道確保資機材	車内常置 (23)	・ 持ち込み (17)	・ 原則搭載せず (5)
ビデオ硬性挿管用喉頭鏡	車内常置 (10)	・ 持ち込み (17)	・ 原則搭載せず (16)
酸素投与資機材	車内常置 (43)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず
固定用資機材	車内常置 (27)	・ 持ち込み (6)	・ 原則搭載せず (12)
分娩用資機材	車内常置	・ 持ち込み (6)	・ 原則搭載せず (36)
マギール鉗子	車内常置 (22)	・ 持ち込み (15)	・ 原則搭載せず (8)
創傷保護用資機材	車内常置 (21)	・ 持ち込み (15)	・ 原則搭載せず (9)
スクープストレッチャー	車内常置 (13)	・ 持ち込み (3)	・ 原則搭載せず (27)
担架	車内常置 (19)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (22)
バックボード	車内常置 (26)	・ 持ち込み (8)	・ 原則搭載せず (11)
保温用毛布	車内常置 (31)	・ 持ち込み (8)	・ 原則搭載せず (6)
無線装置	車内常置 (24)	・ 持ち込み (5)	・ 原則搭載せず (16)
懐中電灯	車内常置 (33)	・ 持ち込み (5)	・ 原則搭載せず (6)
トリアージタッグ	車内常置 (23)	・ 持ち込み (12)	・ 原則搭載せず (9)
冷却用資機材	車内常置 (7)	・ 持ち込み (9)	・ 原則搭載せず (27)
血糖測定器	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず

	(15)	(16)	(13)
ショックパンツ	車内常置 (1)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (38)
心肺蘇生用背板	車内常置 (8)	・ 持ち込み (3)	・ 原則搭載せず (32)
骨髄針	車内常置 (15)	・ 持ち込み (17)	・ 原則搭載せず (12)
胸腔ドレーン	車内常置 (19)	・ 持ち込み (14)	・ 原則搭載せず (11)
メス	車内常置 (21)	・ 持ち込み (16)	・ 原則搭載せず (8)
ペアン	車内常置 (20)	・ 持ち込み (16)	・ 原則搭載せず (9)
鑷子	車内常置 (20)	・ 持ち込み (16)	・ 原則搭載せず (9)
開胸器	車内常置 (12)	・ 持ち込み (13)	・ 原則搭載せず (19)

表3 2台目 現場駆け付け型の搭載資機材

ドクターカー搭載資機材	車内常置・持ち込み・原則搭載せず		
心電図計	車内常置 (8)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (1)
血圧測定装置	車内常置 (7)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (2)
血中酸素飽和度測定器	車内常置 (7)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (2)
呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2 測定器)	車内常置 (1)	・ 持ち込み (4)	・ 原則搭載せず (6)
除細動器(ペースング機能付き)	車内常置 (5)	・ 持ち込み (3)	・ 原則搭載せず (3)
除細動器(ペースング機能無し(AED含む))	車内常置 (3)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (5)
人工呼吸器	車内常置 (3)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (6)
自動心マッサージ器	車内常置 (1)	・ 持ち込み (4)	・ 原則搭載せず (6)
超音波診断装置	車内常置 (4)	・ 持ち込み (5)	・ 原則搭載せず (2)
吸引器	車内常置 (6)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (4)
気道確保資機材	車内常置 (5)	・ 持ち込み (6)	・ 原則搭載せず
ビデオ硬性挿管用喉頭鏡	車内常置 (3)	・ 持ち込み (4)	・ 原則搭載せず (4)
酸素投与資機材	車内常置 (7)	・ 持ち込み (3)	・ 原則搭載せず (1)
固定用資機材	車内常置 (6)	・ 持ち込み (3)	・ 原則搭載せず (2)
分娩用資機材	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (11)
マギール鉗子	車内常置 (4)	・ 持ち込み (6)	・ 原則搭載せず (1)
創傷保護用資機材	車内常置 (5)	・ 持ち込み (6)	・ 原則搭載せず
スクープストレッチャー	車内常置 (3)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (8)
担架	車内常置 (5)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (6)
バックボード	車内常置 (3)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (7)
保温用毛布	車内常置 (5)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (6)
無線装置	車内常置 (3)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (6)
懐中電灯	車内常置 (7)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (3)
トリアージタッグ	車内常置 (5)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (4)
冷却用資機材	車内常置 (1)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (8)
血糖測定器	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず

	(3)	(6)	(2)
ショックパンツ	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (10)
心肺蘇生用背板	車内常置 (10)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
骨髄針	車内常置 (3)	・ 持ち込み (7)	・ 原則搭載せず (1)
胸腔ドレーン	車内常置 (4)	・ 持ち込み (6)	・ 原則搭載せず (1)
メス	車内常置 (5)	・ 持ち込み (5)	・ 原則搭載せず (1)
ペアン	車内常置 (4)	・ 持ち込み (6)	・ 原則搭載せず (1)
鑷子	車内常置 (4)	・ 持ち込み (6)	・ 原則搭載せず (1)
開胸器	車内常置 (2)	・ 持ち込み (5)	・ 原則搭載せず (4)

表4 2台目 病院間患者移送（医師同乗あり）

ドクターカー搭載資機材	車内常置・持ち込み・原則搭載せず		
心電図計	車内常置 (8)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (1)
血圧測定装置	車内常置 (9)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (1)
血中酸素飽和度測定器	車内常置 (8)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (1)
呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2 測定器)	車内常置 (2)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (8)
除細動器(ペースング機能付き)	車内常置 (6)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (5)
除細動器(ペースング機能無し(AED含む))	車内常置 (6)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (4)
人工呼吸器	車内常置 (5)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (5)
自動心マッサージ器	車内常置 (2)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (8)
超音波診断装置	車内常置 (3)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (7)
吸引器	車内常置 (9)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (1)
気道確保資機材	車内常置 (5)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (5)
ビデオ硬性挿管用喉頭鏡	車内常置 (8)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (2)
酸素投与資機材	車内常置 (11)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
固定用資機材	車内常置 (4)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (7)
分娩用資機材	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (11)
マギール鉗子	車内常置 (4)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (6)
創傷保護用資機材	車内常置 (4)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (6)
スクープストレッチャー	車内常置 (5)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (6)
担架	車内常置 (8)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (3)
バックボード	車内常置 (4)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (7)
保温用毛布	車内常置 (8)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (2)
無線装置	車内常置 (2)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (8)
懐中電灯	車内常置 (5)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (6)
トリアージタッグ	車内常置 (4)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (7)
冷却用資機材	車内常置 (2)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (8)
血糖測定器	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず

	(2)	(1)	(8)
ショックパンツ	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (11)
心肺蘇生用背板	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (9)
骨髄針	車内常置 (2)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (8)
胸腔ドレーン	車内常置 (2)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (8)
メス	車内常置 (3)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (7)
ペアン	車内常置 (2)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (8)
鑷子	車内常置 (2)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (8)
開胸器	車内常置 (1)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (8)

表5 3台目 現場駆け付け型の搭載資機材

ドクターカー搭載資機材	車内常置・持ち込み・原則搭載せず
心電図計	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
血圧測定装置	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
血中酸素飽和度測定器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2 測定器)	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
除細動器(ペースング機能付き)	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
除細動器(ペースング機能無し(AED含む))	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
人工呼吸器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
自動心マッサージ器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
超音波診断装置	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
吸引器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
気道確保資機材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
ビデオ硬性挿管用喉頭鏡	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
酸素投与資機材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
固定用資機材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
分娩用資機材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
マギール鉗子	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
創傷保護用資機材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
スクープストレッチャー	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
担架	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
バックボード	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
保温用毛布	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
無線装置	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
懐中電灯	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
トリアージタッグ	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
冷却用資機材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
血糖測定器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず

	(1)
ショックパンツ	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
心肺蘇生用背板	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
骨髄針	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
胸腔ドレーン	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
メス	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
ペアン	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
鑷子	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
開胸器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)

表6 3台目 病院間患者移送（医師同乗あり）の搭載資機材

ドクターカー搭載資機材	車内常置・持ち込み・原則搭載せず
心電図計	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
血圧測定装置	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
血中酸素飽和度測定器	車内常置 (1) ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2 測定器)	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
除細動器(ペースング機能付き)	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
除細動器(ペースング機能無し(AED含む))	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
人工呼吸器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
自動心マッサージ器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
超音波診断装置	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
吸引器	車内常置 (1) ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
気道確保資機材	車内常置 (1) ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
ビデオ硬性挿管用喉頭鏡	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
酸素投与資機材	車内常置 (2) ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
固定用資機材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
分娩用資機材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
マギール鉗子	車内常置 (1) ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
創傷保護用資機材	車内常置 (1) ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
スクープストレッチャー	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
担架	車内常置 (1) ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
バックボード	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
保温用毛布	車内常置 (1) ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
無線装置	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
懐中電灯	車内常置 (1) ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
トリアージタッグ	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
冷却用資機材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
血糖測定器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず

		(2)
ショックパンツ	車内常置	・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
心肺蘇生用背板	車内常置	・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
骨髄針	車内常置	・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
胸腔ドレーン	車内常置	・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
メス	車内常置 (1)	・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
ペアン	車内常置	・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
鑷子	車内常置	・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
開胸器	車内常置	・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)

厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

「救急医療体制の推進に関する研究班」  
(H28-医療-指定-027)

ドクターカーの活用と類型化に関する研究分担班

ドクターカーの運用に関する全国実態調査  
(2018年2月実施)

調査結果集計

2019年3月報告

研究分担者

長崎大学病院 地域医療支援センター 高山 隼人  
奈良県立医科大学 公衆衛生学講座 野田 龍也

## この調査結果集計について

この「調査結果集計」は、厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「救急医療体制の推進に関する研究班」（H28-医療-指定-027）（研究代表者：山本保博）の分担班の一つである、「ドクターカーの活用と類型化に関する研究分担班」（研究分担者：高山隼人、野田龍也）において実施した「ドクターカーの運用に関する全国実態調査」（2018年2月実施）の結果を集計したものである。調査構造が複雑であるため、調査集計の全体構造を下記に示す。

本調査は、ドクターカーの運用実態に関して各病院へ尋ねた前半部分（問1～問13）と、ドクターカーのうち「病院車運用方式」を運用している病院に特化して尋ねた後半部分（Q1～Q5-3）に分かれている。

- ドクターカーの運用実態がある全病院（112病院）が回答  
問1～問13 病院（施設）ごとに回答する設問
  
  - ドクターカーのうち「病院車運用方式」を運用している病院（70病院）のみが回答  
Q1～Q2 保有する車両ごとに回答する設問（車両の年式等）  
  
Q3-1～Q3-3 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」を運用している施設を対象に、車両の特性や搭載機器等を尋ねた設問（車両タイプごとに搭載機器等を回答）  
  
Q4-1～Q4-3 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」を運用している施設を対象に、車両の特性や搭載機器等を尋ねた設問（車両タイプごとに搭載機器等を回答）  
  
Q5-1～Q5-3 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」を運用している施設を対象に、車両の特性や搭載機器等を尋ねた設問（車両タイプごとに搭載機器等を回答）
- ※ 同一病院で同一タイプの車両を複数台運用している場合は、1台目、2台目、3台目ごとに回答する。例えば、ある病院が「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」（Q3系統）の車両を3台運用している場合は、その病院は、Q1～Q2に1台目、2台目、3台目の計3回回答し、Q3-1～Q3-3にも1台目、2台目、3台目の計3回回答する。
- ※ なお、本報告書には、同一タイプの車両ごとに集計した結果も掲載している（同一タイプの1～3台目の結果を合算した）。

以上を踏まえ、この結果集計は次の順番で構成されている：

### 問1～問13（回答全病院）

→（以下、「病院車運用方式」を運用している病院のみ）

→Q1の1～3台目合算→Q1の1台目→Q1の2台目→Q1の3台目

→Q2の1～3台目合算→Q2の1台目→Q2の2台目→Q2の3台目

→Q3-1～Q3-3の1～3台目合算→Q3-1～Q3-3の1台目→Q3-1～Q3-3の2台目→Q3-1～Q3-3の3台目

→Q4-1～Q4-3の1～3台目合算→Q4-1～Q4-3の1台目→Q4-1～Q4-3の2台目→Q4-1～Q4-3の3台目

→Q5-1～Q5-3の1～3台目合算→Q5-1～Q5-3の1台目→Q5-1～Q5-3の2台目→Q5-1～Q5-3の3台目

## 目 次

この調査結果集計について	2
<b>問 1～問 13</b>	
（ドクターカーの全国実態集計）	4
病院車運用方式の全国実態集計	76
<b>Q1～Q2</b>	
（ドクターカー（病院車運用方式）の車両特性）	77
<b>Q3-1～Q3-3</b>	
（「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」の車両特性）	136
<b>Q4-1～Q4-3</b>	
（「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」の車両特性）	181
<b>Q5-1～Q5-3</b>	
（「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」の車両特性）	224
調査表	261

## 問 1～問 13

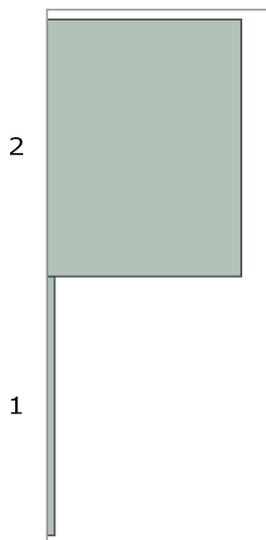
### ドクターカーの全国実態集計

- 本セクションは、ドクターカーの運用実態があるすべての病院（施設）が回答対象である（未回答病院を除く）。
- 本セクションの各設問は病院（施設）単位での回答である。

問1. 貴施設ではドクターカーを運用していますか。

1. 運用なし（医師が救急隊の要請で車両出動することはない）
2. 運用あり（医師が救急隊の要請で車両出動することがある）

図1.運用の有無



度数

水準	度数	割合
1	5	0.04274
2	112	0.95726
合計	117	1.00000

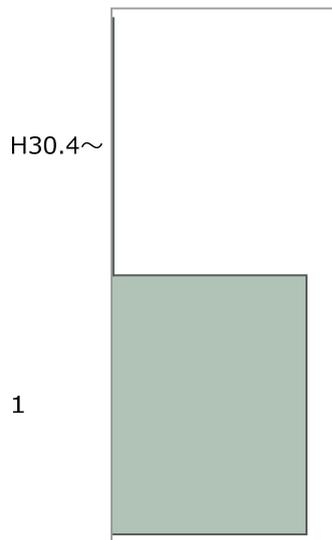
欠測値N 0

回答のあった救命救急センターのうち、95.7%(112施設)で、消防本部からの依頼にて救急現場の活動に従事していた。救命救急センターという特性上、一般病院よりもドクターカー運用の意向が強い傾向があると考えられる。

問2-1. ドクターカーの運営方式についてお知らせください。(複数回答可)

1. 病院車運用方式(自施設の車両に医師が乗車)

問2-1-1.運営方式・1.病院車運用方式



度数

水準	度数	割合
1	69	0.98571
H30.4~	1	0.01429
合計	70	1.00000

欠測値N 47

病院車運用方式を用いている施設は、70施設(62.5%)であった。そのうち1施設は、平成30年4月より運用を開始していると記入してあった。大半の施設がこの病院車運用方式を用いている。

問2-1. ドクターカーの運営方式についてお知らせください。(複数回答可)

2. ワークステーション方式(自施設内に救急隊の救急車が待機)

図2-1-2.運営方式・2.ワークステーション方式



度数

水準	度数	割合
2	23	0.95833
2 (車両は自施設。救急隊のみ消防救命士が待機)	1	0.04167
合計	24	1.00000

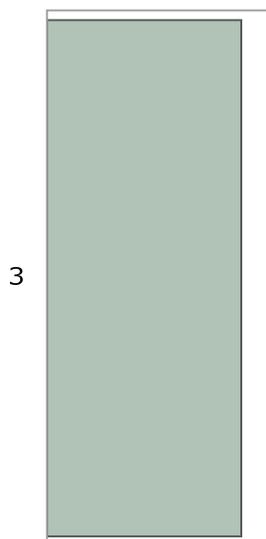
欠測値N 93

ワークステーション方式を用いている施設は、24施設(21.4%)であった。うち1施設は、車両は自施設で購入し、救急隊のみ救命救急士が待機していると記入してあった。

問2-1. ドクターカーの運営方式についてお知らせください。(複数回答可)

3. ピックアップ方式(救急隊の救急車が医師をピックアップ)

図2-1-3.運営方式・3.ピックアップ方式



度数

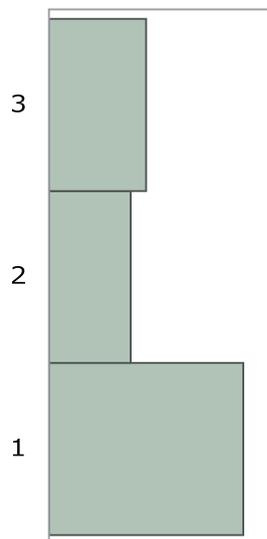
水準	度数	割合
3	39	1.00000
合計	39	1.00000

欠測値N 78

ピックアップ方式を用いている施設は、39施設(34.8%)であった。

問2-1【複数解答時】 主たる運用をひとつお選びください

・図2-1-4.複数回答時



度数

水準	度数	割合
1	36	0.52174
2	15	0.21739
3	18	0.26087
合計	69	1.00000

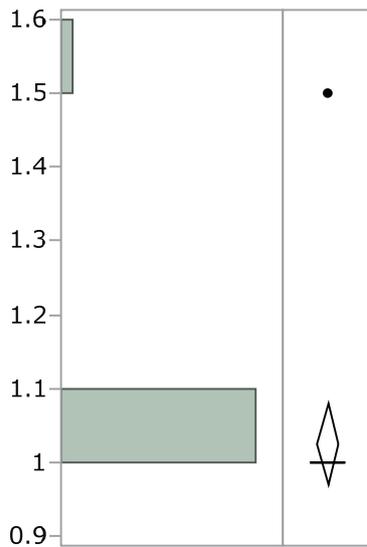
欠測値N 48

112施設中重複運用69施設（77.3%）で、主たる運用は病院車運用方式（52.3%）であった。

問2-2. ワークステーション方式のドクターカー運用の場合、1台に同乗する医療機関のスタッフについてお知らせください。(主たる運用方式が、病院車運用様式、ピックアップ方式の場合は本問には回答不要です)

医師 ( 名 )

図2-2-1. (ワークステーション方式) スタッフ数・医師



### 分位点

100.0%	最大値	1.5
99.5%		1.5
97.5%		1.5
90.0%		1
75.0%	四分位点	1
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		1
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

## 要約統計量

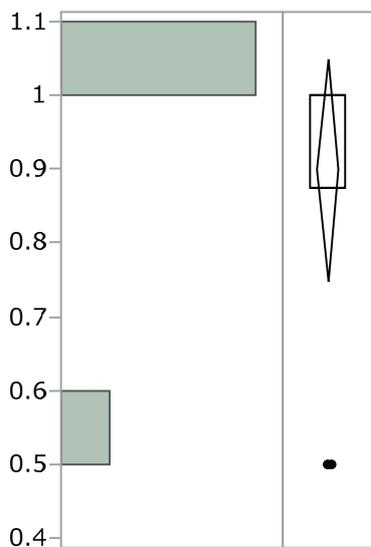
平均	1.0263158
標準偏差	0.1147079
平均の標準誤差	0.0263158
平均の上側95%	1.0816032
平均の下側95%	0.9710284
N	19

ワークステーション方式が主たる運用 19 施設の場合、多くの施設では医師 1 名の乗車が標準的で、最大数は 1.5 名であることが分かる。

問2-2. ワークステーション方式のドクターカー運用の場合、1台に同乗する医療機関のスタッフについてお知らせください。(主たる運用方式が、病院車運用様式、ピックアップ方式の場合は本問には回答不要です)

看護師 ( 名 )

図2-2-2. (ワークステーション方式) スタッフ数・看護師



### 分位点

100.0%	最大値	1
99.5%		1
97.5%		1
90.0%		1
75.0%	四分位点	1
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	0.875
10.0%		0.5
2.5%		0.5
0.5%		0.5
0.0%	最小値	0.5

## 要約統計量

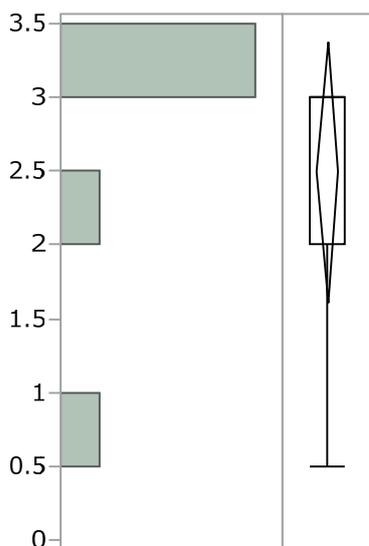
平均	0.9
標準偏差	0.2108185
平均の標準誤差	0.0666667
平均の上側95%	1.0508105
平均の下側95%	0.7491895
N	10

ワークステーション方式が主たる運用 19 施設の場合、10 施設では看護師 1 名の乗車が標準的であることが分かる。  
(F)

問2-2. ワークステーション方式のドクターカー運用の場合、1台に同乗する医療機関のスタッフについてお知らせください。(主たる運用方式が、病院車運用様式、ピックアップ方式の場合は本問には回答不要です)

救急救命士 ( 名 )

図2-2-3. (ワークステーション方式) スタッフ数・救急救命士



分位点

100.0%	最大値	3
99.5%		3
97.5%		3
90.0%		3
75.0%	四分位点	3
50.0%	中央値	3
25.0%	四分位点	2
10.0%		0.5
2.5%		0.5
0.5%		0.5
0.0%	最小値	0.5

## 要約統計量

平均	2.5
標準偏差	0.9574271
平均の標準誤差	0.3618734
平均の上側95%	3.3854724
平均の下側95%	1.6145276
N	7

ワークステーション方式が主たる運用 19 施設の場合、7 施設では救急救命士 2.5 名の乗車が標準的であることが分かる。(F)

問2-2. ワークステーション方式のドクターカー運用の場合、1台に同乗する医療機関のスタッフについてお知らせください。(主たる運用方式が、病院車運用様式、ピックアップ方式の場合は本問には回答不要です)

事務員( 名)

**度数**

水準	度数	割合
	0	1.00000

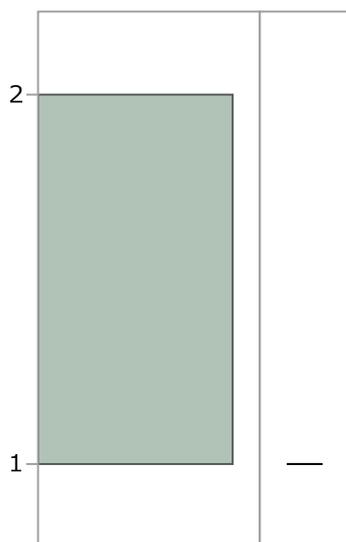
欠測値N 19

ワークステーション方式が主たる運用の場合、事務員が同乗している施設は確認されなかった。(F)

問2-2. ワークステーション方式のドクターカー運用の場合、1台に同乗する医療機関のスタッフについてお知らせください。(主たる運用方式が、病院車運用様式、ピックアップ方式の場合は本問には回答不要です)

●研修医  
 その他（職種） ・ 名 )

図2-2-4. (ワークステーション方式) スタッフ数・その他・人数



分位点

100.0%	最大値	1
99.5%		1
97.5%		1
90.0%		1
75.0%	四分位点	1
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		1
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

## 要約統計量

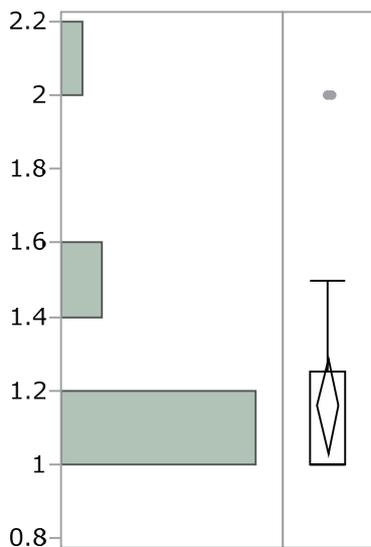
平均	1
標準偏差	.
平均の標準誤差	.
平均の上側95%	.
平均の下側95%	.
N	1

ワークステーション方式が主たる運用の場合、その他のスタッフは研修医が1人名同乗している。(F)

問2-3. ピックアップ方式のドクターカー運用の場合、1台に同乗する医療機関のスタッフについてお知らせください。(主たる運用方式が、病院車運用様式、ワークステーション方式の場合は本問には回答不要です。)

医師 (        名)

図2-3-1. (ピックアップ方式) スタッフ数・医師



分位点

100.0%	最大値	2
99.5%		2
97.5%		2
90.0%		1.7
75.0%	四分位点	1.25
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		1
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

## 要約統計量

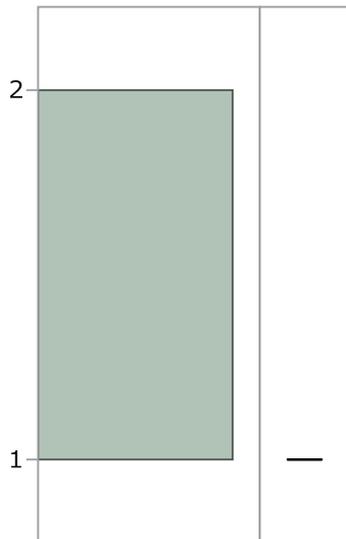
平均	1.16
標準偏差	0.3135815
平均の標準誤差	0.0627163
平均の上側95%	1.2894401
平均の下側95%	1.0305599
N	25

ピックアップ方式が主たる運用 27 施設の場合、25 施設では医師 1 名の乗車が標準的で最大値は 2 名であることが分かる。(F)

問2-3. ピックアップ方式のドクターカー運用の場合、1台に同乗する医療機関のスタッフについてお知らせください。(主たる運用方式が、病院車運用様式、ワークステーション方式の場合は本問には回答不要です。)

看護師 (            名)

図2-3-2. (ピックアップ方式) スタッフ数・看護師



**分位点**

100.0%	最大値	1
99.5%		1
97.5%		1
90.0%		1
75.0%	四分位点	1
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		1
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

## 要約統計量

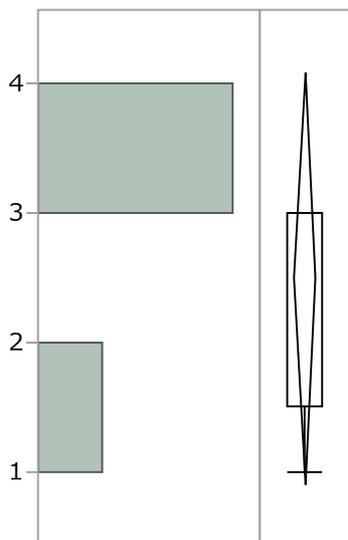
平均	1
標準偏差	0
平均の標準誤差	0
平均の上側95%	1
平均の下側95%	1
N	15

ピックアップ方式が主たる運用 27 施設の場合、15 施設では看護師 1 名の乗車が標準的であることが分かる。(F)

問2-3. ピックアップ方式のドクターカー運用の場合、1台に同乗する医療機関のスタッフについてお知らせください。(主たる運用方式が、病院車運用様式、ワークステーション方式の場合は本問には回答不要です。)

救急救命士 (        名)

図2-3-3. (ピックアップ方式) スタッフ数・救急救命士



**分位点**

100.0%	最大値	3
99.5%		3
97.5%		3
90.0%		3
75.0%	四分位点	3
50.0%	中央値	3
25.0%	四分位点	1.5
10.0%		1
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

## 要約統計量

平均	2.5
標準偏差	1
平均の標準誤差	0.5
平均の上側95%	4.0912232
平均の下側95%	0.9087768
N	4

ピックアップ方式が主たる運用 27 施設の場合、4 施設では救急士 2.5 名の乗車が標準的であることが分かる。(F)

問2-3. ピックアップ方式のドクターカー運用の場合、1台に同乗する医療機関のスタッフについてお知らせください。(主たる運用方式が、病院車運用様式、ワークステーション方式の場合は本問には回答不要です。)

事務員( 名)

**度数**

水準	度数	割合
	0	1.00000

欠測値N 27

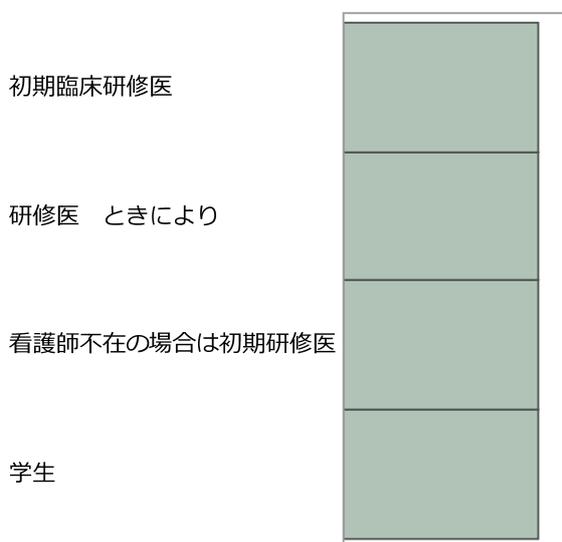
ピックアップ方式が主たる運用の場合、事務員が同乗している施設は確認されなかった。(F)

問2-3. ピックアップ方式のドクターカー運用の場合、1台に同乗する医療機関のスタッフについてお知らせください。(主たる運用方式が、病院車運用様式、ワークステーション方式の場合は本問には回答不要です。)

その他(職種) . (名)

- 初期臨床研修医
- 研修医 ときにより
- 看護師不在の場合は初期研修医
- 学生

図2-3-4. (ピックアップ方式) スタッフ数・その他・職種



**度数**

水準	度数	割合
学生	1	0.25000
看護師不在の場合は初期研修医	1	0.25000
研修医 ときにより	1	0.25000
初期臨床研修医	1	0.25000
合計	4	1.00000

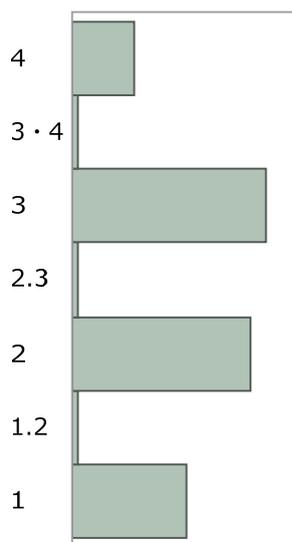
欠測値N 23

ピックアップ方式が主たる運用の場合、その他のスタッフは初期臨床研修医、ときにより研修医、看護師不在の場合は初期臨床研修医や学生が同乗している。1名の乗車が標準的であることが分かる。研修医や学生がいることから、実習の意味合いが強いものと考えられる。

問3. ドクターカーの運転手についてお知らせください。

1. ドクターカー専属運転手（ドクターカー運転や同乗以外の業務を行っていない）
2. 院内職員がドクターカー以外の業務との兼務で運転
3. 消防職員がドクターカー以外の業務との兼務で運転
4. その他（ )

図3.運転手



度数

水準	度数	割合
1	22	0.20370
1.2	1	0.00926
2	34	0.31481
2.3	1	0.00926
3	37	0.34259
3・4	1	0.00926
4	12	0.11111
合計	108	1.00000

欠測値N 9

回答を得た108施設の内、専属の運転手が22施設で、消防職員が他の業務と兼任して運転している施設が37施設であった。また、院内職員が兼任して運転している施設が34施設であった。ドクターカー以外の業務との兼務で運転している施設が多いことがわかる。

問3. **ドクターカーの運転手**についてお知らせください。

4. その他 (

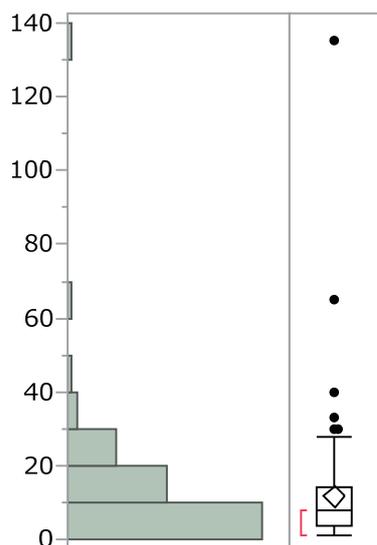
)

- タクシー会社からの派遣
- タクシー会社に依頼
- タクシー会社委託
- ドクターカー同乗医師が運転する場合もある
- ワークステーション 救急隊員
- 院内救急救命士が院内業務と兼務
- 院内職員及び委託運転手
- 業務委託の外部職員、ドクターカー以外の業務との兼務
- 警備・運転業務として委託
- 自施設車両運用の場合→院内職員が運転  
ワークステーション方式の場合→消防職員が運転
- 同乗の救急救命士3名のうち1名が運転
- 派遣職員がドクターカー以外の業務との兼務で運転
- 病院で委託している警備会社社員
- 平日、日中は2、夜間・休日は当直救命士
- 明確には決まっていない

委託しているタクシー会社や警備会社など外部の者がドクターカーを運転しているところが8施設あることが分かる。

問4. 貴施設においてドクターカーに搭乗する可能性がある医師総数をお知らせください。  
 (医師数 名 → そのうち、救急科専門医 名)

・ 図4-1. 医師総数



**分位点**

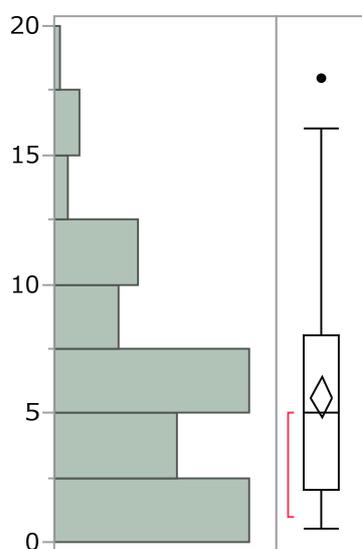
100.0%	最大値	135
99.5%		135
97.5%		45.625
90.0%		24.9
75.0%	四分位点	14
50.0%	中央値	8
25.0%	四分位点	4
10.0%		2
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

## 要約統計量

平均	11.968182
標準偏差	15.324663
平均の標準誤差	1.4611493
平均の上側95%	14.864132
平均の下側95%	9.0722314
N	110

ドクターカーに搭乗する可能性がある医師総数の平均は11.9人、中央値は8人である。最小値1人、最大値135人である。

図4-2.そのうち救急科専門医数



## 分位点

100.0%	最大値	18

99.5%		18
97.5%		15.25
90.0%		12
75.0%	四分位点	8
50.0%	中央値	5
25.0%	四分位点	2
10.0%		1
2.5%		1
0.5%		0.5
0.0%	最小値	0.5

### 要約統計量

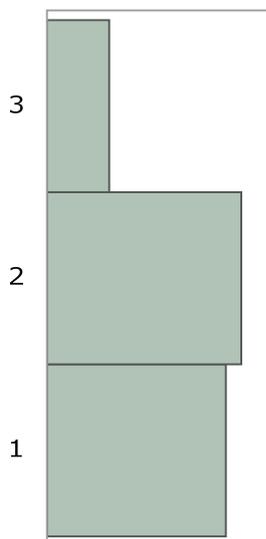
平均	5.646789
標準偏差	4.027856
平均の標準誤差	0.3857986
平均の上側95%	6.4115088
平均の下側95%	4.8820692
N	109

そのうち救急科専門医数の平均は5.6人、中央値は5人である。最小値0.5人、最大値18人である。

問5-1. ドクターカーの稼働曜日と稼働時間帯についてお知らせください。

【稼働曜日】 1. ほぼ毎日 2. 平日に限る 3. その他 ( )

図5-1-1.稼働曜日



度数

水準	度数	割合
1	46	0.41071
2	50	0.44643
3	16	0.14286
合計	112	1.00000

欠測値N 5

ほぼ毎日稼働している施設は46施設、平日のみ稼働している施設は50施設である。大多数の施設でドクターカーの稼働曜日が「毎日」もしくは「平日のみ」であることが分かる。

問5-1. ドクターカーの稼働曜日と稼働時間帯についてお知らせください。

3. その他 ( )

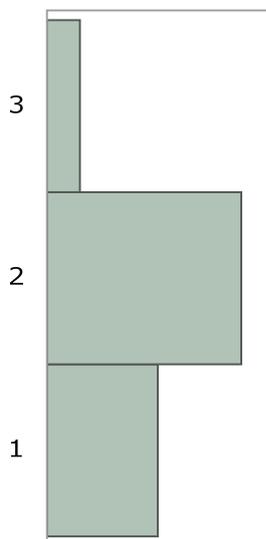
- 30日程
- 365日
- WS→平日 自施設→毎日24h
- いろいろ
- ピックアップ方式の場合は、ほぼ毎日。病院車運用方式の場合は、平日に限る。
- ヘリの補完
- 月・火・木曜日
- 月・水
- 出勤可能な時のみ
- 小児：毎日、成人・循環器：平日のみ
- 消防の要請に応じて
- 消防より依頼があった場合いつでも
- 転院搬送時とワークステーション 火・水のみ
- 必要となった場合
- 平日と祝日以外の土曜日
- 平日の月曜
- 要請があれば

その他の16施設では、要請に応じて稼働している施設や曜日ごとに稼働日を決めていることが分かる。

問5-1. ドクターカーの稼働曜日と稼働時間帯についてお知らせください。

【稼働時間帯】 1. 24時間 2. 日勤帯のみ 3. その他 ( )

図5-1-2.稼働時間帯



度数

水準	度数	割合
1	36	0.32727
2	63	0.57273
3	11	0.10000
合計	110	1.00000

欠測値N 7

24時間稼働は36施設（32.7%）、日勤帯のみ稼働は63施設（57.3%）で、ドクターカーを日勤帯のみ稼働している施設が多いことが分かる。

問5-1. ドクターカーの稼働曜日と稼働時間帯についてお知らせください。

3. その他 ( )

●17:00~23:00

●21時まで

●8:00-23:00

●8時30分~24時

他は要相談

●9時~19時

●いろいろ

●ピックアップ方式の場合は、24時間。病院車運用方式の場合は、日勤帯のみ。

●ヘリの補完

●小児:9~21時、成人・循環器:9~17時

●消防の要請に応じて

●同上

●日没(ドクターヘリ終了)~23時

その他の11施設をみると、24時間稼働はしていないが、日没後も稼働している施設も複数あることが分かる。

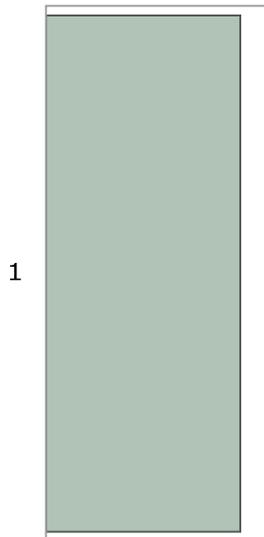
問5-2. 「毎日24時間稼働」していない場合には、その理由をお知らせください。(複数回答可)

1. 人員確保困難

→ 特に確保困難な職種を下記に回答ください(複数回答可)

( 医師 ・ 看護師 ・ 救急救命士 ・ その他 )

図5-2-1.毎日24時間稼働していない場合の理由・1.人員確保困難



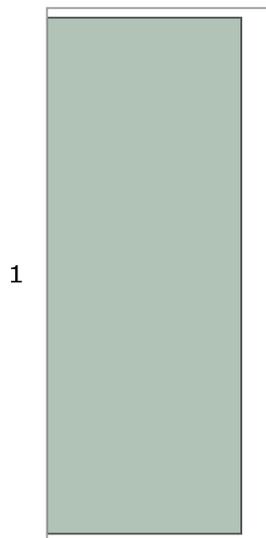
度数

水準	度数	割合
1	69	1.00000
合計	69	1.00000

欠測値N 48

74施設中で人員確保が困難な施設が69施設で、24時間稼働できない施設が多いことが分かる。

図5-2-2.人員確保困難・医師



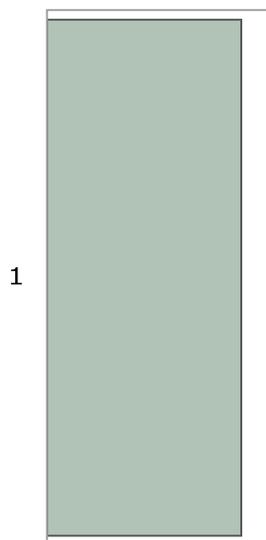
度数

水準	度数	割合
1	52	1.00000
合計	52	1.00000

欠測値N 65

69施設の中で52施設が、医師の人員確保が困難であることが分かる。

図5-2-3.人員確保困難・看護師



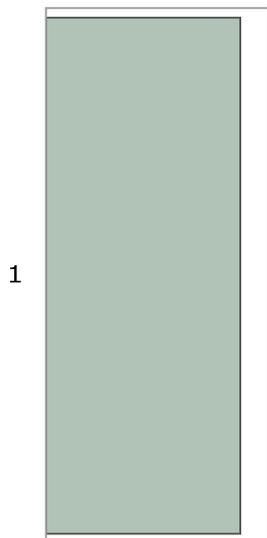
度数

水準	度数	割合
1	33	1.00000
合計	33	1.00000

欠測値N 84

69施設の中で33施設が、看護師も人員確保が困難であることが分かる。

図5-2-4.人員確保困難・救急救命医



度数

水準	度数	割合
1	15	1.00000
合計	15	1.00000

欠測値N 102

69施設の中で15施設が、救命医が確保困難であることが分かる。

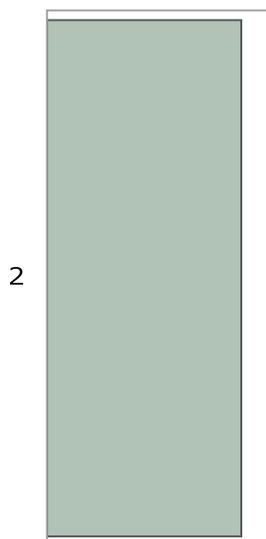
問5-2.人員確保困難・その他

- 1
- 運転手（24施設）
- 消防職員が院内研修隊として業務しているため、8：30～16：30で終了としているため

その他では、24施設が運転手の確保が困難であると回答している。

問5-2. 「毎日 24 時間稼働」していない場合には、その理由をお知らせください。(複数回答可)  
2. 経費不足

図5-2-5.理由・2.経費不足



度数

水準	度数	割合
2	16	1.00000
合計	16	1.00000

欠測値N 101

74施設の中で、経費不足によって24時間稼働できない施設は、16施設である。

問5-2. 「毎日 24 時間稼働」していない場合には、その理由をお知らせください。(複数回答可)

3. その他 ( )

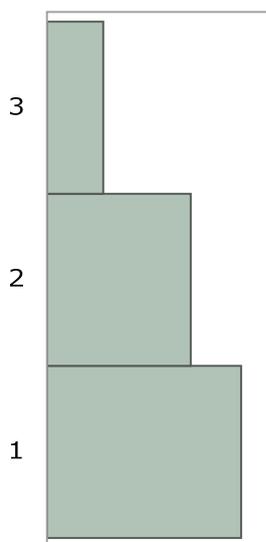
- ※ピックアップの協定はありますが数回/年程度
- 3 出場できる医師、看護師ともに登録制であるため。登録医師が不在の場合は出場できない
- 市との契約
- 救急科の医師が2人のため、病院の診療時間内での運用
- 昨年の12月にスタートしたばかりなので様子を見ている
- 車両がない
- 消防の規定
- 必要時要請があり対応。マニュアルなし
- 夜間緊急走行が危険であるため

他所との規則により24時間稼働できない施設などもあり、24時間稼働できない理由は多様であることが分かる。

問6-1. (病院車運用方式のみ回答ください) ドクターカー購入の費用負担について

1. 全額病院負担で、補助金は受けていない
2. 病院負担だが、補助金を使用している
3. その他 ( )

図6-1.費用負担



度数

水準	度数	割合
1	38	0.49351
2	28	0.36364
3	11	0.14286
合計	77	1.00000

欠測値N 1

病院車運用方式 78 施設では、全額病院負担で補助金は受けていない施設が 38 施設、病院負担だが補助金を使用している施設が 28 施設である。費用を病院で負担している施設が多いことが分かる。(F)

問6-1. (病院車運用方式のみ回答ください) **ドクターカー購入の費用負担について**

3. その他 (

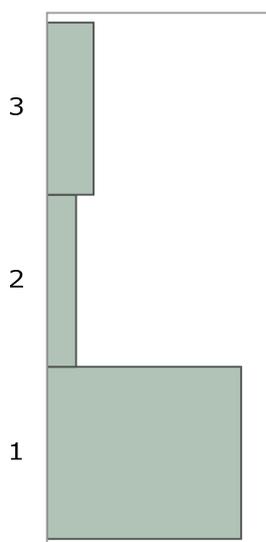
- 1台は圏域定住自立圏事業の負担金をあてている  
2台は寄付による
- DMATcarで県負担
- H30.4 キフにてDr car購入
- 寄付 以前使用していた救急車タイプは1になります。
- 県立病院であり、公費での配備である
- 車両本体は県あっせんの寄付 オプションは病院負担 トラック協会からの DMAT 病院
- 消防車両の利用
- 詳細不明
- 全額補助金
- 病院負担だが、東日本大震災後の寄付金を使用している
- 府の所要物を貸与されている

県などから負担金や寄付にて購入されていることが分かる。

問6-2. (病院車運用方式のみ回答ください) 運転手の費用について

1. 全額病院負担で、補助金は受けていない
2. 病院負担だが、補助金を使用している
3. その他 ( )

図6-2.運転手の費用



度数

水準	度数	割合
1	54	0.72000
2	8	0.10667
3	13	0.17333
合計	75	1.00000

欠測値N 3

病院車運用方式78施設では、大多数の施設で、全額病院負担で補助金は受けていないことが分かる。(F)

問6-2. (病院車運用方式のみ回答ください) **運転手の費用について**

3. その他 ( )

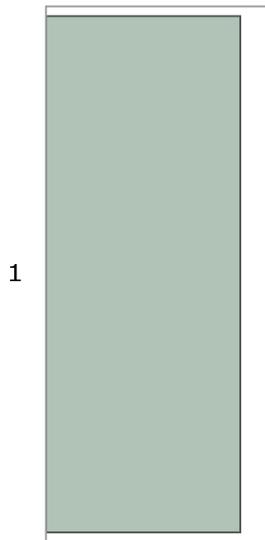
- Driverは消防から派遣
- スタッフの給料含まれる
- なし
- 委託研修
- 院内職員で運用し手当等はなし
- 救命士両教育実習生を運転手としている
- 消防職員：病院実習を兼ねる 月・火・木・金、病院職員（水のみ）：業務時間内
- 全額補助金
- 八戸圏域連携中枢都市圏事業の負担金をあてている
- 病院の事務職員が運転手のため特に費用はない
- 病院実習の一貫として消防職員が運転しているため費用はかかっていない
- 病院実習の救命士にお願いしている。
- 病院実習中の救命士
- 府からの委託料金

行政からの3施設と2の回答を含めると11施設は、何らかの補助金で運用されている。更に、7施設では実習の一環として消防職員等が運転している。病院職員が運転していたりするため、費用がかかっていない施設が多いことが分かる。

問7. 主に算定している診療報酬についてお答えください。(複数選択可)

1. 救急搬送診療料

・ 図7-1. 診療報酬・1. 救急搬送診療料



度数

水準	度数	割合
1	72	1.00000
合計	72	1.00000

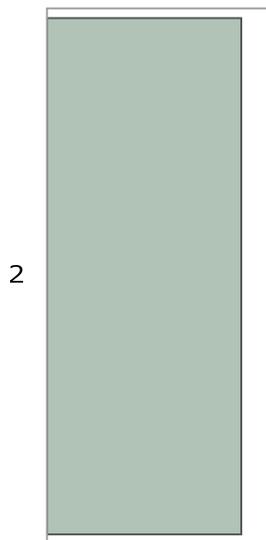
欠測値N 45

運用112施設中、救急搬送診療料として診療報酬を得ている施設が72施設（80.6%）である。

問7. 主に算定している診療報酬についてお答えください。(複数選択可)

2. 初診料

図7-2.診療報酬・2.初診料



度数

水準	度数	割合
2	45	1.00000
合計	45	1.00000

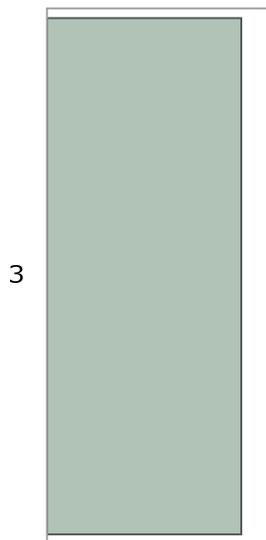
欠測値N 72

初診料として診療報酬を得ている施設が45施設 (50.4%) である。

問7. 主に算定している診療報酬についてお答えください。(複数選択可)

3. 往診料

図7-3.診療報酬・3.往診料



度数

水準	度数	割合
3	69	1.00000
合計	69	1.00000

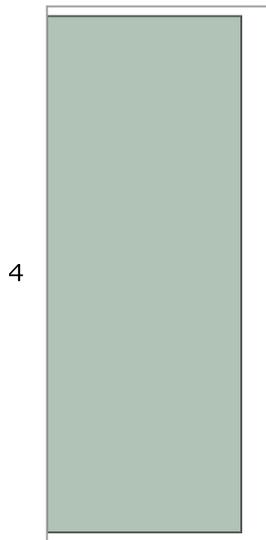
欠測値N 48

往診料として診療報酬を得ている施設が69施設 (77.3%) である。

問7. 主に算定している診療報酬についてお答えください。(複数選択可)

4. 救急救命管理料

図7-4.診療報酬・4.救急救命管理料



**度数**

水準	度数	割合
4	17	1.00000
合計	17	1.00000

欠測値N 100

救急救命管理料として診療報酬を得ている施設が17施設 (19.0%) である。

問7. 主に算定している診療報酬についてお答えください。(複数選択可)

5. その他 (

)

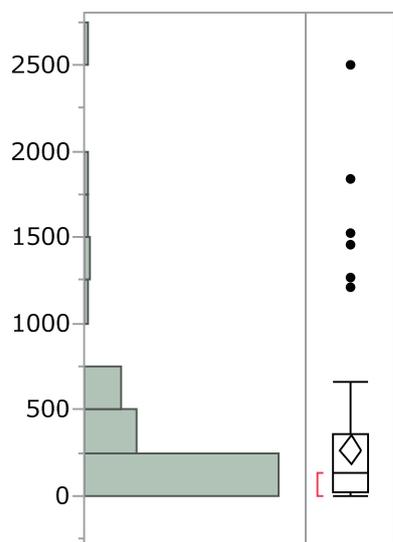
- なし(6施設)
- 完全無償
- 自院へ搬送した際の診療報酬のみ
- 点滴、処置等を行った場合はその費用
- 特定集中管理料

診療報酬を得ていない施設が6施設あることが分かる。また、自院搬送や処置を行った場合のみ診療報酬を得ている施設もある。

問8. ドクターカーとしての年間運用件数についてお知らせください。またそのうち、自病院へ搬送している件数についてもお知らせください（後者は件数が不明であれば、〇〇%と概算でも可）

出動件数 件/年（平成28年度）

図8-1.年間運用件数



分位点

100.0%	最大値	2500
99.5%		2500
97.5%		1686
90.0%		622
75.0%	四分位点	359
50.0%	中央値	132
25.0%	四分位点	25
10.0%		3
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

## 要約統計量

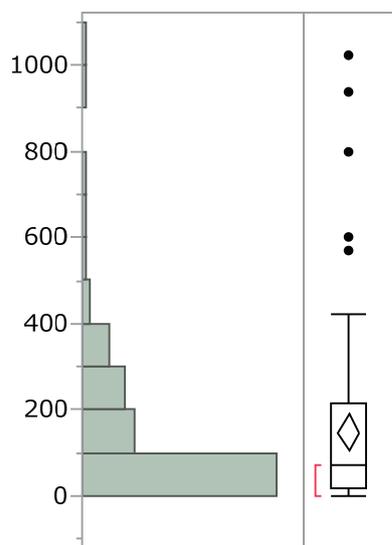
平均	271.57576
標準偏差	412.25852
平均の標準誤差	41.43354
平均の上側95%	353.79927
平均の下側95%	189.35225
N	99

年間出動件数の平均は 271.5 件、中央値は 132 件である。

問8. ドクターカーとしての年間運用件数についてお知らせください。またそのうち、自病院へ搬送している件数についてもお知らせください（後者は件数が不明であれば、〇〇%と概算でも可）

自病院搬送件数 件／年（平成28年度）

図8-2.そのうち、自病院搬送件数



## 要約統計量

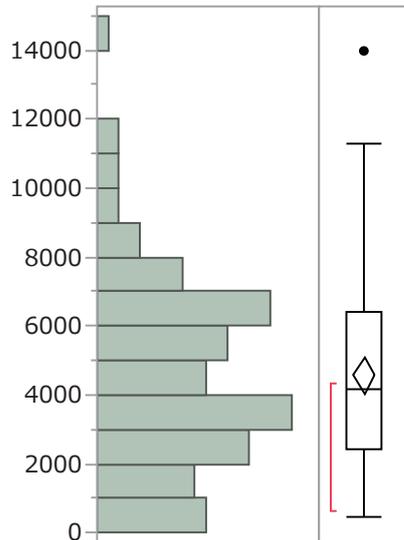
平均	149.36667
標準偏差	197.8618
平均の標準誤差	20.856465
平均の上側95%	190.80802
平均の下側95%	107.92532
N	90

そのうち、自病院に搬送している件数の平均は 149.3 件、中央値は 70 件である。

問9. 貴センターの年間救急車受け入れ件数についてお知らせください。

救急車の受け入れ件数 件/年

図9.年間救急車受入件数



分位点

100.0%	最大値	14000
99.5%		14000
97.5%		11212.6
90.0%		8023.3
75.0%	四分位点	6392.5
50.0%	中央値	4137.5
25.0%	四分位点	2400
10.0%		998.2
2.5%		623.2
0.5%		451
0.0%	最小値	451

## 要約統計量

平均	4588.8704
標準偏差	2741.7988
平均の標準誤差	263.82972
平均の上側95%	5111.882
平均の下側95%	4065.8587
N	108

年間救急車受け入れ件数の平均は 4588.8 件、中央値は 4137.5 件である。大多数の施設で年間 4000 件以上の救急車を受け入れていることが分かる。



問10-1. ドクターカー要請に関する**傷病者の基準**について

4. その他 (

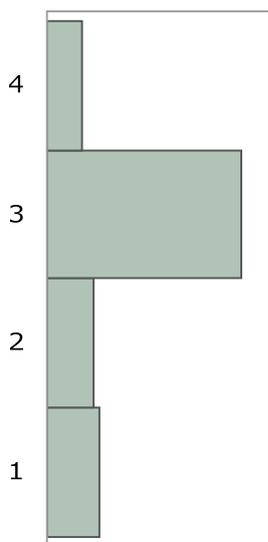
- キーワード方式
- ドクヘリ要請に準ずる
- 院内で決定しMCではなく消防と協定を結んでおります
- 協定消防が必要と判断すれば要請される。これ以上の基準なし。
- 広域消防で基準を決定
- 消防局の現場要請基準に従う
- 消防局基準あり
- 消防庁との連携になります。
- ドクターカー協議会で協議している
- 市消防局内の基準あり
- 要請を受ける消防組合と要請の基準について協議している
- 要請基準あり（病院と消防本部で協議し決定している）
- 要請基準あり。市高度救急隊運用連絡会において決定している。
- 要請基準あり。消防本部と当院救命Cで協議した

その他を見ると、MC協議会も承認している4施設を含めると養成基準あり（院内+MC協議会）は49施設、消防と協議した基準である12施設あるので要請基準あり（MC協議会なし）に当てはまる施設は42施設である。要請基準に関して、ほとんどの施設が消防やMC協議会と協議した基準で運用されていることが分かる。

問10-2. 搬送距離や搬送予想時間等により要請を受けない基準があるかどうかお聞きします。  
 (以下、「要請範囲等の基準」と称します。)

1. 要請範囲等の基準あり (院内で決定し、地域MC協議会で協議している。)
2. 要請範囲等の基準あり (院内で決定し、地域MC協議会で協議していない。)
3. 要請範囲等の基準なし (その場の判断に任されている)
4. その他 ( )

図10-2.要請を受けない基準の有無



度数

水準	度数	割合
1	18	0.15929
2	16	0.14159
3	67	0.59292
4	12	0.10619
合計	113	1.00000

欠測値N 4

大多数の施設で、要請を受けない基準はないことが分かる。

問10-2. 搬送距離や搬送予想時間等により要請を受けない基準があるかどうかお聞きします。  
(以下、「要請範囲等の基準」と称します。)

4. その他 ( )

- MC外の消防への出動はない(一部あり)
- 基準あり MC協議会にて決定
- 距離や時間による基準はありません
- 県による基準あり(県ドクターヘリを第一選択としている地域でドクターヘリが出動可能な場合)
- 広域消防管轄範囲
- 市との契約のため市内全てのみ

医療圏内の他市の場合、原則は不可

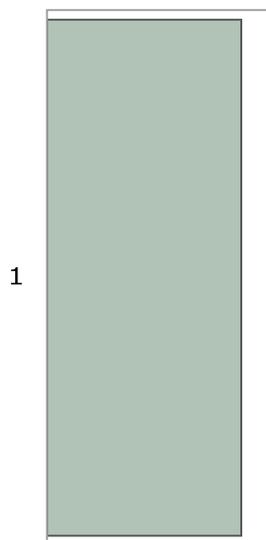
- 市の事業であり要請範囲は市に限定されることが市高度救急隊運用連絡会で定められている。
- 人手不足
- ドクターカー協議会で協議している
- 当該消防の担当範囲に限ります
- 必ずうける
- 要請あれば全て出動としています
- 要請を受ける消防組合と要請の基準について協議している

要請範囲に関して、限定がある基準は1と2およびその他の9施設を含めると43施設(48.2%)で要請範囲の制限があることが分かる。





図10-3-3.基準あり・他院



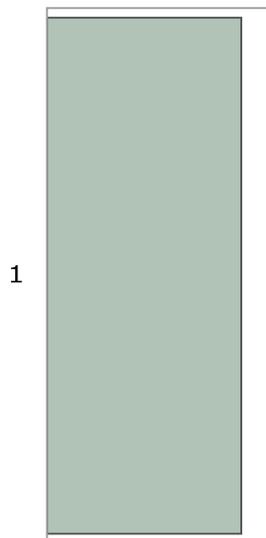
度数

水準	度数	割合
1	2	1.00000
合計	2	1.00000

欠測値N 115

傷病に応じて自病院以外の病院へ搬送するという基準がある施設は2施設と少数である。

図10-3-4.基準あり・地域MC協議会



度数

水準	度数	割合
1	7	1.00000
合計	7	1.00000

欠測値N 110

MC協議会で協議した基準がある施設は7施設である。

### 問10-3.基準あり・その他

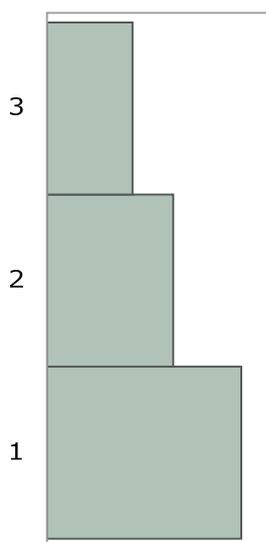
- 3次救急病院
- ドクターカー運行調整委員会を組織
- 基本自院
  - かかりつけでの軽症の場合他院を考慮
- 出勤医師と救急隊長の判断
- 消防庁判断
- 東消搬送基準

その他は、上記の内容である

問 1 1. ドクターカーの運用や症例を事後検証する場についてお知らせください。

1. 事後検証を院内及び地域 MC 協議会の双方（または合同）で実施
2. 事後検証を院内のみで実施
3. 実施していない

図11.事後検証する場



度数

水準	度数	割合
1	54	0.47788
2	35	0.30973
3	24	0.21239
合計	113	1.00000

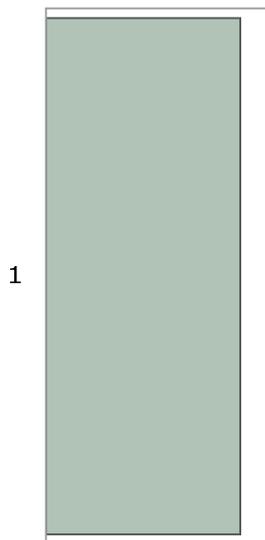
欠測値N 4

院内だけでなく MC 協議会でも事後検証している施設は 54 施設 (47.7%) で、院内のみの事後検証を行っている施設は 35 施設 (30.9%) である。しかし、事後検証を実施していない施設が 24 施設 (21.2%) もあることが分かる。

問12. ドクターカー運用にあたってお困りの点についてお知らせください。(複数回答可)

1. 特に問題点はない

図12-1.お困りの点・1.ない



度数

水準	度数	割合
1	12	1.00000
合計	12	1.00000

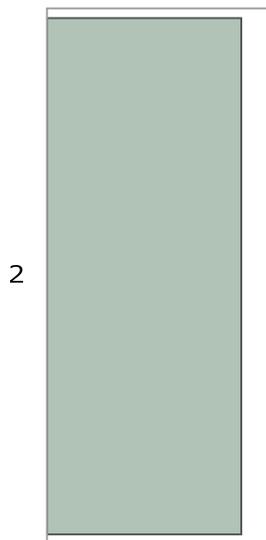
欠測値N 105

ドクターカー運用にあたって特に問題点はないと答えた施設は12施設（10.7%）である。

問12. ドクターカー運用にあたってお困りの点についてお知らせください。(複数回答可)

2. 同乗する医師の確保

図12-2.お困りの点・2.医師の確保



度数

水準	度数	割合
2	58	1.00000
合計	58	1.00000

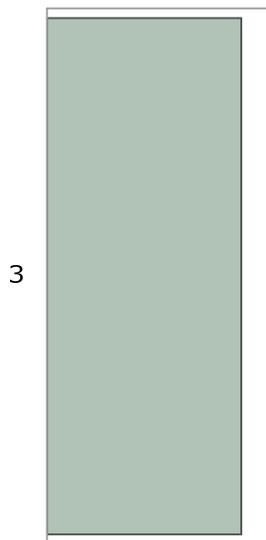
欠測値N 59

ドクターカー運用にあたって同乗する医師の確保に困っている施設は58施設（51.8%）である。

問12. ドクターカー運用にあたってお困りの点についてお知らせください。(複数回答可)

3. 同乗する看護師の確保

図12-3.お困りの点・3.看護師の確保



度数

水準	度数	割合
3	50	1.00000
合計	50	1.00000

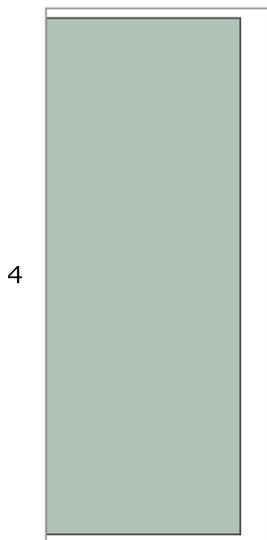
欠測値N 67

ドクターカー運用にあたって同乗する看護師の確保に困っている施設は50施設（44.6%）である。

問12. ドクターカー運用にあたってお困りの点についてお知らせください。(複数回答可)

4. 運転手の確保

図12-4.お困りの点・4.運転手の確保



度数

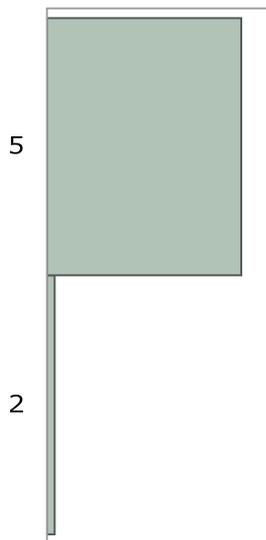
水準	度数	割合
4	51	1.00000
合計	51	1.00000

欠測値N 66

ドクターカー運用にあたって運転手の確保に困っている施設は51施設（45.5%）である。

問12. ドクターカー運用にあたってお困りの点についてお知らせください。(複数回答可)  
 5. 人件費

図12-5.お困りの点・5.人件費



度数

水準	度数	割合
2	1	0.03846
5	25	0.96154
合計	26	1.00000

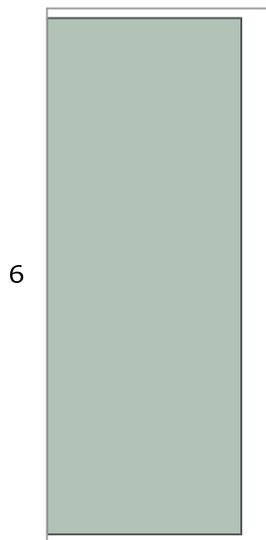
欠測値N 91

ドクターカー運用にあたって人件費に困っている施設は25施設 (22.3%) である。

問12. ドクターカー運用にあたってお困りの点についてお知らせください。(複数回答可)

6. 運行経費

図12-6.お困りの点・6.運行経費



度数

水準	度数	割合
6	41	1.00000
合計	41	1.00000

欠測値N 76

ドクターカー運用にあたって運行経費に困っている施設は41施設 (36.6%) である。

問 1 2. ドクターカー運用にあたってお困りの点についてお知らせください。(複数回答可)

7. その他(自由記載)

- 7
- 7 院内のコンセンサス
- 7 機器のメンテナンス データ登録
- あくまで消防の車両が院内にある時間帯のみであり、本当に必要な早朝夜間には運用できていない
- 事実上あつてない状況
- 手術室や病棟の確保が困難な場合がある
- 重複要請に対応できる場合とできない場合がある
- 小児・成人・循環器が同一車両で各々ドクターカー運用していることに関する諸問題
- 通信等の費用
- 病院所有のドクターカーに関する病院幹部の理解が少ない
- 保険

施設は、費用や管理、運用状況など様々なことに困っていることが分かる。

問13. その他、ご意見や補足がございましたらご記入ください。

- Drカーに関する「一般的な要請基準」「現場での活動基準（何をどこまで、どこで実施すべき）」などいわゆるスタンダードがない
- 地域性が高く、各地で様々と思うが、ある程度スタンダード 手本がほしい
- 24時間365日体制が理想ですが、準備（主に人員確保）が難しいです。
- 車両、装備品、資器材の費用の確保。車両事故等が発生した場合の対応。乗務するスタッフの教育と標準化などを課題としています。
- 当院では、ドクターヘリの運用は積極的に行っていますが、ドクターカーについては問題が多くあり、散発的な活動に限られているのが現状です。
- 当院ドクターカー運用は循環器内科紹介患者のおむかえとNICU新生児のおむかえに使用しているものだけです。
- 当院のシステムは厳密に定義するとドクターカーとは言わないことになっています。「医師等同乗救急自動車」となっています。全国初のシステムです。（長崎医療センター）
- 当大学校では特殊な背景を要する消防運用型であり本来のドクターカーの運用と若干異なる点もあり、要請基準も緩和したものの件数が変わっていないのが現状です。（防衛医科大学校病院）

## 病院車運用方式の全国実態集計

(Q1～Q5-3)

- 本ページ以降は、「病院車運用方式（自施設の車両に医師が乗車するドクターカーの方式）」を運用している病院（施設）を対象に、運用車両の特性や搭載機器等を集計している。

## ドクターカー（病院車運用方式）の全国実態集計

Q1～Q2

### ドクターカー（病院車運用方式）の車両特性

- 本セクションの各設問は車両単位での回答である。



Q1. ドクターカーに利用される**車両の車種**についてお知らせください。

3. その他 (

)

Q1	合計	1台目	二台目	三台目
3	0	0	0	0

その他の車種をドクターカーに利用している施設は確認されなかった。

Q2. ドクターカーに利用される**車両の年式、走行距離**をお知らせください  
 年式 ( )

図Q2-1\_合算.車両の年式

Q2	年式	合計	1台目	二台目	三台目
	9	1	1	0	0
	13	1	0	1	0
	14	2	1	1	0
	15	2	1	0	1
	16	0	0	0	0
	17	4	3	1	0
	18	2	1	1	0
	19	2	2	0	0
	20	2	1	0	1
	21	5	5	0	0
	22	9	7	2	0
	23	6	5	1	0
	24	10	8	2	0
	25	12	11	1	0
	26	12	9	3	0
	27	5	4	1	0
	28	6	6	0	0
	29	6	5	0	1
	30	0	0	0	0

様々な年式の車両が使用されていることが分かる。

Q2. ドクターカーに利用される車両の年式、走行距離をお知らせください  
(購入時： 新車 )

**図Q2-2\_合算.購入時新車**

Q2	合計	1台目	二台目	三台目
新車	83	67	14	2

新車のドクターカーを購入した施設は83施設である。

Q2. ドクターカーに利用される車両の年式、走行距離をお知らせください  
(購入時：中古車 )

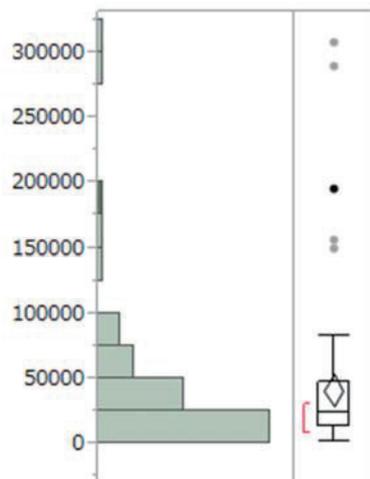
**図Q2-3-a.購入時中古車**

Q2	合計	1台目	二台目	三台目
中古車	7	6	0	1

中古の車両を購入した施設は7施設である。

Q2. ドクターカーに利用される車両の年式、走行距離をお知らせください  
 総走行距離 ( )

図Q2-4\_合算.走行距離



分位点

分位点		
100.0%	最大値	307445
99.5%		307445
97.5%		291588
90.0%		80000
75.0%	四分位点	47358
50.0%	中央値	24213
25.0%	四分位点	13517
10.0%		4535.6
2.5%		1761.8
0.5%		1508
0.0%	最小値	1508

## 要約統計量

平均	41158.1
標準偏差	55048.9
平均の標準誤差	6356.5
平均の上側 95%	53823.8
平均の下側 95%	28492.5
N	75.0

走行距離の平均は約 41, 000 km で、中央値は約 24, 200 km である。

Q2. ドクターカーに利用される車両の運用状況についてお知らせください。

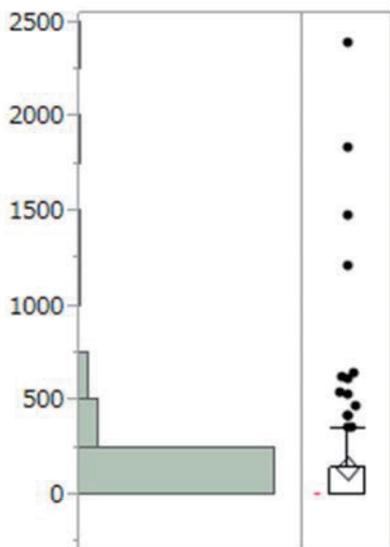
(年間件数は、ドクターカーに利用される車両がドクターカー以外にも兼用されている場合も含めてお答えください。)

運用状況	年間件数	(左のうち、医師同乗ありの件数)
現場等※への駆けつけ型		
病院間患者転送		

※現場等とは、傷病発生地点または搬送途上の救急車との合流地点を指します。

※消防運用型(タイプB)は本設問の対象外です。

図Q2-5\_合算.(現場への駆け付け型)年間件数



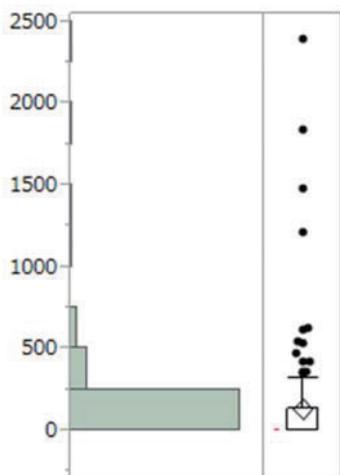
分位点		
100.0%	最大値	2400
99.5%		2400
97.5%		1494.4
90.0%		418.6
75.0%	四分位点	140
50.0%	中央値	3
25.0%	四分位点	0
10.0%		0
2.5%		0
0.5%		0
0.0%	最小値	0

要約統計量	
平均	143.1
標準偏差	347.1
N	117
ゼロの個数	53

現場への駆け付け型での年間件数は1件から2,400件まであり、幅が広がった。ただし、中央値は年間3件であった。

図Q2-6\_合算.(現場への駆け付け型) 医師同乗ありの件数

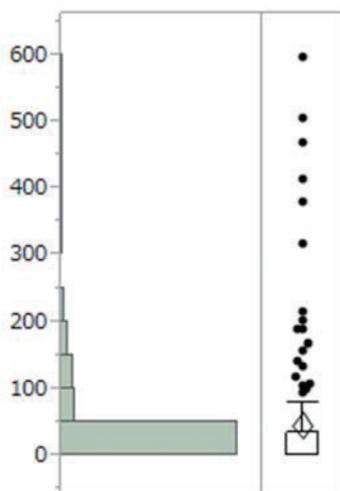


分位点		
100.0%	最大値	2400
99.5%		2400
97.5%		1494.4
90.0%		370
75.0%	四分位点	132.5
50.0%	中央値	3
25.0%	四分位点	0
10.0%		0
2.5%		0
0.5%		0
0.0%	最小値	0

要約統計量	
平均	135.9
標準偏差	344.3
N	117
ゼロの個数	55

現場への駆け付け型での医師同乗ありの件数は1件から2,400件まであり、幅が広がった。ただし、中央値は年間3件であった。

図Q2-7\_合算. (病院間患者移送) 年間件数

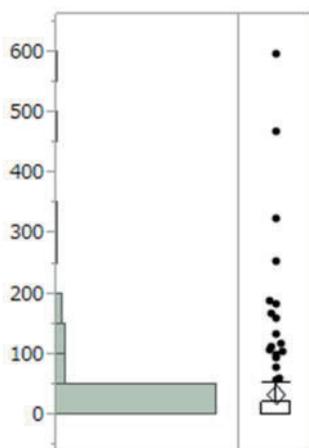


分位点		
100.0%	最大値	598
99.5%		598
97.5%		470.8
90.0%		159
75.0%	四分位点	35.5
50.0%	中央値	0
25.0%	四分位点	0
10.0%		0
2.5%		0
0.5%		0
0.0%	最小値	0

要約統計量	
平均	45.9
標準偏差	108
N	117
ゼロの個数	69

病院間患者移送の年間件数は1件から598件までと幅が広がったが、中央値は0であった。

図Q2-8\_合算.(病院間患者移送) 医師同乗ありの件数



分位点		
100.0%	最大値	598
99.5%		598
97.5%		333.15
90.0%		108.8
75.0%	四分位点	21.5
50.0%	中央値	0
25.0%	四分位点	0
10.0%		0
2.5%		0
0.5%		0
0.0%	最小値	0

要約統計量	
平均	33.1
標準偏差	86.2
N	117
ゼロの個数	71

年間患者移送の医師同乗ありの件数は1件から598件までと幅が広がったが、中央値は0であった。

## 1台目

Q1. ドクターカーに利用される**車両の車種**についてお知らせください。

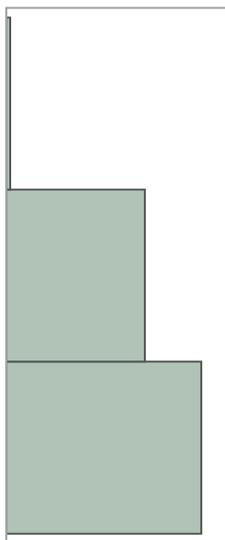
4. 傷病者の収容が可能な車両（救急車タイプ）
5. 医療従事者の搬送のみ可能な車両（Rapid Response Car：乗用車タイプ）
6. その他（ )

### 図Q1-a.車両の車種

2  
（1の救急車タイプは2017年12月に引退しました。2の医療従事者のみ搬送可能な車両は2016年8月から開始。）

2

1



### 度数

水準	度数	割合
1	45	0.57692
2	32	0.41026
2 （1の救急車タイプは2017年12月に引退しました。2の医療従事者のみ搬送可能な車両は2016年8月から開始。）	1	0.01282
合計	78	1.00000

欠測値N 39

傷病者の収容が可能な救急車タイプを使用している施設が多いことが分かる。

Q1. ドクターカーに利用される**車両の車種**についてお知らせください。

3. その他 (

)

**度数**

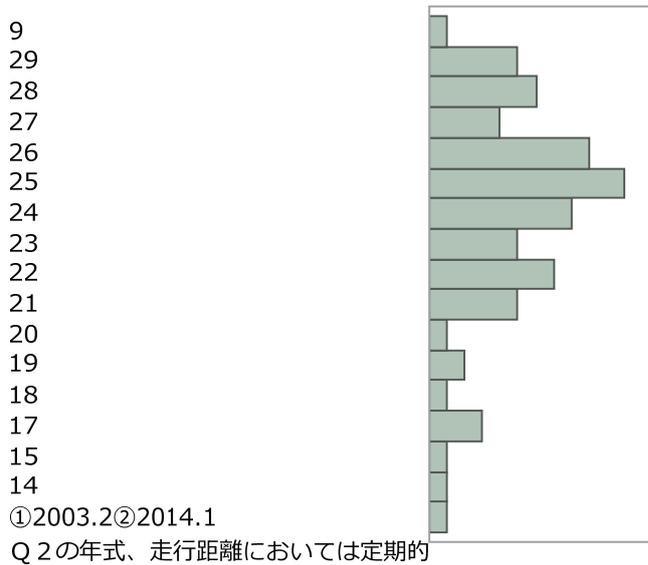
水準	度数	割合
	0	1.00000

欠測値N 117

その他の車種をドクターカーに利用している施設は確認されなかった。

Q2. ドクターカーに利用される車両の年式、走行距離をお知らせください  
年式 ( )

図Q2-1-a.車両の年式



度数

水準	度数	割合
①2003.2②2014.1 Q2の年式、走行距離においては定期的に入れ替えながら同じ運用で使用しているため別集計は行っていない。(H30.2.28)	1	0.01408
14	1	0.01408
15	1	0.01408
17	3	0.04225
18	1	0.01408
19	2	0.02817
20	1	0.01408
21	5	0.07042
22	7	0.09859
23	5	0.07042
24	8	0.11268
25	11	0.15493

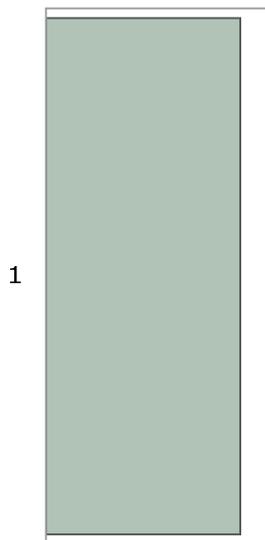
水準	度数	割合
26	9	0.12676
27	4	0.05634
28	6	0.08451
29	5	0.07042
9	1	0.01408
合計	71	1.00000

欠測値N 46

様々な年式の車両が使用されていることが分かる。

Q2. ドクターカーに利用される車両の年式、走行距離をお知らせください  
(購入時： 新車 )

図Q2-2-a.購入時新車



度数

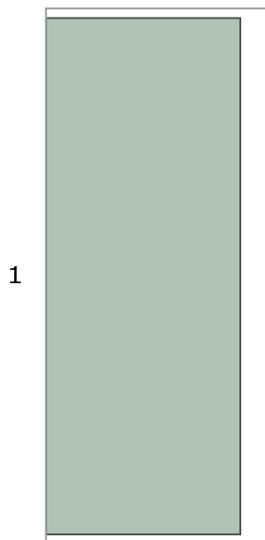
水準	度数	割合
1	67	1.00000
合計	67	1.00000

欠測値N 50

新車のドクターカーを購入した施設は67施設である。

Q2. ドクターカーに利用される車両の年式、走行距離をお知らせください  
(購入時：中古車 )

図Q2-3-a.購入時中古車



度数

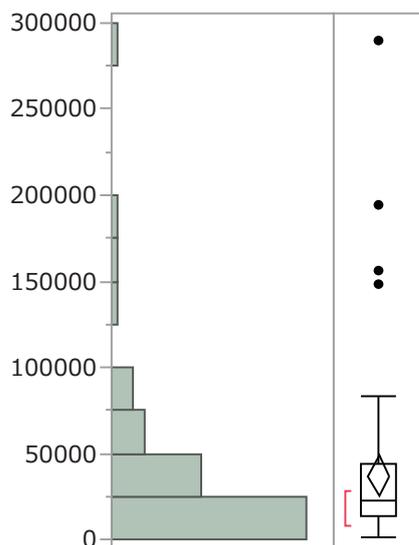
水準	度数	割合
1	6	1.00000
合計	6	1.00000

欠測値N 111

中古の車両を購入した施設は6施設である。

Q2. ドクターカーに利用される車両の年式、走行距離をお知らせください  
 総走行距離 ( )

図Q2-4-a.走行距離



分位点

100.0%	最大値	289826
99.5%		289826
97.5%		227874
90.0%		80000
75.0%	四分位点	44085.5
50.0%	中央値	22526
25.0%	四分位点	13150
10.0%		3185
2.5%		1691.3
0.5%		1508
0.0%	最小値	1508

## 要約統計量

平均	37513.538
標準偏差	48106.953
平均の標準誤差	5966.9331
平均の上側95%	49433.858
平均の下側95%	25593.219
N	65

走行距離の平均は約 37,000 km で、中央値は約 22,000 km である。

Q2. ドクターカーに利用される車両の運用状況についてお知らせください。

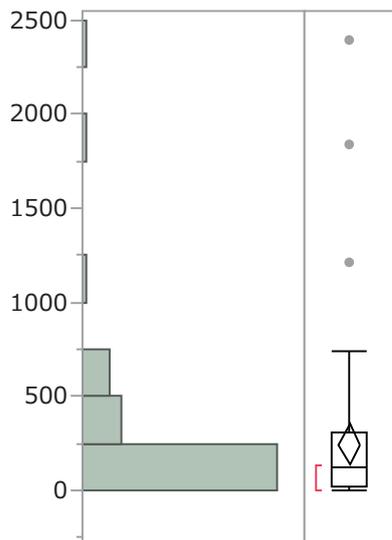
(年間件数は、ドクターカーに利用される車両がドクターカー以外にも兼用されている場合も含めてお答えください。)

運用状況	年間件数	(左のうち、医師同乗ありの件数)
現場等※への駆けつけ型		
病院間患者転送		

※現場等とは、傷病発生地点または搬送途上の救急車との合流地点を指します。

※消防運用型（タイプB）は本設問の対象外です。

図Q2-5-a. (現場への駆け付け型) 年間件数



分位点

100.0%	最大値	2400
99.5%		2400
97.5%		2080.3
90.0%		620.4
75.0%	四分位点	311

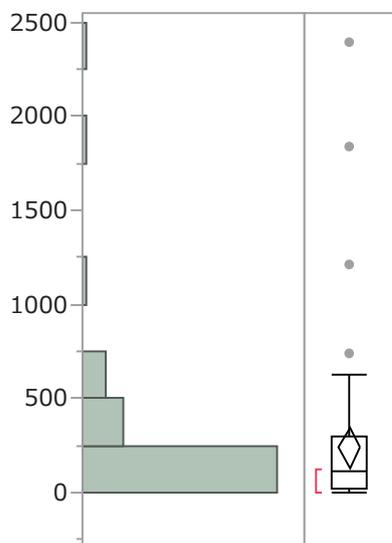
50.0%	中央値	125.5
25.0%	四分位点	19.5
10.0%		3.6
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

### 要約統計量

平均	249.32258
標準偏差	417.61637
平均の標準誤差	53.037332
平均の上側95%	355.37728
平均の下側95%	143.26788
N	62

現場への駆け付け型での年間件数は1件から2,400件まであり、幅が広がった。

図Q2-6-a. (現場への駆け付け型) 医師同乗ありの件数



**分位点**

100.0%	最大値	2400
99.5%		2400
97.5%		2108.1
90.0%		611.3
75.0%	四分位点	298.5
50.0%	中央値	109.5
25.0%	四分位点	18.5
10.0%		3.2
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

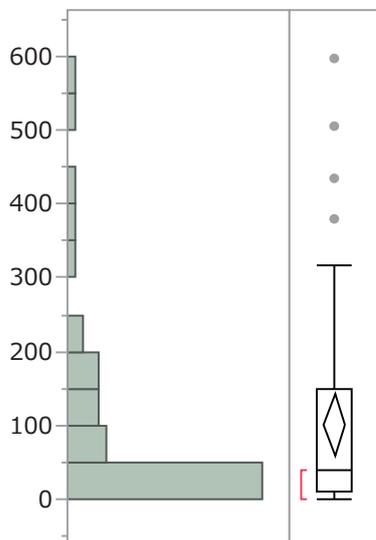
**要約統計量**

平均	243.55
----	--------

標準偏差	421.3199
平均の標準誤差	54.392165
平均の上側95%	352.38847
平均の下側95%	134.71153
N	60

現場への駆け付け型での医師同乗ありの件数は1件から2,400件まであり、幅が広がった。

図Q2-7-a. (病院間患者移送) 年間件数



**分位点**

100.0%	最大値	598
99.5%		598
97.5%		584.05
90.0%		342.6
75.0%	四分位点	149.5
50.0%	中央値	40
25.0%	四分位点	10
10.0%		2.6
2.5%		1.15
0.5%		1
0.0%	最小値	1

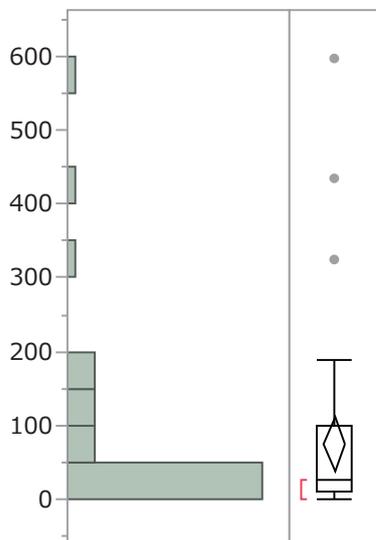
**要約統計量**

平均	102.8
----	-------

標準偏差	141.37307
平均の標準誤差	21.074653
平均の上側95%	145.27317
平均の下側95%	60.326827
N	45

年間患者移送の年間件数は1件から598件まであり、幅が広がった。

図Q2-8-a. (病院間患者移送) 医師同乗ありの件数



**分位点**

100.0%	最大値	598
99.5%		598
97.5%		581.7
90.0%		186.4
75.0%	四分位点	100
50.0%	中央値	26
25.0%	四分位点	10
10.0%		2.4
2.5%		1.1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

**要約統計量**

平均	76.046512
----	-----------

標準偏差	120.58902
平均の標準誤差	18.389653
平均の上側95%	113.15833
平均の下側95%	38.934689
N	43

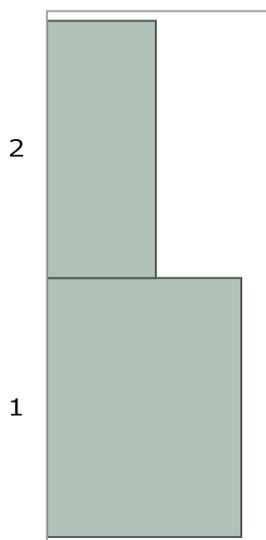
年間患者移送の医師同乗ありの件数は1件から598件まであり、幅が広がった。

## 2台目

Q1. ドクターカーに利用される**車両の車種**についてお知らせください。

1. 傷病者の収容が可能な車両（救急車タイプ）
2. 医療従事者の搬送のみ可能な車両（Rapid Response Car：乗用車タイプ）

図Q1-b.車両の車種



## 度数

水準	度数	割合
1	9	0.64286
2	5	0.35714
合計	14	1.00000

欠測値N 103

傷病者の収容が可能な救急車タイプを使用している施設が多いことが分かる。

Q1. ドクターカーに利用される車両の車種についてお知らせください。

3. その他 (

)

**度数**

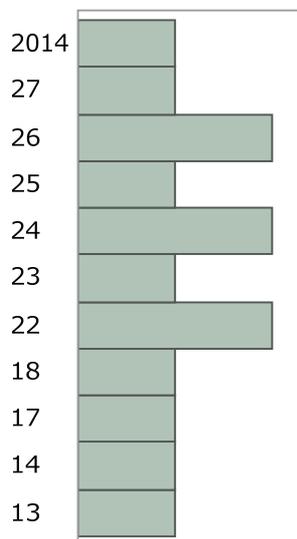
水準	度数	割合
	0	1.00000

欠測値N 117

その他の車種をドクターカーに利用している施設は確認されなかった。

Q2. ドクターカーに利用される車両の年式、走行距離をお知らせください  
 年式 ( )

図Q2-1-b.車両の年式



度数

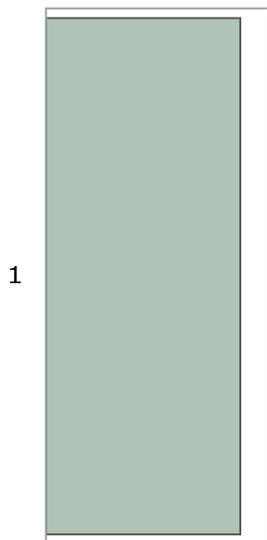
水準	度数	割合
13	1	0.07143
14	1	0.07143
17	1	0.07143
18	1	0.07143
22	2	0.14286
23	1	0.07143
24	2	0.14286
25	1	0.07143
26	2	0.14286
27	1	0.07143
2014	1	0.07143
合計	14	1.00000

欠測値N 103

様々な年式の車両が使用されていることが分かる。

Q2. ドクターカーに利用される車両の年式、走行距離をお知らせください  
(購入時： 新車 )

図Q2-2-b.購入時新車



度数

水準	度数	割合
1	14	1.00000
合計	14	1.00000

欠測値N 103

新車のドクターカーを購入した施設は14施設である。

Q2. ドクターカーに利用される**車両の年式、走行距離**をお知らせください  
(購入時： 中古車 )

**度数**

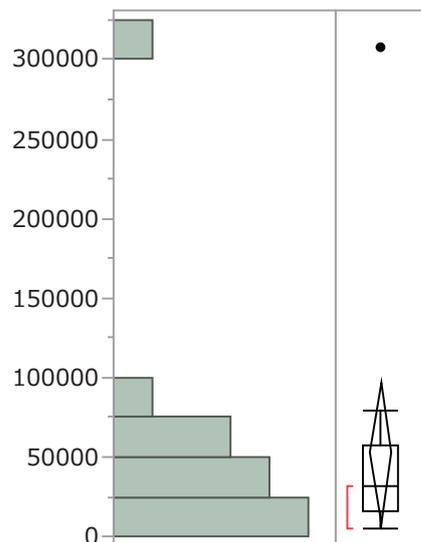
水準	度数	割合
	0	1.00000

欠測値N 117

中古のドクターカーを購入した施設は確認されなかった。

Q2. ドクターカーに利用される車両の年式、走行距離をお知らせください  
 総走行距離 ( )

図Q2-3-b.走行距離



分位点

100.0%	最大値	307445
99.5%		307445
97.5%		307445
90.0%		193630
75.0%	四分位点	57000
50.0%	中央値	31213.5
25.0%	四分位点	15494.3
10.0%		6621.5
2.5%		4709
0.5%		4709
0.0%	最小値	4709

## 要約統計量

平均	53351.929
標準偏差	76309.637
平均の標準誤差	20394.608
平均の上側95%	97411.801
平均の下側95%	9292.0561
N	14

走行距離の平均は約 53,000 kmで、中央値は約 31,000 kmである。

Q2. ドクターカーに利用される車両の運用状況についてお知らせください。

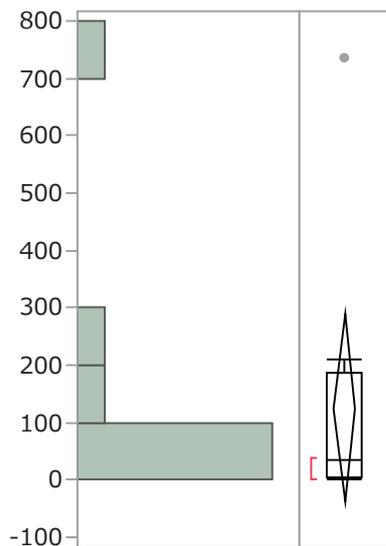
(年間件数は、ドクターカーに利用される車両がドクターカー以外にも兼用されている場合も含めてお答えください。)

運用状況	年間件数	(左のうち、医師同乗ありの件数)
現場等※への駆けつけ型		
病院間患者転送		

※現場等とは、傷病発生地点または搬送途上の救急車との合流地点を指します。

※消防運用型(タイプB)は本設問の対象外です。

図Q2-3-b. (現場への駆け付け型) 年間件数



### 分位点

100.0%	最大値	735
99.5%		735
97.5%		735
90.0%		682.6
75.0%	四分位点	187
50.0%	中央値	34

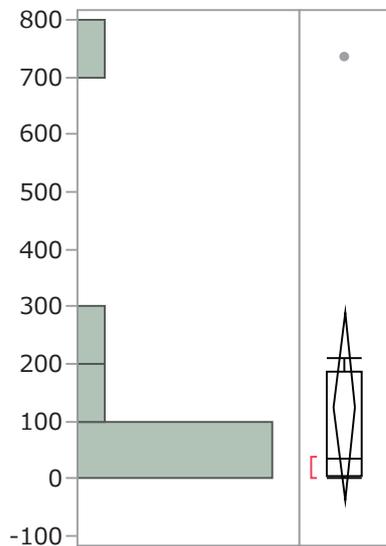
25.0%	四分位点	4.5
10.0%		1.65
2.5%		1.5
0.5%		1.5
0.0%	最小値	1.5

### 要約統計量

平均	127.65
標準偏差	226.32966
平均の標準誤差	71.571722
平均の上側95%	289.55648
平均の下側95%	-34.25648
N	10

現場への駆け付け型での年間件数は1.5件から735件まであり、幅が広がった。

図Q2-4-b. (現場への駆け付け型) 医師同乗ありの件数



分位点

100.0%	最大値	735
99.5%		735
97.5%		735
90.0%		682.6
75.0%	四分位点	187
50.0%	中央値	34
25.0%	四分位点	4.5
10.0%		1.65
2.5%		1.5
0.5%		1.5
0.0%	最小値	1.5

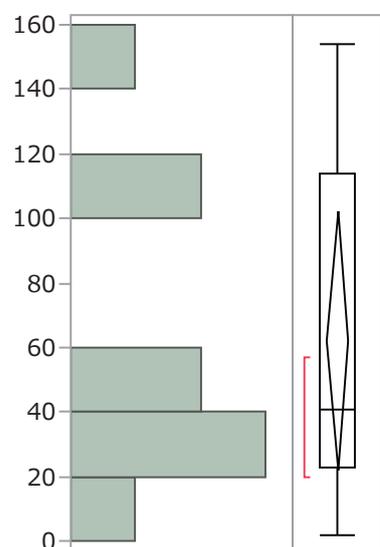
要約統計量

平均	127.65
----	--------

標準偏差	226.32966
平均の標準誤差	71.571722
平均の上側95%	289.55648
平均の下側95%	-34.25648
N	10

現場への駆け付け型での医師同乗ありの件数は1.5件から735件まであり、幅が広がった。

図Q2-5-b. (病院間患者移送) 年間件数



分位点

100.0%	最大値	154
99.5%		154
97.5%		154
90.0%		154
75.0%	四分位点	114
50.0%	中央値	41
25.0%	四分位点	23
10.0%		2
2.5%		2
0.5%		2
0.0%	最小値	2

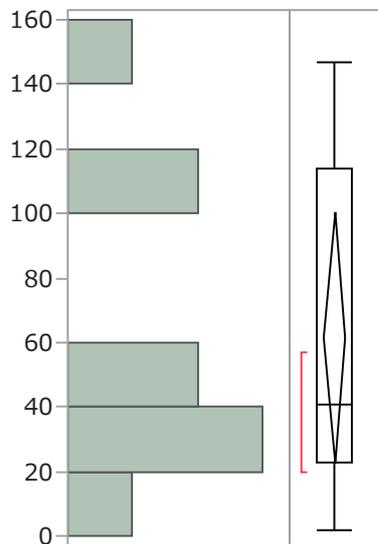
要約統計量

平均	62.444444

標準偏差	52.216164
平均の標準誤差	17.405388
平均の上側95%	102.58134
平均の下側95%	22.307548
N	9

年間患者移送の年間件数は2件から154件まであり、幅が広がった。

図Q2-6-b. (病院間患者移送) 医師同乗ありの件数



分位点

100.0%	最大値	147
99.5%		147
97.5%		147
90.0%		147
75.0%	四分位点	114
50.0%	中央値	41
25.0%	四分位点	23
10.0%		2
2.5%		2
0.5%		2
0.0%	最小値	2

要約統計量

平均	61.666667
----	-----------

標準偏差	50.712425
平均の標準誤差	16.904142
平均の上側95%	100.64769
平均の下側95%	22.685646
N	9

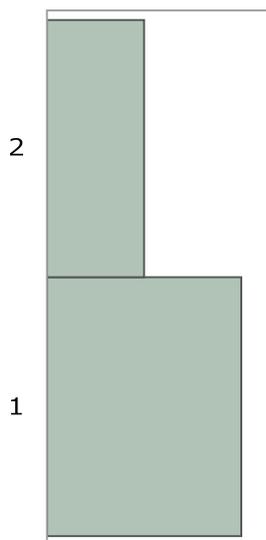
年間患者移送の医師同乗ありの件数は2件から147件まであり、幅が広がった。

### 3台目

Q1. ドクターカーに利用される**車両の車種**についてお知らせください。

1. 傷病者の収容が可能な車両（救急車タイプ）
2. 医療従事者の搬送のみ可能な車両（Rapid Response Car：乗用車タイプ）
3. その他（

図Q1-c.車両の車種



### 度数

水準	度数	割合
1	2	0.66667
2	1	0.33333
合計	3	1.00000

欠測値N 114

3台目に関しては3施設より回答があり、傷病者の収容が可能な救急車タイプを使用している施設が多いことが分かる。

Q1. ドクターカーに利用される**車両の車種**についてお知らせください。

3. その他 (

)

**度数**

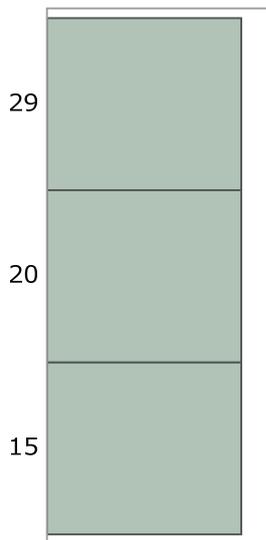
水準	度数	割合
	0	1.00000

欠測値N 117

その他の車種をドクターカーに利用している施設は確認されなかった。

Q2. ドクターカーに利用される車両の年式、走行距離をお知らせください  
年式 ( )

図Q2-1-c.車両の年式



度数

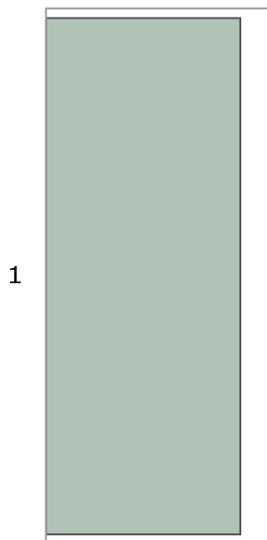
水準	度数	割合
15	1	0.33333
20	1	0.33333
29	1	0.33333
合計	3	1.00000

欠測値N 114

様々な年式の車両が使用されていることが分かる。

Q2. ドクターカーに利用される車両の年式、走行距離をお知らせください  
(購入時： 新車 )

図Q2-2-c.購入時新車



度数

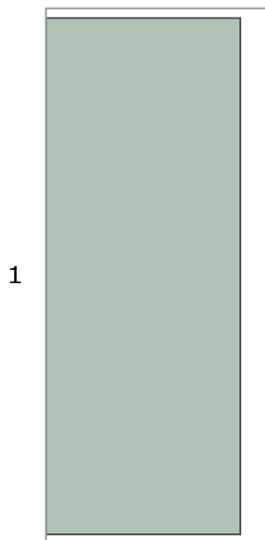
水準	度数	割合
1	2	1.00000
合計	2	1.00000

欠測値N 115

新車のドクターカーを購入した施設は2施設である。

Q2. ドクターカーに利用される車両の年式、走行距離をお知らせください  
(購入時： 中古車 )

図Q2-3-c.購入時中古車



度数

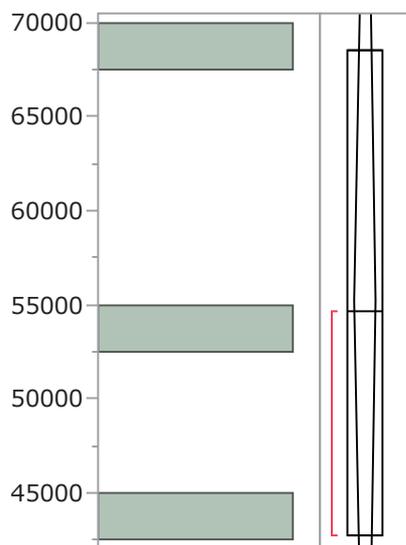
水準	度数	割合
1	1	1.00000
合計	1	1.00000

欠測値N 116

中古のドクターカーを購入した施設は1施設である。

Q2. ドクターカーに利用される車両の年式、走行距離をお知らせください  
 総走行距離 ( )

図Q2-4-c.走行距離



分位点

100.0%	最大値	68532
99.5%		68532
97.5%		68532
90.0%		68532
75.0%	四分位点	68532
50.0%	中央値	54676
25.0%	四分位点	42688
10.0%		42688
2.5%		42688
0.5%		42688
0.0%	最小値	42688

## 要約統計量

平均	55298.667
標準偏差	12933.247
平均の標準誤差	7467.0134
平均の上側95%	87426.632
平均の下側95%	23170.701
N	3

走行距離の平均は約 55,000 kmで、中央値は約 54,000 kmである。

Q2. ドクターカーに利用される車両の運用状況についてお知らせください。

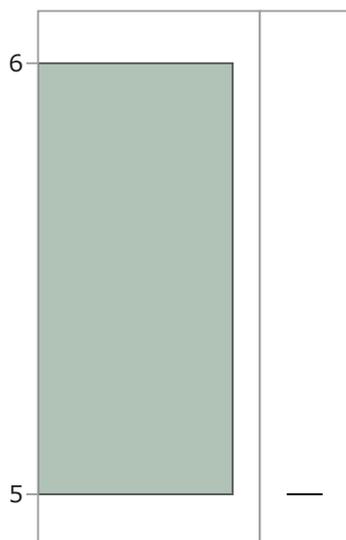
(年間件数は、ドクターカーに利用される車両がドクターカー以外にも兼用されている場合も含めてお答えください。)

運用状況	年間件数	(左のうち、医師同乗ありの件数)
現場等※への駆けつけ型		
病院間患者転送		

※現場等とは、傷病発生地点または搬送途上の救急車との合流地点を指します。

※消防運用型(タイプB)は本設問の対象外です。

図Q2-3-c. (現場への駆け付け型) 年間件数



分位点

100.0%	最大値	5
99.5%		5
97.5%		5
90.0%		5
75.0%	四分位点	5

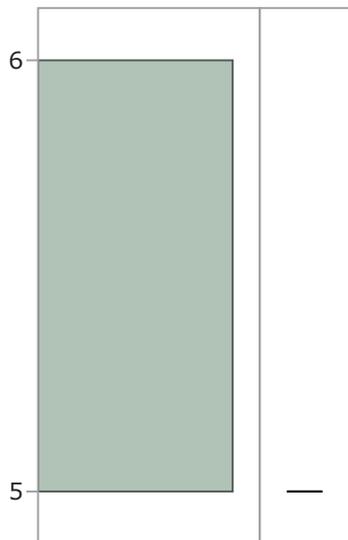
50.0%	中央値	5
25.0%	四分位点	5
10.0%		5
2.5%		5
0.5%		5
0.0%	最小値	5

### 要約統計量

平均	5
標準偏差	.
平均の標準誤差	.
平均の上側95%	.
平均の下側95%	.
N	1

現場への駆け付け型の場合、3台目を有する施設(1施設)では年間件数は5件であった。

図Q2-4-c. (現場への駆け付け型) 医師同乗ありの件数



**分位点**

100.0%	最大値	5
99.5%		5
97.5%		5
90.0%		5
75.0%	四分位点	5
50.0%	中央値	5
25.0%	四分位点	5
10.0%		5
2.5%		5
0.5%		5
0.0%	最小値	5

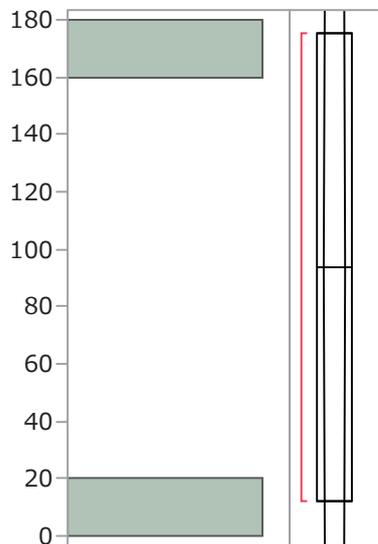
**要約統計量**

平均	5

標準偏差	.
平均の標準誤差	.
平均の上側95%	.
平均の下側95%	.
N	1

現場への駆け付け型の場合、3台目を有する施設(1施設)では医師同乗ありの件数は5件であった。

図Q2-5-c. (病院間患者移送) 年間件数



分位点

100.0%	最大値	175
99.5%		175
97.5%		175
90.0%		175
75.0%	四分位点	175
50.0%	中央値	93.5
25.0%	四分位点	12
10.0%		12
2.5%		12
0.5%		12
0.0%	最小値	12

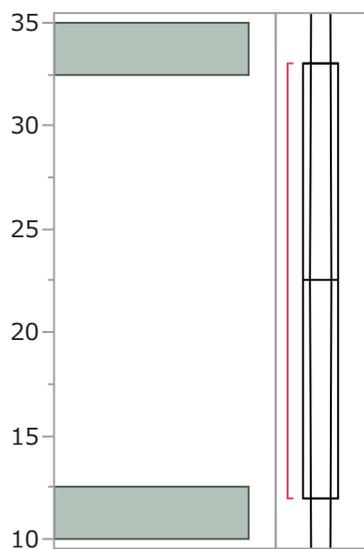
要約統計量

平均	93.5
----	------

標準偏差	115.25841
平均の標準誤差	81.5
平均の上側95%	1129.0557
平均の下側95%	-942.0557
N	2

3台目についての、年間患者移送の年間件数は12件又は175件であった。

図Q2-6-c. (病院間患者移送) 医師同乗ありの件数



分位点

100.0%	最大値	33
99.5%		33
97.5%		33
90.0%		33
75.0%	四分位点	33
50.0%	中央値	22.5
25.0%	四分位点	12
10.0%		12
2.5%		12
0.5%		12
0.0%	最小値	12

要約統計量

平均	22.5

標準偏差	14.849242
平均の標準誤差	10.5
平均の上側95%	155.91515
平均の下側95%	-110.9151
N	2

3台目についての、年間患者移送の医師同乗ありの件数は12件又は33件であった。

## ドクターカー（病院車運用方式）の全国実態集計

Q3-1～Q3-3

「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」の車両特性

- 本セクションの各設問は車両単位での回答である。

「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」  
1～3 台目の合算

現場など駆けつけ(タイプA)/医師同乗あり	車内常置				持ち込み				原則搭載せず			
	1台目	2台目	3台目	合計	1台目	2台目	3台目	合計	1台目	2台目	3台目	合計
心電図	45	8	0	53	15	2	0	17	8	1	1	10
血圧測定装置	44	7	0	51	16	2	0	18	8	2	1	11
血中酸素飽和度測定器	44	7	0	51	17	2	0	19	7	2	1	10
呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2測定器)	26	1	0	27	15	4	0	19	25	6	1	32
除細動器(ペースング機能付き)	37	5	0	42	8	3	0	11	23	3	1	27
除細動器(ペースング機能なし(AED含む))	21	3	0	24	10	1	0	11	26	5	1	32
人工呼吸器	31	3	0	34	4	2	1	7	31	6	0	37
自動心マッサージ器	7	1	0	8	11	4	1	16	48	6	0	54
超音波診断装置	24	4	0	28	42	5	1	48	3	2	0	5
吸引器	41	6	0	47	10	1	0	11	17	4	1	22
気道確保資器材	31	5	0	36	36	6	1	43	1	0	0	1
ビデオ硬性挿管用咽頭鏡	18	3	0	21	30	4	1	35	19	4	0	23
酸素投与資器材	45	7	0	52	12	3	1	16	11	1	0	12
固定用資器材	35	6	0	41	6	3	1	10	27	2	0	29
分娩用資器材	2	0	0	2	5	0	0	5	61	11	1	73
マギール鉗子	29	4	0	33	34	6	0	40	5	1	1	7
創傷保護用資器材	32	5	0	37	32	6	0	38	4	0	1	5
スクープストレッチャー	14	3	0	17		0	0	0	54	8	1	63
担架	18	5	0	23	1	0	0	1	48	6	1	55
バックボード	29	3	0	32	2	1	0	3	37	7	1	45
保温用毛布	32	5	0	37	2	0	0	2	34	6	1	41
無線装置	35	3	1	39	8	2	0	10	24	6	0	30
懐中電灯	43	7	0	50	9	1	1	11	16	3	0	19
トリアージタグ	34	5	0	39	25	2	0	27	9	4	1	14
冷却用資器材	8	1	0	9	16	2	0	18	44	8	1	53
血糖測定器	24	3	0	27	37	6	1	44	8	2	0	10
ショックバンツ	0	1	0	1	3	0	0	3	64	10	1	75
心肺蘇生用背板	7	10	0	17	2	0	0	2	58	0	1	59
骨髓針	25	3	0	28	40	7	1	48	4	1	0	5
胸腔ドレーン	32	4	0	36	34	6	1	41	3	1	0	4
メス	33	5	0	38	35	5	1	41	1	1	0	2
ペアン	32	4	0	36	36	6	1	43	1	1	0	2
鑷子	32	4	0	36	35	6	1	42	2	1	0	3
開胸器	20	2	0	22	23	5	1	29	24	4	0	28

「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」  
1～3台目の合算

その他の常置または持ち込みの機器	車内常置				持ち込み				原則搭載せず			
	1台目	2台目	3台目	合計	1台目	2台目	3台目	合計	1台目	2台目	3台目	合計
ヘルメット	9	1		10	0	0		0	0	0		0
シリンジポンプ	4	1		5	1	0		1	0	0		0
輸液ポンプ	4	1		5	0	0		0	0	0		0
誘導灯	2			2	0			0	0			0
トランシーバー	1			1	1			1	0			0
サムスリング	2			2	0			0	0			0
肘・膝あて	2			2	0			0	0			0
縫合セット	0	0		0	2	1		3	0	0		0
IABO	1			1	0			0	0			0
SpCOモニタ	1			1	0			0	0			0
ガウン	1			1	0			0	0			0
安全ぐつ	1			1	0			0	0			0
ヘッドライト	1			1	0			0	0			0
ポータブル12誘導心電図	0			0	1			1	0			0
モバイル12誘導心電図	0			0	1			1	0			0
衛星電話	1			1	0			0	0			0
携帯電話	1			1	0			0	0			0
血液ガス分析装置	0			0	1			1	0			0
十二誘導心電図伝送システム	1			1	0			0	0			0
点滴資機材	0	0		0	1	1		2	0	0		0
搬送用保育器	0			0	1			1	0			0
保温用アルミシート	1			1	0			0	0			0
輸液保温庫	1			1	0			0	0			0
頸カラー	0			0	1			1	0			0
シアノキッド	1			1	0			0	0			0
加圧バック	1			1	0			0	0			0
外科的気道確保セット	1			1	0			0	0			0
拡声器	1			1	0			0	0			0
止血バンド	1			1	0			0	0			0
サムスプリント上肢・下肢	1			1	0			0	0			0
小児気管挿管	0			0	1			1	0			0
輸液セット	0			0	1			1	0			0
上着	1			1	0			0	0			0
新生児小児人工呼吸器	0			0	1			1	0			0
非接触式赤外線体温計	0			0	1			1	0			0
保温冷库	1			1	0	0		0	0			0
防刃チョッキ	1	1		2	0			0	0	0		0
防刃ベスト	1			1	0			0	0			0
IABOカテーテル	1			1	0			0	0			0
チェストドレーンバッグ	1			1	0			0	0			0
iPad	1			1	0			0	0			0
ターニケット	1			1	0			0	0			0
レインコート	1			1	0			0	0			0
加湿輸液	0			0	1			1	0			0

「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」  
1～3 台目の合算

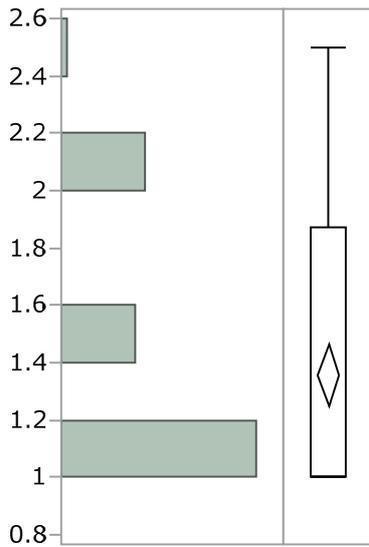
その他の常置または持ち込みの機器	車内常置				持ち込み				原則搭載せず			
小児セット	1		1	0			0	0			0	
小児救急マット	1		1	0			0	0			0	
PEM	1		1	0			0	0			0	
小児用セット	1		1	0			0	0			0	
胎児ドップラ	0		0	1			1	0			0	
注射薬剤	0		0	1			1	0			0	
12誘導ECG	0		0	1			1	0			0	
IP無線	1		1	0			0	0			0	
O2	1		1	0			0	0			0	
SBチューブキット	1		1	0			0	0			0	
シース	1		1	0			0	0			0	
タンケット	0		0	1			1	0			0	
大動脈クランプ	1		1	0			0	0			0	
地図	1		1	0			0	0			0	
輸液投与物品	0		0	1			1	0			0	
タニケット	1		1	0			0	0			0	
トーマスバック	0		0	1			1	0			0	
ホワイトボード(小)・スケッチブック→多 数傷病者用			0				0				0	
フェイスシールド	1		1	0			0	0			0	
手袋	1		1	0			0	0			0	
マスク	1		1	0			0	0			0	
医薬品	0		0	1			1	0			0	
小児用資器材		0	0		1		1		0		0	
NIRO			0	0		1	1			0	0	
PCPS装置			0	0		1	1			0	0	
心電図モニター			0	0		1	1			0	0	
発電機			1	1		0	0			0	0	

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」1台目

Q3. ①「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」の状況について  
 Q3-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
 （運転手を含んでお答えください。）

医師（          名）

図Q3-1-1-a.（現場への駆け付け/医師同乗あり）1台当たりのスタッフ数・医師



### 分位点

100.0%	最大値	2.5
99.5%		2.5
97.5%		2.1375
90.0%		2
75.0%	四分位点	1.875
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		1
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」1台目

### 要約統計量

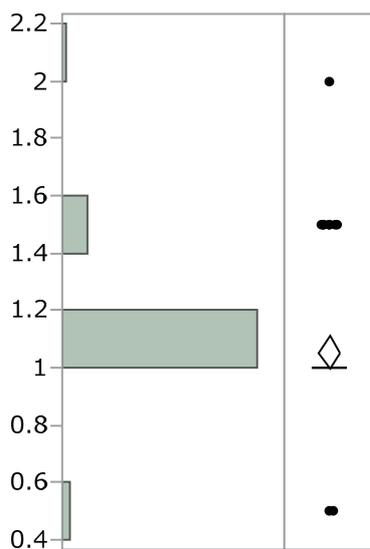
平均	1.3602941
標準偏差	0.4391782
平均の標準誤差	0.0532582
平均の上側95%	1.4665979
平均の下側95%	1.2539903
N	68

現場への駆け付け型で医師同乗ありの場合、多くの施設では医師1名の乗車が標準的であることが分かる。

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」1台目

- Q3. ①「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」の状況について  
 Q3-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
 （運転手を含んでお答えください。）  
 看護師（           名）

図Q3-1-2-a.（現場への駆け付け/医師同乗あり）1台当たりのスタッフ数・看護師



### 分位点

100.0%	最大値	2
99.5%		2
97.5%		1.7125
90.0%		1.5
75.0%	四分位点	1
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		1
2.5%		0.5
0.5%		0.5
0.0%	最小値	0.5

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」1台目

### 要約統計量

平均	1.0564516
標準偏差	0.2236955
平均の標準誤差	0.0284094
平均の上側95%	1.1132596
平均の下側95%	0.9996436
N	62

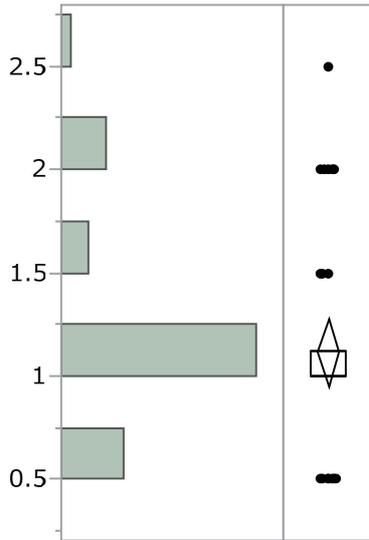
現場への駆け付け型で医師同乗ありの場合、多くの施設では看護師1名の乗車が標準的であることが分かる。

# 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」1台目

Q3. ①「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」の状況について  
 Q3-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
 （運転手を含んでお答えください。）

救急救命士（           名）・

**図Q3-1-3-a.（現場への駆け付け/医師同乗あり）1台当たりのスタッフ数・救急救命士**



### 分位点

100.0%	最大値	2.5
99.5%		2.5
97.5%		2.5
90.0%		2
75.0%	四分位点	1.125
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		0.5
2.5%		0.5
0.5%		0.5
0.0%	最小値	0.5

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」1台目

### 要約統計量

平均	1.1184211
標準偏差	0.4991102
平均の標準誤差	0.0809664
平均の上側95%	1.2824745
平均の下側95%	0.9543676
N	38

現場への駆け付け型で医師同乗ありの場合、多くの施設では救急救命士1名の乗車が標準的であることが分かる。

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」1台目

Q3. ①「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」の状況について  
Q3-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
(運転手を含んでお答えください。)

その他（職種 ・ 名）

- ER-Aide
- ER救命士
- コメディカル・専属運転手
- ドライバー
- ドライバー（事務）（日による）
- ドライバー・ナビゲーター
- 医事課
- 院内職員の運転手
- 運転者
- 運転手（12施設）
- 運転手 事務員
- 運転手（救急救命士）
- 運転手（消防より派遣）
- 警備員
- 研修医・Ns・救命士
- 研修医・運転手
- 研修中の消防救命士
- 事務
- 事務（研修生）
- 事務員
- 事務員（運転手）
- 事務職（2施設）
- 事務職員
- 自動車運転手+同乗者（自動車運転手or事務職員）
- 専属運転手
- 非常勤職員（運転手）
- 病院職員（水のみ）

大多数の施設で、運転手も同乗していることが分かる。また、事務員は運転手として同乗していると考えられる。

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」1台目

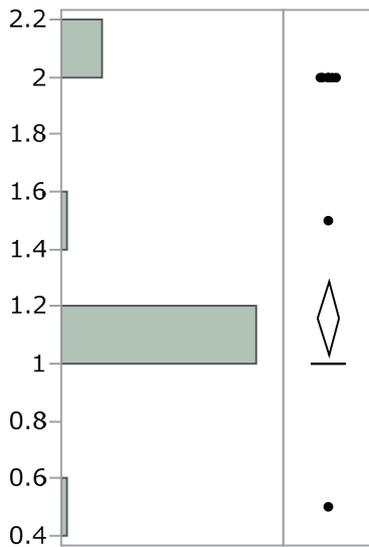
Q3. ①「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」の状況について

Q3-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。

（運転手を含んでお答えください。）

その他（職種： 名）

図Q3-1-4-a.（現場への駆け付け/医師同乗あり）1台当たりのスタッフ数・その他・人数



### 分位点

100.0%	最大値	2
99.5%		2
97.5%		2
90.0%		2
75.0%	四分位点	1
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		1
2.5%		0.5
0.5%		0.5
0.0%	最小値	0.5

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」1台目

### 要約統計量

平均	1.1621622
標準偏差	0.3918272
平均の標準誤差	0.064416
平均の上側95%	1.2928038
平均の下側95%	1.0315205
N	37

現場への駆け付け型で医師同乗ありの場合、多くの施設ではその他のスタッフ1名の乗車が標準的であることが分かる。

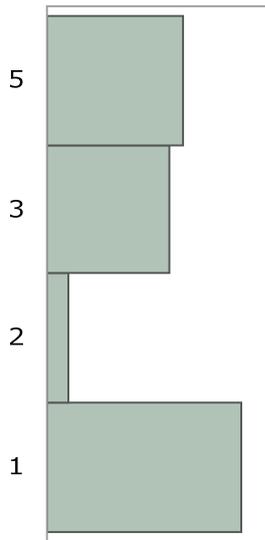
## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」1台目

Q3-2. ①の状況において主に**運転する職種**についてお知らせください。

1. ドクターカー専属運転手
2. 医師
3. 救急救命士
4. 看護師
5. その他（

）

図Q3-2-a.（現場への駆け付け/医師同乗あり）運転する職種



### 度数

水準	度数	割合
1	27	0.40909
2	3	0.04545
3	17	0.25758
5	19	0.28788
合計	66	1.00000

欠測値N 51

現場への駆け付け型で医師同乗ありの場合、多くの施設ではドクターカー専属運転手が運転していることが分かる。

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」1台目

Q3-2. ①の状況において主に**運転する職種**についてお知らせください。

5. その他（

）

- ER-Aide（派遣職員）
- タクシー会社
- ドクターカー専属運転手、医師
- ドクターカー専属運転手、看護師、事務職
- ドクターカー専属運転手、救急救命士
- 医事課
- 医事課事務職員
- 院内常勤事務職員
- 運転手（ドクターカー兼務）
- 警備（病院内の）
- 警備員
- 事務
- 事務、病院運転手
- 事務員
- 事務系など
- 事務職が兼任
- 事務職員
- 総務課職員
- 病院職員
- 病院職員（水のみ）

その他の運転手として、多くの施設では事務職員が運転していることが分かる。

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」1台目

Q3-3. ①の状況における搭載している資器材についてお知らせください。

（本設問は、厚生労働省においてドクターカー要件を検討する際に重要ですので、正確なご回答をなにとぞお願いいたします。）

※ 常置とは、車内に常に搭載・設置している場合を指します。

※ 通常はドクターカーへの搭載・設置・持ち込みをしておらず、症例に応じて臨時に使用する場合は「原則搭載せず」を選択してください。

ドクターカー搭載資器材	車内常置・持ち込み・原則搭載せず		
心電図計	車内常置 (45)	持ち込み (15)	原則搭載せず (8)
血圧測定装置	車内常置 (44)	持ち込み (16)	原則搭載せず (8)
血中酸素飽和度測定器	車内常置 (44)	持ち込み (17)	原則搭載せず (7)
呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2 測定器)	車内常置 (26)	持ち込み (15)	原則搭載せず (25)
除細動器(ペースング機能付き)	車内常置 (37)	持ち込み (8)	原則搭載せず (23)
除細動器(ペースング機能無し(AED含む))	車内常置 (21)	持ち込み (10)	原則搭載せず (26)
人工呼吸器	車内常置 (31)	持ち込み (4)	原則搭載せず (31)
自動心マッサージ器	車内常置 (7)	持ち込み (11)	原則搭載せず (48)
超音波診断装置	車内常置 (24)	持ち込み (42)	原則搭載せず (3)
吸引器	車内常置 (41)	持ち込み (10)	原則搭載せず (17)
気道確保資器材	車内常置 (31)	持ち込み (36)	原則搭載せず (1)
ビデオ硬性挿管用喉頭鏡	車内常置 (18)	持ち込み (30)	原則搭載せず (19)
酸素投与資器材	車内常置 (45)	持ち込み (12)	原則搭載せず (11)
固定用資機材	車内常置 (35)	持ち込み (6)	原則搭載せず (27)
分娩用資機材	車内常置 (2)	持ち込み (5)	原則搭載せず (61)
マギール鉗子	車内常置 (29)	持ち込み (34)	原則搭載せず (5)
創傷保護用資器材	車内常置 (32)	持ち込み (32)	原則搭載せず (4)
スクープストレッチャー	車内常置 (14)	持ち込み (54)	原則搭載せず (54)

「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」1台目

担架	車内常置 (18)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (48)
バックボード	車内常置 (29)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (37)
保温用毛布	車内常置 (32)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (34)
無線装置	車内常置 (35)	・ 持ち込み (8)	・ 原則搭載せず (24)
懐中電灯	車内常置 (43)	・ 持ち込み (9)	・ 原則搭載せず (16)
トリアージタッグ	車内常置 (34)	・ 持ち込み (25)	・ 原則搭載せず (9)
冷却用資器材	車内常置 (8)	・ 持ち込み (16)	・ 原則搭載せず (44)
血糖測定器	車内常置 (24)	・ 持ち込み (37)	・ 原則搭載せず (8)
ショックパンツ	車内常置	・ 持ち込み (3)	・ 原則搭載せず (64)
心肺蘇生用背板	車内常置 (7)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (58)
骨髄針	車内常置 (25)	・ 持ち込み (40)	・ 原則搭載せず (4)
胸腔ドレーン	車内常置 (32)	・ 持ち込み (34)	・ 原則搭載せず (3)
メス	車内常置 (33)	・ 持ち込み (35)	・ 原則搭載せず (1)
ペアン	車内常置 (32)	・ 持ち込み (36)	・ 原則搭載せず (1)
鑷子	車内常置 (32)	・ 持ち込み (35)	・ 原則搭載せず (2)
開胸器	車内常置 (20)	・ 持ち込み (23)	・ 原則搭載せず (24)

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」1台目

その他の常置または持ち込みの機器（下記に記載ください）

ヘルメット	車内常置 (9)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
シリンジポンプ (内1施設は3台搭載)	車内常置 (4)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
輸液ポンプ	車内常置 (4)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
誘導灯	車内常置 (2)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
トランシーバー (内1施設は5台搭載)	車内常置 (1)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
サムスリング	車内常置 (2)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
肘・膝あて	車内常置 (2)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
縫合セット	車内常置	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず
IABO	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
SpCO モニタ	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
ガウン	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
安全ぐつ	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
ヘッドライト	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
ポータブル12誘導心電図	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
モバイル12誘導心電図	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
衛星電話	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず

「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」1台目

携帯電話	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
血液ガス分析装置	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
十二誘導心電図伝送システム	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
点滴資機材	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
搬送用保育器	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
保温用アルミシート	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
輸液保温庫	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
頸カラー	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
シアノキット	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
加圧バック	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
外科的気道確保セット	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
拡声器	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
止血バンド	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
サムスプリント上肢・下肢	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
小児気管挿管	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
輸液セット	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
上着	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
新生児小児人工呼吸器	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」1台目

保温冷蔵庫	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
防刃チョッキ	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
防刀ベスト	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
IABO カテーテル	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
チェストドレーンバッグ	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
iPad	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
ターニケット	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
レインコート	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
加温輸液	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
小児セット	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
小児救急マット	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
PEM	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
小児用セット	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
胎児ドップラ	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
注射薬剤	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
12 誘導 ECG	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
IP 無線	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
O2	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
SB チューブキット	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
シーす	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
タンケット	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず

「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」1台目

	(1)
大動脈クランプ	車内常置 (1) ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
地図	車内常置 (1) ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
輸液投与物品	車内常置 (1) ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
タニケット	車内常置 (1) ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
トーマスバック	車内常置 (1) ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
ホワイトボード(小)・スケッチブック→多数 傷病者用	車内常置 (1) ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
フェイスシールド	車内常置 (1) ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
手袋	車内常置 (1) ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
マスク	車内常置 (1) ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
医薬品	車内常置 (1) ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」2台目

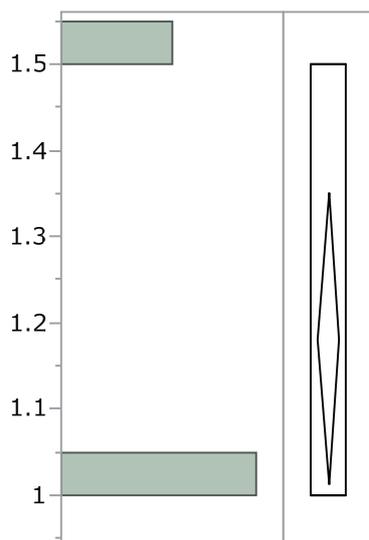
Q3. ①「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」の状況について

Q3-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。

（運転手を含んでお答えください。）

医師（          名）

図Q3-1-1-b.（現場への駆け付け/医師同乗あり）1台当たりのスタッフ数・医師



### 分位点

100.0%	最大値	1.5
99.5%		1.5
97.5%		1.5
90.0%		1.5
75.0%	四分位点	1.5
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		1
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

## 「現場等への駆けつけ（タイプ A）／医師同乗あり」2 台目

### 要約統計量

平均	1.1818182
標準偏差	0.2522625
平均の標準誤差	0.07606
平均の上側95%	1.3512904
平均の下側95%	1.0123459
N	11

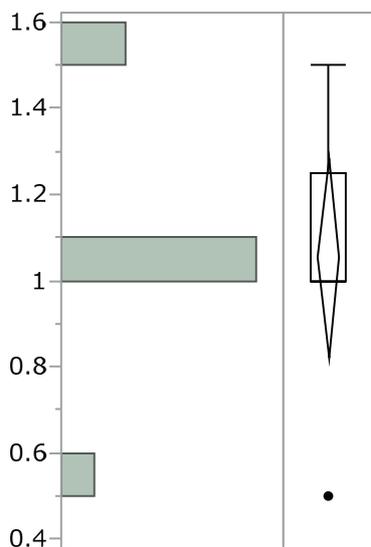
現場への駆け付け型で医師同乗ありの場合、多くの施設では医師 1 名の乗車が標準的であることが分かる。

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」2台目

Q3-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
（運転手を含んでお答えください。）

看護師（          名）

図Q3-1-2-b.（現場への駆け付け/医師同乗あり）1台当たりのスタッフ数・看護師



### 分位点

100.0%	最大値	1.5
99.5%		1.5
97.5%		1.5
90.0%		1.5
75.0%	四分位点	1.25
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		0.5
2.5%		0.5
0.5%		0.5
0.0%	最小値	0.5

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」2台目

### 要約統計量

平均	1.0555556
標準偏差	0.3004626
平均の標準誤差	0.1001542
平均の上側95%	1.2865116
平均の下側95%	0.8245996
N	9

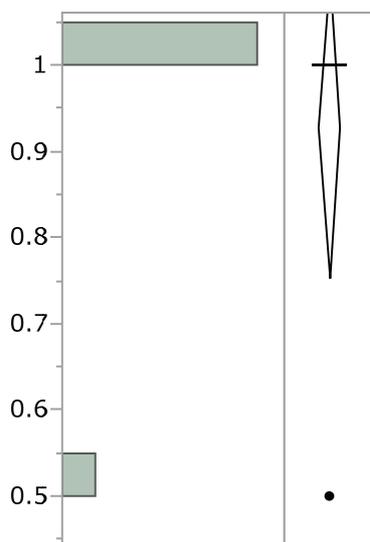
現場への駆け付け型で医師同乗ありの場合、多くの施設では看護師1名の乗車が標準的であることが分かる。

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」2台目

Q3-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
（運転手を含んでお答えください。）

救急救命士（          名）

図Q3-1-3-b.（現場への駆け付け/医師同乗あり）1台当たりのスタッフ数・救急救命士



### 分位点

100.0%	最大値	1
99.5%		1
97.5%		1
90.0%		1
75.0%	四分位点	1
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		0.5
2.5%		0.5
0.5%		0.5
0.0%	最小値	0.5

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」2台目

### 要約統計量

平均	0.9285714
標準偏差	0.1889822
平均の標準誤差	0.0714286
平均の上側95%	1.1033508
平均の下側95%	0.753792
N	7

現場への駆け付け型で医師同乗ありの場合、多くの施設では救急救命士1名の乗車が標準的であることが分かる。

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」2台目

Q3-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
(運転手を含んでお答えください。)

その他（職種 ・ 名）

- 医事課
- 運転手(2)
- 事務(2)
- 事務職
- 事務職員
- 非常勤職員（運転手）

大多数の施設で、運転手も同乗していることが分かる。また、事務員は運転手として同乗していると考えられる。



## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」2台目

### 要約統計量

平均	1
標準偏差	0
平均の標準誤差	0
平均の上側95%	1
平均の下側95%	1
N	8

現場への駆け付け型で医師同乗ありの場合、多くの施設ではその他のスタッフ1名の乗車が標準的であることが分かる。

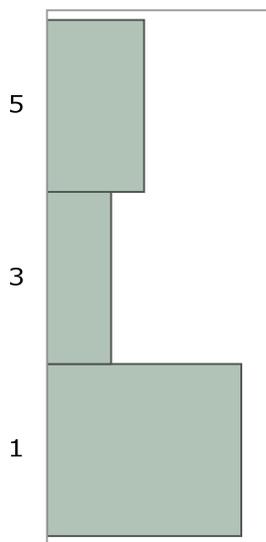
## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」2台目

Q3-2. ①の状況において主に**運転する職種**についてお知らせください。

1. ドクターカー専属運転手
2. 医師
3. 救急救命士
4. 看護師
5. その他（

）

図Q3-2-b.（現場への駆け付け/医師同乗あり）運転する職種



### 度数

水準	度数	割合
1	6	0.54545
3	2	0.18182
5	3	0.27273
合計	11	1.00000

欠測値N 106

現場への駆け付け型で医師同乗ありの場合、多くの施設ではドクターカー専属運転手が運転していることが分かる。

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」2台目

Q3-2. ①の状況において主に運転する職種についてお知らせください。

5. その他（ )

- 医事課
- 事務（病院職員：トレーニングを受けた者）
- 事務職が兼任
- 事務職員

その他の運転手として、多くの施設では事務職員が運転していることが分かる。

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」2台目

Q3-3. ①の状況における搭載している資器材についてお知らせください。

（本設問は、厚生労働省においてドクターカー要件を検討する際に重要ですので、正確なご回答をなにとぞお願いいたします。）

※ 常置とは、車内に常に搭載・設置している場合を指します。

※ 通常はドクターカーへの搭載・設置・持ち込みをしておらず、症例に応じて臨時に使用する場合は「原則搭載せず」を選択してください。

ドクターカー搭載資器材	車内常置・持ち込み・原則搭載せず		
心電図計	車内常置 (8)	持ち込み (2)	原則搭載せず (1)
血圧測定装置	車内常置 (7)	持ち込み (2)	原則搭載せず (2)
血中酸素飽和度測定器	車内常置 (7)	持ち込み (2)	原則搭載せず (2)
呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2 測定器)	車内常置 (1)	持ち込み (4)	原則搭載せず (6)
除細動器(ペースング機能付き)	車内常置 (5)	持ち込み (3)	原則搭載せず (3)
除細動器(ペースング機能無し(AED含む))	車内常置 (3)	持ち込み (1)	原則搭載せず (5)
人工呼吸器	車内常置 (3)	持ち込み (2)	原則搭載せず (6)
自動心マッサージ器	車内常置 (1)	持ち込み (4)	原則搭載せず (6)
超音波診断装置	車内常置 (4)	持ち込み (5)	原則搭載せず (2)
吸引器	車内常置 (6)	持ち込み (1)	原則搭載せず (4)
気道確保資器材	車内常置 (5)	持ち込み (6)	原則搭載せず
ビデオ硬性挿管用喉頭鏡	車内常置 (3)	持ち込み (4)	原則搭載せず (4)
酸素投与資器材	車内常置 (7)	持ち込み (3)	原則搭載せず (1)
固定用資機材	車内常置 (6)	持ち込み (3)	原則搭載せず (2)
分娩用資機材	車内常置	持ち込み	原則搭載せず (11)
マギール鉗子	車内常置 (4)	持ち込み (6)	原則搭載せず (1)
創傷保護用資器材	車内常置 (5)	持ち込み (6)	原則搭載せず
スクープストレッチャー	車内常置 (3)	持ち込み	原則搭載せず (8)

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」2台目

担架	車内常置 (5)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (6)
バックボード	車内常置 (3)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (7)
保温用毛布	車内常置 (5)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (6)
無線装置	車内常置 (3)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (6)
懐中電灯	車内常置 (7)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (3)
トリアージタッグ	車内常置 (5)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (4)
冷却用資器材	車内常置 (1)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (8)
血糖測定器	車内常置 (3)	・ 持ち込み (6)	・ 原則搭載せず (2)
ショックパンツ	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (10)
心肺蘇生用背板	車内常置 (10)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
骨髄針	車内常置 (3)	・ 持ち込み (7)	・ 原則搭載せず (1)
胸腔ドレーン	車内常置 (4)	・ 持ち込み (6)	・ 原則搭載せず (1)
メス	車内常置 (5)	・ 持ち込み (5)	・ 原則搭載せず (1)
ペアン	車内常置 (4)	・ 持ち込み (6)	・ 原則搭載せず (1)
鑷子	車内常置 (4)	・ 持ち込み (6)	・ 原則搭載せず (1)
開胸器	車内常置 (2)	・ 持ち込み (5)	・ 原則搭載せず (4)

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」2台目

その他の常置または持ち込みの機器（下記に記載ください）

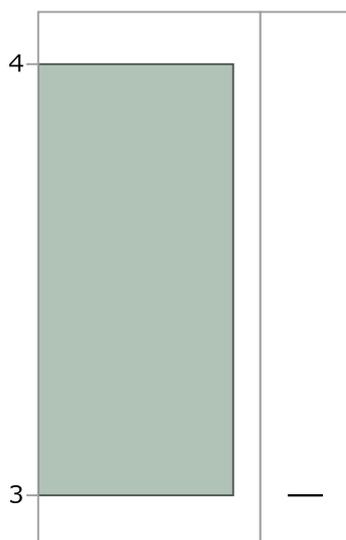
シリンジポンプ	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
ヘルメット	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
小児用資器材	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
点滴資機材	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
縫合セット	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
防刃チョッキ	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
輸液ポンプ	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」3台目

- Q3. ①「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」の状況について  
 Q3-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
 （運転手を含んでお答えください。）

医師（          名）

図Q3-1-1-c.（現場への駆け付け/医師同乗あり）1台当たりのスタッフ数・医師



### 分位点

100.0%	最大値	3
99.5%		3
97.5%		3
90.0%		3
75.0%	四分位点	3
50.0%	中央値	3
25.0%	四分位点	3
10.0%		3
2.5%		3
0.5%		3
0.0%	最小値	3

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」3台目

### 要約統計量

平均	3
標準偏差	.
平均の標準誤差	.
平均の上側95%	.
平均の下側95%	.
N	1

現場への駆け付け型で医師同乗ありの場合、3台目を有する施設(1施設)では医師3名が同乗している。

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」3台目

Q3-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
(運転手を含んでお答えください。)

看護師 (        名)

度数

水準	度数	割合
	0	1.00000

欠測値N 117

現場への駆け付け型で医師同乗ありの場合、看護師が同乗している施設は確認されなかった。

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」3台目

Q3-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
(運転手を含んでお答えください。)

救急救命士 (        名)

### 度数

水準	度数	割合
	0	1.00000

欠測値N 117

現場への駆け付け型で医師同乗ありの場合、救急救命士が同乗している施設は確認されなかった。

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」3台目

Q3-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
（運転手を含んでお答えください。）

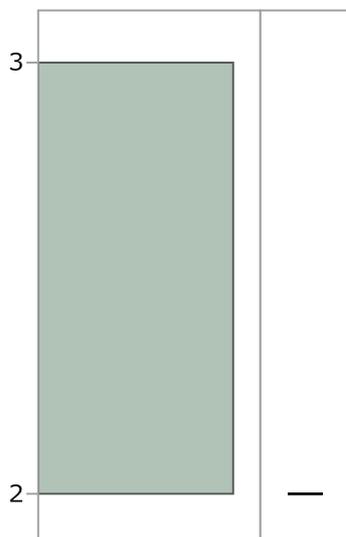
その他（職種 . 名）

●臨床工学技士

Q3-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
（運転手を含んでお答えください。）

その他（職種 . 名）

図Q3-1-2-c.（現場への駆け付け/医師同乗あり）1台当たりのスタッフ数・その他・人数



### 分位点

100.0%	最大値	2
99.5%		2
97.5%		2
90.0%		2
75.0%	四分位点	2
50.0%	中央値	2

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」3台目

25.0%	四分位点	2
10.0%		2
2.5%		2
0.5%		2
0.0%	最小値	2

### 要約統計量

平均	2
標準偏差	.
平均の標準誤差	.
平均の上側95%	.
平均の下側95%	.
N	1

現場への駆け付け型で医師同乗ありの場合、3台目を有する施設(1施設)ではその他のスタッフ2名が同乗している。

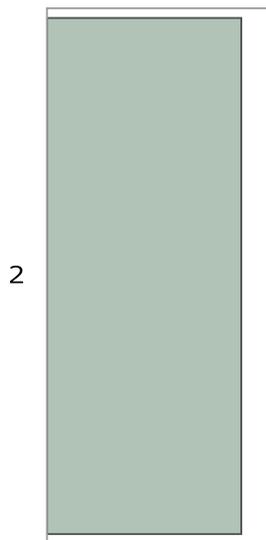
## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」3台目

Q3-2. ①の状況において主に**運転する職種**についてお知らせください。

1. ドクターカー専属運転手
2. 医師
3. 救急救命士
4. 看護師
5. その他（

）

図Q3-2-c.（現場への駆け付け/医師同乗あり）運転する職種



### 度数

水準	度数	割合
2	1	1.00000
合計	1	1.00000

欠測値N 116

現場への駆け付け型で医師同乗ありの場合、3台目を有する施設(1施設)では医師が運転していることが分かる。

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」3台目

Q3-2. ①の状況において主に**運転する職種**についてお知らせください。

5. その他（

）

**度数**

水準	度数	割合
	0	1.00000

欠測値N 117

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」3台目

Q3-3. ①の状況における搭載している資器材についてお知らせください。

（本設問は、厚生労働省においてドクターカー要件を検討する際に重要ですので、正確なご回答をなにとぞお願いいたします。）

※ 常置とは、車内に常に搭載・設置している場合を指します。

※ 通常はドクターカーへの搭載・設置・持ち込みをしておらず、症例に応じて臨時に使用する場合は「原則搭載せず」を選択してください。

ドクターカー搭載資器材	車内常置・持ち込み・原則搭載せず
心電図計	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
血圧測定装置	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
血中酸素飽和度測定器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2 測定器)	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
除細動器(ペースング機能付き)	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
除細動器(ペースング機能無し(AED含む))	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
人工呼吸器	車内常置 ・ 持ち込み (1)
自動心マッサージ器	車内常置 ・ 持ち込み (1)
超音波診断装置	車内常置 ・ 持ち込み (1)
吸引器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
気道確保資器材	車内常置 ・ 持ち込み (1)
ビデオ硬性挿管用喉頭鏡	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
酸素投与資器材	車内常置 ・ 持ち込み (1)
固定用資機材	車内常置 ・ 持ち込み (1)
分娩用資機材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
マギール鉗子	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
創傷保護用資器材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
スクープストレッチャー	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)

## 「現場等への駆けつけ（タイプA）／医師同乗あり」3台目

担架	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (1)
バックボード	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (1)
保温用毛布	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (1)
無線装置	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
懐中電灯	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
トリアージタッグ	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (1)
冷却用資器材	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (1)
血糖測定器	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
ショックパンツ	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (1)
心肺蘇生用背板	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (1)
骨髄針	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
胸腔ドレーン	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
メス	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
ペアン	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
鑷子	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
開胸器	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず

その他の常置または持ち込みの機器（下記に記載ください）

NIRO	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
PCPS 装置	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
心電図モニター	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
発電機	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず

## ドクターカー（病院車運用方式）の全国実態集計

Q4-1～Q4-3

「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」の車両特性

- 本セクションの各設問は車両単位での回答である。

「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」  
1～3台目の合算

病院間患者転送(タイプC)/医師同乗あり	車内常置				持ち込み				原則搭載せず			
	1台目	2台目	3台目	合計	1台目	2台目	3台目	合計	1台目	2台目	3台目	合計
心電図	40	8	0	48	5	2	0	7	0	1	2	3
血圧測定装置	40	9	0	49	4	1	0	5	1	1	2	4
血中酸素飽和度測定器	36	8	1	45	6	2	0	8	2	1	1	4
呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2測定器)	23	2	0	25	8	1	0	9	13	8	2	23
除細動器(ペースング機能付き)	31	6	0	37	3	0	0	3	11	5	2	18
除細動器(ペースング機能なし(AED含む))	18	6	0	24	3	0	0	3	14	4	2	20
人工呼吸器	30	5	0	35	6	1	0	7	9	5	2	16
自動心マッサージ器	5	2	0	7	6	1	0	7	31	8	2	41
超音波診断装置	14	3	0	17	20	1	0	21	11	7	2	20
吸引器	39	9	1	49	3	1	0	4	3	1	1	5
気道確保資器材	23	5	1	29	17	1	0	18	5	5	1	11
ビデオ硬性挿管用咽頭鏡	10	8	0	18	17	1	0	18	16	2	2	20
酸素投与資器材	43	11	2	56	2	0	0	2	0	0	0	0
固定用資器材	27	4	0	31	6	0	0	6	12	7	2	21
分娩用資器材	0	0	0	0	6	0	0	6	36	11	2	49
マギール鉗子	22	4	1	27	15	1	0	16	8	6	1	15
創傷保護用資器材	21	4	1	26	15	1	0	16	9	6	1	16
スクープストレッチャー	13	5	0	18	3	0	0	3	27	6	2	35
担架	19	8	1	28	2	0	0	2	22	3	1	26
バックボード	26	4	0	30	8	0	0	8	11	7	2	20
保温用毛布	31	8	1	40	8	1	0	9	6	2	1	9
無線装置	24	2	0	26	5	1	0	6	16	8	2	26
懐中電灯	33	5	1	39	5	0	0	5	6	6	1	13
トリアージタグ	23	4	0	27	12	0	0	12	9	7	2	18
冷却用資器材	7	2	0	9	9	1	0	10	27	8	2	37
血糖測定器	15	2	0	17	16	1	0	17	13	8	2	23
ショックパンツ	1	0	0	1	2	0	0	2	38	11	2	51
心肺蘇生用背板	8	1	0	9	3	0	0	3	32	9	2	43
骨髄針	15	2	0	17	17	1	0	18	12	8	2	22
胸腔ドレーン	19	2	0	21	14	1	0	15	11	8	2	21
メス	21	3	1	25	16	1	0	17	8	7	1	16
ペアン	20	2	0	22	16	1	0	17	9	8	2	19
鑷子	20	2	0	22	16	1	0	17	9	8	2	19
開胸器	12	1	0	13	13	2	0	15	19	8	2	29

「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」  
1～3 台目の合算

その他の常置または持ち込みの機器	車内常置				持ち込み				原則搭載せず			
	1台目	2台目	3台目	合計	1台目	2台目	3台目	合計	1台目	2台目	3台目	合計
シリンジポンプ	4	1		5	0	0		0		0		0
輸液ポンプ	4	1		5	0	0		0		0		0
IABO	1			1	0			0				0
ヘルメット	1	1		2	0	0		0		0		0
携帯電話	1			1	0			0				0
血液ガス分析装置	0			0	1			1				0
骨盤圧迫	1			1	0			0				0
搬送用保育器	0			0	1			1				0
エスマルヒ	1			1	0			0				0
外科的気道確保セット	1			1	0			0				0
新生児小児人工呼吸器	0			0	1			1				0
保温冷庫	1			1	0			0				0
縫合キット	0			0	1			1				0
防刃チョッキ	1			1	0			0				0
小児セット	1			1	0			0				0
小児救急セット	1			1	0			0				0
PEM	1			1	0			0				0
小児用物品	1			1	0			0				0
胎児ドップラ	0			0	1			1				0
保育器	0	0	0	0	1	1	1	3	0	0	0	0
輸液加湿装置	1			1	0			0				0
シーす	1			1	0			0				0
タニケット	1			1	0			0				0
トランシーバー5台	1			1	0			0				0
防刃メット		1		1		0		0		0		0

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」1台目

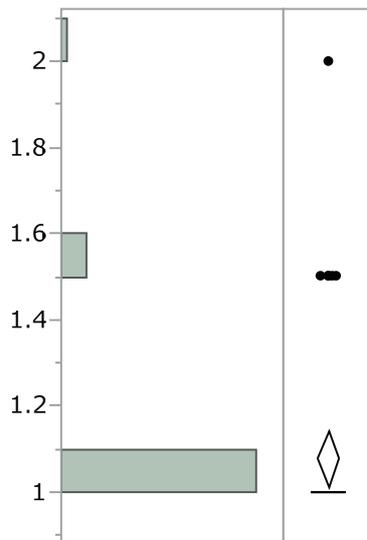
Q4. ①「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」の状況について

Q4-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。

（運転手を含んでお答えください。）

医師（          名）

図Q4-1-1-a.（病院間患者移送/医師同乗あり）1台あたりにのスタッフ数・医師



### 分位点

100.0%	最大値	2
99.5%		2
97.5%		1.9375
90.0%		1.5
75.0%	四分位点	1
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		1
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」1台目

### 要約統計量

平均	1.0795455
標準偏差	0.2141284
平均の標準誤差	0.0322811
平均の上側95%	1.1446464
平均の下側95%	1.0144445
N	44

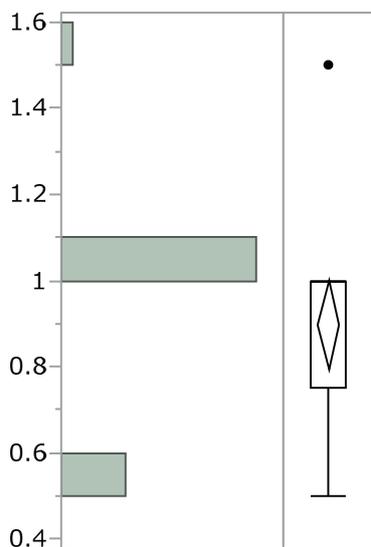
病院間患者転送型で医師同乗ありの場合、多くの施設では医師1名の乗車が標準的であることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」1台目

Q4-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
（運転手を含んでお答えください。）

看護師（          名）

図Q4-1-2-a.（病院間患者移送/医師同乗あり）1台あたりにのスタッフ数・看護師



### 分位点

100.0%	最大値	1.5
99.5%		1.5
97.5%		1.5
90.0%		1
75.0%	四分位点	1
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	0.75
10.0%		0.5
2.5%		0.5
0.5%		0.5
0.0%	最小値	0.5

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」1台目

### 要約統計量

平均	0.9
標準偏差	0.25
平均の標準誤差	0.05
平均の上側95%	1.0031949
平均の下側95%	0.7968051
N	25

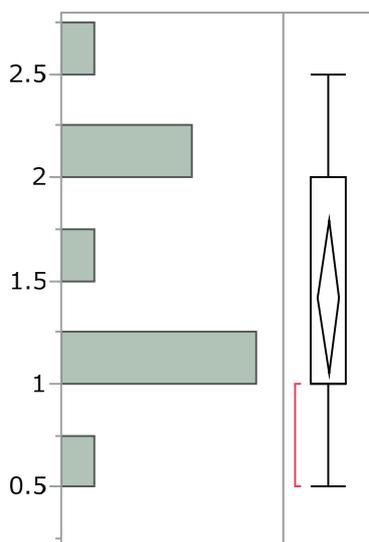
病院間患者転送型で医師同乗ありの場合、多くの施設では看護師1名の乗車が標準的であることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」1台目

Q4-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
（運転手を含んでお答えください。）

救急救命士（          名）

図Q4-1-3-a.（病院間患者移送/医師同乗あり）1台あたりにのスタッフ数・救急救命士



### 分位点

100.0%	最大値	2.5
99.5%		2.5
97.5%		2.5
90.0%		2.3
75.0%	四分位点	2
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		0.7
2.5%		0.5
0.5%		0.5
0.0%	最小値	0.5

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」1台目

### 要約統計量

平均	1.4230769
標準偏差	0.6071159
平均の標準誤差	0.1683837
平均の上側95%	1.7899534
平均の下側95%	1.0562004
N	13

病院間患者転送型で医師同乗ありの場合、多くの施設では救急救命士1名の乗車が標準的であることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」1台目

Q4-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
(運転手を含んでお答えください。)

その他(職種 . 名)

図Q4-1-a. (病院間患者移送/医師同乗あり) 1台当たりへのスタッフ数・その他・職種

- 運転手
- CE
- タクシー運転手
- 医事課、ME
- 運転者
- 運転手(8施設)
- 運転手、事務
- 運転手と車両管理同乗者
- 研修医・運転手
- 研修消防救命士
- 事務(2施設)
- 事務員
- 事務員(運転手)
- 事務職
- 自動車運転手+同乗者(自動車運転手or事務職員)
- 状況による
- 専属運転手
- 非常勤職員(運転手)

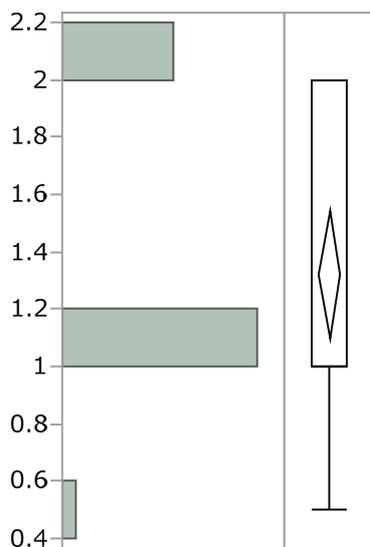
大多数の施設で、運転手も同乗していることが分かる。また、事務員は運転手として同乗していると考えられる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」1台目

Q4-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
 （運転手を含んでお答えください。）

その他（職種 . 名）

図Q4-1-4-a.（病院間患者移送/医師同乗あり）1台あたりにのスタッフ数・その他・人数



### 分位点

100.0%	最大値	2
99.5%		2
97.5%		2
90.0%		2
75.0%	四分位点	2
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		1
2.5%		0.5
0.5%		0.5
0.0%	最小値	0.5

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」1台目

### 要約統計量

平均	1.326087
標準偏差	0.5136477
平均の標準誤差	0.107103
平均の上側95%	1.5482049
平均の下側95%	1.103969
N	23

病院間患者転送型で医師同乗ありの場合、多くの施設ではその他のスタッフ1名の乗車が標準的であることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」1台目

Q4-2. ①の状況において主に**運転する職種**についてお知らせください。

6. ドクターカー専属運転手

7. 医師

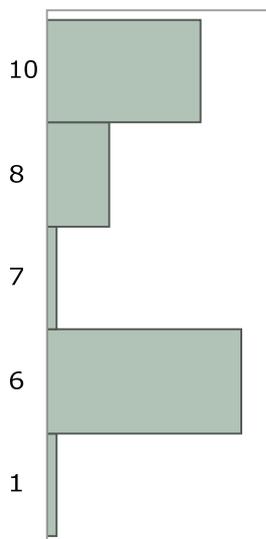
8. 救急救命士

9. 看護師

10. その他（

）

図Q4-2-a.（病院間患者移送/医師同乗あり）運転する職種



### 度数

水準	度数	割合
1	1	0.02381
6	19	0.45238
7	1	0.02381
8	6	0.14286
10	15	0.35714
合計	42	1.00000

欠測値N 75

病院間患者転送型で医師同乗ありの場合、多くの施設ではドクターカー専属運転手が運転していることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」1台目

Q4-2. ①の状況において主に**運転する職種**についてお知らせください。

10. その他（

）

- タクシー会社(2施設)
- タクシー会社にその都度依頼
- タクシー会社委託
- ドクターカー専属運転手、看護師、事務職
- 医事課
- 運転手
- 運転手（ドクターカー兼務）
- 資格を持った事務員
- 事務
- 事務員
- 事務系職員
- 事務職
- 事務職員(3施設)
- 退職した消防職員
- 病院職員

その他の運転手として、多くの施設では事務職員もしくはタクシー会社が運転していることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」1台目

Q4-3. ①の状況における搭載している資機材についてお知らせください。

（本設問は、厚生労働省においてドクターカー要件を検討する際に重要ですので、正確なご回答をなにとぞお願いいたします。）

※ 常置とは、車内に常に搭載・設置している場合を指します。

※ 通常はドクターカーへの搭載・設置・持ち込みをしておらず、症例に応じて臨時に使用する場合は「原則搭載せず」を選択してください。

ドクターカー搭載資機材	車内常置・持ち込み・原則搭載せず		
心電図計	車内常置 (40)	持ち込み (5)	原則搭載せず
血圧測定装置	車内常置 (40)	持ち込み (4)	原則搭載せず (1)
血中酸素飽和度測定器	車内常置 (36)	持ち込み (6)	原則搭載せず (2)
呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2 測定器)	車内常置 (23)	持ち込み (8)	原則搭載せず (13)
除細動器(ペースング機能付き)	車内常置 (31)	持ち込み (3)	原則搭載せず (11)
除細動器(ペースング機能無し(AED含む))	車内常置 (18)	持ち込み (3)	原則搭載せず (14)
人工呼吸器	車内常置 (30)	持ち込み (6)	原則搭載せず (9)
自動心マッサージ器	車内常置 (5)	持ち込み (6)	原則搭載せず (31)
超音波診断装置	車内常置 (14)	持ち込み (20)	原則搭載せず (11)
吸引器	車内常置 (39)	持ち込み (3)	原則搭載せず (3)
気道確保資器材	車内常置 (23)	持ち込み (17)	原則搭載せず (5)
ビデオ硬性挿管用喉頭鏡	車内常置 (10)	持ち込み (17)	原則搭載せず (16)
酸素投与資器材	車内常置 (43)	持ち込み (2)	原則搭載せず
固定用資機材	車内常置 (27)	持ち込み (6)	原則搭載せず (12)
分娩用資機材	車内常置	持ち込み (6)	原則搭載せず (36)
マギール鉗子	車内常置 (22)	持ち込み (15)	原則搭載せず (8)
創傷保護用資器材	車内常置 (21)	持ち込み (15)	原則搭載せず (9)
スクープストレッチャー	車内常置 (13)	持ち込み (3)	原則搭載せず (27)

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」1台目

担架	車内常置 (19)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (22)
バックボード	車内常置 (26)	・ 持ち込み (8)	・ 原則搭載せず (11)
保温用毛布	車内常置 (31)	・ 持ち込み (8)	・ 原則搭載せず (6)
無線装置	車内常置 (24)	・ 持ち込み (5)	・ 原則搭載せず (16)
懐中電灯	車内常置 (33)	・ 持ち込み (5)	・ 原則搭載せず (6)
トリアージタッグ	車内常置 (23)	・ 持ち込み (12)	・ 原則搭載せず (9)
冷却用資器材	車内常置 (7)	・ 持ち込み (9)	・ 原則搭載せず (27)
血糖測定器	車内常置 (15)	・ 持ち込み (16)	・ 原則搭載せず (13)
ショックパンツ	車内常置 (1)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (38)
心肺蘇生用背板	車内常置 (8)	・ 持ち込み (3)	・ 原則搭載せず (32)
骨髄針	車内常置 (15)	・ 持ち込み (17)	・ 原則搭載せず (12)
胸腔ドレーン	車内常置 (19)	・ 持ち込み (14)	・ 原則搭載せず (11)
メス	車内常置 (21)	・ 持ち込み (16)	・ 原則搭載せず (8)
ペアン	車内常置 (20)	・ 持ち込み (16)	・ 原則搭載せず (9)
鑷子	車内常置 (20)	・ 持ち込み (16)	・ 原則搭載せず (9)
開胸器	車内常置 (12)	・ 持ち込み (13)	・ 原則搭載せず (19)

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」1台目

その他の常置または持ち込みの機器（下記に記載ください）

シリンジポンプ (内 1 施設は 3 台搭載)	車内常置 (4)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
輸液ポンプ	車内常置 (4)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
IABO	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
ヘルメット	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
携帯電話	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
血液ガス分析装置	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
骨盤圧迫	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
搬送用保育器	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
エスマルヒ	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
外科的気道確保セット	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
新生児小児人工呼吸器	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
保温冷庫	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
縫合セット	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
防刃チョッキ	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
小児セット	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
小児救急マット	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
PEM	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
小児用物品	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
胎児ドップラ	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
保育器	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
輸液加湿装置	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
シーす	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」1台目

タニケット	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
トランシーバー 5台	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」2台目

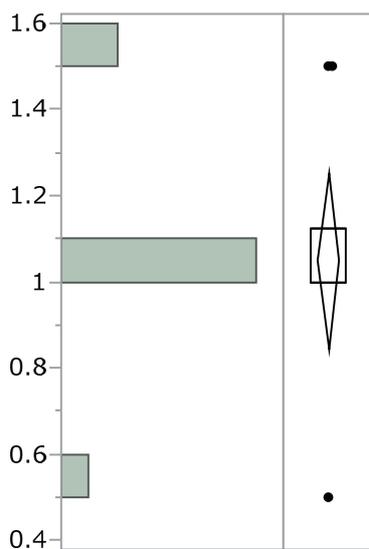
Q4. ①「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」の状況について

Q4-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。

（運転手を含んでお答えください。）

医師（           名）

図Q4-1-1-b.（病院間患者移送/医師同乗あり）1台あたりにのスタッフ数・医師



### 分位点

100.0%	最大値	1.5
99.5%		1.5
97.5%		1.5
90.0%		1.5
75.0%	四分位点	1.125
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		0.55
2.5%		0.5
0.5%		0.5
0.0%	最小値	0.5

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」2台目

### 要約統計量

平均	1.05
標準偏差	0.2838231
平均の標準誤差	0.0897527
平均の上側95%	1.2530348
平均の下側95%	0.8469652
N	10

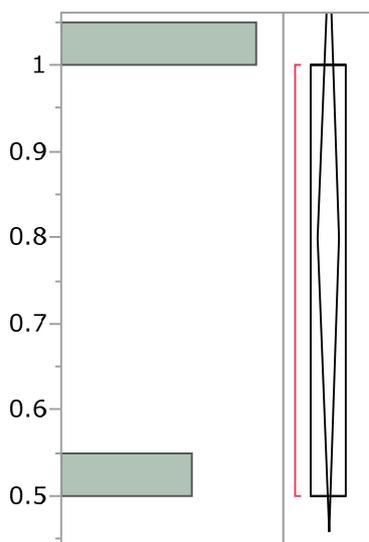
病院間患者転送型 10 施設で医師同乗ありの場合、多くの施設では医師 1 名の乗車が標準的であることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」2台目

Q4-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
（運転手を含んでお答えください。）

看護師（          名）

図Q4-1-2-b.（病院間患者移送/医師同乗あり）1台あたりにのスタッフ数・看護師



### 分位点

100.0%	最大値	1
99.5%		1
97.5%		1
90.0%		1
75.0%	四分位点	1
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	0.5
10.0%		0.5
2.5%		0.5
0.5%		0.5
0.0%	最小値	0.5

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」2台目

### 要約統計量

平均	0.8
標準偏差	0.2738613
平均の標準誤差	0.1224745
平均の上側95%	1.1400437
平均の下側95%	0.4599563
N	5

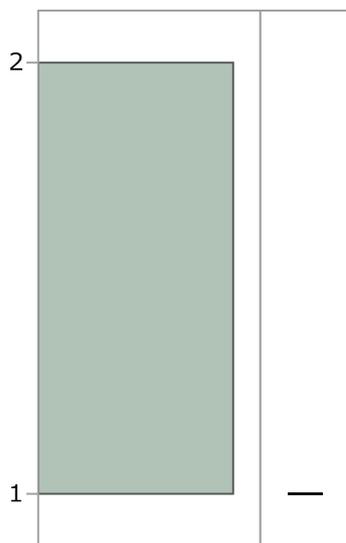
病院間患者転送型10施設で医師同乗ありの場合、多くの施設では看護師1名の乗車が標準的であることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」2台目

Q4-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
 （運転手を含んでお答えください。）

救急救命士（        名）

図Q4-1-3-b.（病院間患者移送/医師同乗あり）1台当たりへのスタッフ数・救急救命士



### 分位点

100.0%	最大値	1
99.5%		1
97.5%		1
90.0%		1
75.0%	四分位点	1
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		1
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」2台目

### 要約統計量

平均	1
標準偏差	0
平均の標準誤差	0
平均の上側95%	1
平均の下側95%	1
N	3

病院間患者転送型10施設で医師同乗ありの場合、3施設では救急救命士1名の乗車であることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」2台目

Q4-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
(運転手を含んでお答えください。)

その他（職種 ・ 名）

- CE
- MEまたは看護師
- 医事課
- 運転手(3施設)
- 救急救命士or事務+医師+消防研修救命士
- 事務
- 事務職

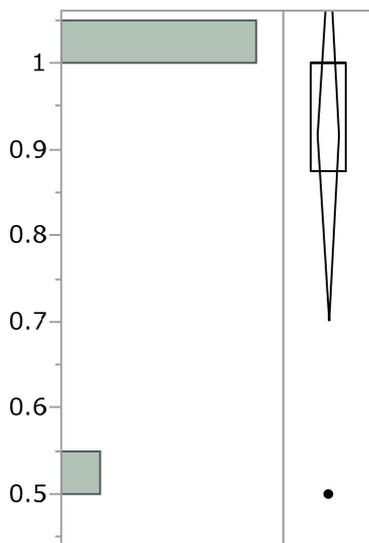
運転手は、様々な職員が担当し、多くは事務員と考えられる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」2台目

Q4-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
 （運転手を含んでお答えください。）

その他（職種 名）

図Q4-1-4-b.（病院間患者移送/医師同乗あり）1台あたりにのスタッフ数・その他・人数



### 分位点

100.0%	最大値	1
99.5%		1
97.5%		1
90.0%		1
75.0%	四分位点	1
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	0.875
10.0%		0.5
2.5%		0.5
0.5%		0.5
0.0%	最小値	0.5

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」2台目

### 要約統計量

平均	0.9166667
標準偏差	0.2041241
平均の標準誤差	0.0833333
平均の上側95%	1.1308818
平均の下側95%	0.7024515
N	6

病院間患者転送型で医師同乗ありの場合、多くの施設ではその他のスタッフ1名の乗車が標準的であることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」2台目

Q4-2. ①の状況において主に**運転する職種**についてお知らせください。

6. ドクターカー専属運転手

7. 医師

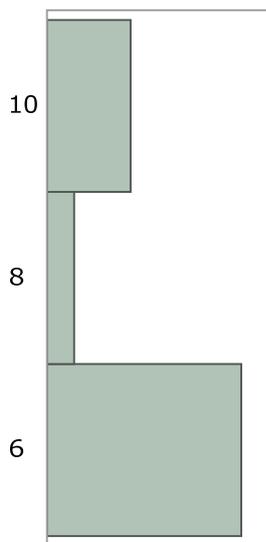
8. 救急救命士

9. 看護師

10. その他（

）

図Q4-2-b. (病院間患者移送/医師同乗あり) 運転する職種



### 度数

水準	度数	割合
6	7	0.63636
8	1	0.09091
10	3	0.27273
合計	11	1.00000

欠測値N 106

病院間患者転送型 11 施設で医師同乗ありの場合、多くの施設ではドクターカー専属運転手が運転していることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」2台目

Q4-2. ①の状況において主に**運転する職種**についてお知らせください。

10. その他（

）

- 医事課
- 事務（病院職員：トレーニングを受けた者）
- 事務職が兼任
- 事務職員

運転手として、多くの施設では事務職員が運転していることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」2台目

Q4-3. ①の状況における搭載している資機材についてお知らせください。

（本設問は、厚生労働省においてドクターカー要件を検討する際に重要ですので、正確なご回答をなにとぞお願いいたします。）

※ 常置とは、車内に常に搭載・設置している場合を指します。

※ 通常はドクターカーへの搭載・設置・持ち込みをしておらず、症例に応じて臨時に使用する場合は「原則搭載せず」を選択してください。

ドクターカー搭載資機材	車内常置・持ち込み・原則搭載せず		
心電図計	車内常置 (8)	持ち込み (2)	原則搭載せず (1)
血圧測定装置	車内常置 (9)	持ち込み (1)	原則搭載せず (1)
血中酸素飽和度測定器	車内常置 (8)	持ち込み (2)	原則搭載せず (1)
呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2 測定器)	車内常置 (2)	持ち込み (1)	原則搭載せず (8)
除細動器(ペースング機能付き)	車内常置 (6)	持ち込み	原則搭載せず (5)
除細動器(ペースング機能無し(AED含む))	車内常置 (6)	持ち込み	原則搭載せず (4)
人工呼吸器	車内常置 (5)	持ち込み (1)	原則搭載せず (5)
自動心マッサージ器	車内常置 (2)	持ち込み (1)	原則搭載せず (8)
超音波診断装置	車内常置 (3)	持ち込み (1)	原則搭載せず (7)
吸引器	車内常置 (9)	持ち込み (1)	原則搭載せず (1)
気道確保資器材	車内常置 (5)	持ち込み (1)	原則搭載せず (5)
ビデオ硬性挿管用喉頭鏡	車内常置 (8)	持ち込み (1)	原則搭載せず (2)
酸素投与資器材	車内常置 (11)	持ち込み	原則搭載せず
固定用資機材	車内常置 (4)	持ち込み	原則搭載せず (7)
分娩用資機材	車内常置	持ち込み	原則搭載せず (11)
マギール鉗子	車内常置 (4)	持ち込み (1)	原則搭載せず (6)
創傷保護用資器材	車内常置 (4)	持ち込み (1)	原則搭載せず (6)
スクープストレッチャー	車内常置 (5)	持ち込み	原則搭載せず (6)

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」2台目

担架	車内常置 (8)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (3)
バックボード	車内常置 (4)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (7)
保温用毛布	車内常置 (8)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (2)
無線装置	車内常置 (2)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (8)
懐中電灯	車内常置 (5)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (6)
トリアージタッグ	車内常置 (4)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (7)
冷却用資器材	車内常置 (2)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (8)
血糖測定器	車内常置 (2)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (8)
ショックパンツ	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (11)
心肺蘇生用背板	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (9)
骨髄針	車内常置 (2)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (8)
胸腔ドレーン	車内常置 (2)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (8)
メス	車内常置 (3)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (7)
ペアン	車内常置 (2)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (8)
鑷子	車内常置 (2)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (8)
開胸器	車内常置 (1)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (8)

その他の常置または持ち込みの機器（下記に記載ください）

シリンジポンプ	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
輸液ポンプ	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
ヘルメット	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
防刃メット	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
保育器	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」3台目

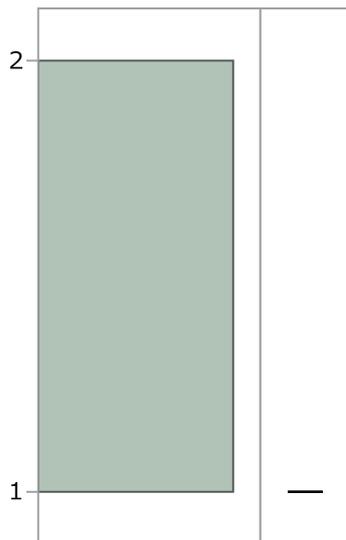
Q4. ①「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」の状況について

Q4-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。

（運転手を含んでお答えください。）

医師（          名）

図Q4-1-1-c.（病院間患者移送/医師同乗あり）1台あたりにのスタッフ数・医師



### 分位点

100.0%	最大値	1
99.5%		1
97.5%		1
90.0%		1
75.0%	四分位点	1
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		1
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」3台目

### 要約統計量

平均	1
標準偏差	0
平均の標準誤差	0
平均の上側95%	1
平均の下側95%	1
N	2

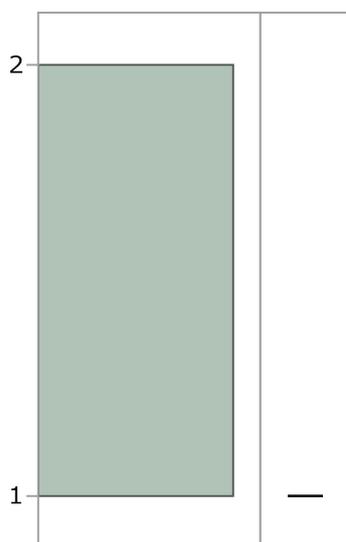
病院間患者転送型で医師同乗ありの場合、3台目を有する施設(2施設)では医師1名の乗車が標準的であることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」3台目

Q4-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
（運転手を含んでお答えください。）

看護師（          名）

図Q4-1-2-c.（病院間患者移送/医師同乗あり）1台当たりへのスタッフ数・看護師



### 分位点

100.0%	最大値	1
99.5%		1
97.5%		1
90.0%		1
75.0%	四分位点	1
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		1
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」3台目

### 要約統計量

平均	1
標準偏差	.
平均の標準誤差	.
平均の上側95%	.
平均の下側95%	.
N	1

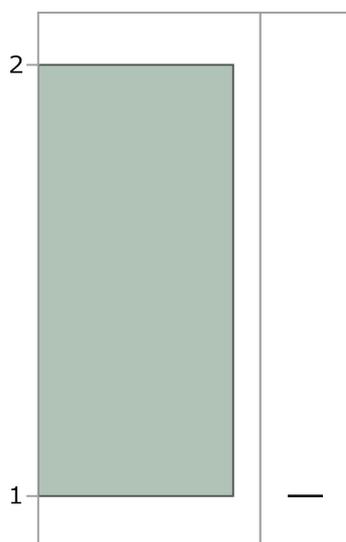
病院間患者転送型で医師同乗ありの場合、3台目を有する施設(1施設)では看護師1名が同乗している。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」3台目

Q4-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
（運転手を含んでお答えください。）

救急救命士（        名）

図Q4-1-3-c.（病院間患者移送/医師同乗あり）1台あたりにのスタッフ数・救急救命士



### 分位点

100.0%	最大値	1
99.5%		1
97.5%		1
90.0%		1
75.0%	四分位点	1
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		1
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」3台目

### 要約統計量

平均	1
標準偏差	0
平均の標準誤差	0
平均の上側95%	1
平均の下側95%	1
N	2

病院間患者転送型で医師同乗ありの場合、3台目を有する施設(2施設)では救急救命士1名の乗車が標準的であることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」3台目

Q4-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
（運転手を含んでお答えください。）

その他（職種 ・ 名）

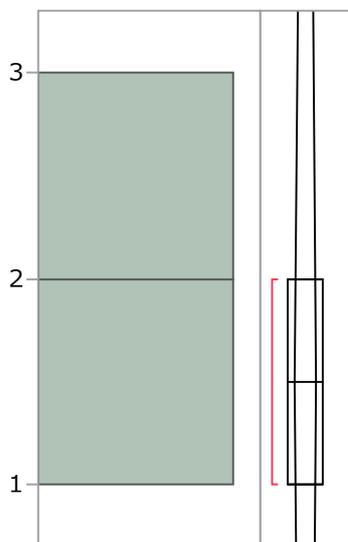
- MEまたは看護師
- 医事課
- 事務職

大多数の施設で、運転手も同乗していることが分かる。また、事務員は運転手として同乗していると考えられる。

Q4-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
（運転手を含んでお答えください。）

その他（職種 ・ 名）

図Q4-1-4-c.（病院間患者移送/医師同乗あり）1台あたりにのスタッフ数・その他・人数



### 分位点

100.0%	最大値	2
--------	-----	---

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」3台目

99.5%		2
97.5%		2
90.0%		2
75.0%	四分位点	2
50.0%	中央値	1.5
25.0%	四分位点	1
10.0%		1
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

### 要約統計量

平均	1.5
標準偏差	0.7071068
平均の標準誤差	0.5
平均の上側95%	7.8531024
平均の下側95%	-4.853102
N	2

病院間患者転送型で医師同乗ありの場合、3台目を有する施設(2施設)ではその他のスタッフ1.5名の乗車が標準的であることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」3台目

Q4-2. ①の状況において主に**運転する職種**についてお知らせください。

6. ドクターカー専属運転手

7. 医師

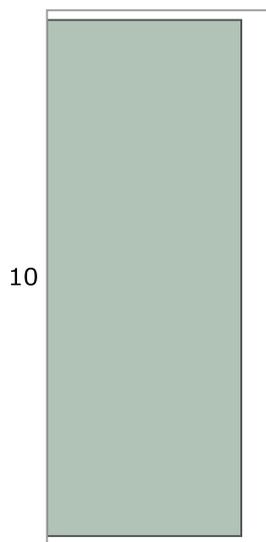
8. 救急救命士

9. 看護師

10. その他（

）

図Q4-2-c.（病院間患者移送/医師同乗あり）運転する職種



### 度数

水準	度数	割合
10	2	1.00000
合計	2	1.00000

欠測値N 115

病院間患者転送型で医師同乗ありの場合、3台目を有する施設(2施設)ではその他の職種が運転していることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」3台目

Q4-2. ①の状況において主に**運転する職種**についてお知らせください。

10. その他（

）

- 医事課
- 事務職が兼任

その他の運転手として、事務職員が運転していることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」3台目

Q4-3. ①の状況における搭載している資機材についてお知らせください。

（本設問は、厚生労働省においてドクターカー要件を検討する際に重要ですので、正確なご回答をなにとぞお願いいたします。）

※ 常置とは、車内に常に搭載・設置している場合を指します。

※ 通常はドクターカーへの搭載・設置・持ち込みをしておらず、症例に応じて臨時に使用する場合は「原則搭載せず」を選択してください。

ドクターカー搭載資機材	車内常置・持ち込み・原則搭載せず
心電図計	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
血圧測定装置	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
血中酸素飽和度測定器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1) (1)
呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2 測定器)	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
除細動器(ペースング機能付き)	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
除細動器(ペースング機能無し(AED含む))	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
人工呼吸器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
自動心マッサージ器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
超音波診断装置	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
吸引器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1) (1)
気道確保資器材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1) (1)
ビデオ硬性挿管用喉頭鏡	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
酸素投与資器材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
固定用資機材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
分娩用資機材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)
マギール鉗子	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1) (1)
創傷保護用資器材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1) (1)
スクープストレッチャー	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (2)

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗あり」3台目

担架	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (1)
バックボード	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (2)
保温用毛布	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (1)
無線装置	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (2)
懐中電灯	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (1)
トリアージタッグ	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (2)
冷却用資器材	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (2)
血糖測定器	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (2)
ショックパンツ	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (2)
心肺蘇生用背板	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (2)
骨髄針	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (2)
胸腔ドレーン	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (2)
メス	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (1)
ペアン	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (2)
鑷子	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (2)
開胸器	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (2)

その他の常置または持ち込みの機器（下記に記載ください）

保育器	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず
-----	------	---------------	----------

## ドクターカー（病院車運用方式）の全国実態集計

Q5-1～Q5-3

「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」の車両特性

- 本セクションの各設問は車両単位での回答である。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」 1～3 台目の合算

病院間患者転送(タイプC)/医師同乗なし	車内常置				持ち込み				原則搭載せず			
	1台目	2台目	3台目	合計	1台目	2台目	3台目	合計	1台目	2台目	3台目	合計
心電図	11	3	0	14	2	0	0	2	0	1	1	2
血圧測定装置	11	4	0	15	2	0	0	2	0	0	1	1
血中酸素飽和度測定器	11	4	1	16	2	0	0	2	0	0	0	0
呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2測定器)	7	1	0	8	0	1	0	1	6	2	1	9
除細動器(ペースング機能付き)	9	3	0	12	0	0	0	0	4	1	1	6
除細動器(ペースング機能なし(AED含む))	4	2	0	6	2	0	0	2	3	1	1	5
人工呼吸器	9	4	0	13	0	0	0	0	4	0	1	5
自動心マッサージ器	1	1	0	2	0	0	0	0	11	3	1	15
超音波診断装置	4	2	0	6	3	0	0	3	6	2	1	9
吸引器	13	4	1	18	0	0	0	0	0	0	0	0
気道確保資器材	8	2	1	11	2	0	0	2	3	2	0	5
ビデオ硬性挿管用咽頭鏡	1	0	0	1	2	1	0	3	9	3	1	13
酸素投与資器材	13	4	1	18	0	0	0	0	0	0	0	0
固定用資器材	7	4	0	11	0	0	0	0	6	0	1	7
分娩用資器材	2	0	0	2	0	0	0	0	11	4	1	16
マギール鉗子	7	2	1	10	2	0	0	2	4	2	0	6
創傷保護用資器材	5	2	1	8	1	0	0	1	7	2	0	9
スクープストレッチャー	6	2	0	8	0	0	0	0	7	2	1	10
担架	5	2	0	7	0	0	0	0	8	2	1	11
バックボード	9	3	0	12	0	0	0	0	0	1	1	2
保温用毛布	10	4	1	15	0	0	0	0	3	0	0	3
無線装置	5	0	0	5	1	1	0	2	7	3	1	11
懐中電灯	9	3	1	13	0	0	0	0	4	1	0	5
トリアージタグ	7	3	0	10	1	0	0	1	5	1	1	7
冷却用資器材	2	1	1	4	0	0	0	0	11	3	0	14
血糖測定器	4	1	0	5	2	0	0	2	7	3	1	11
ショックバンド	1	0	0	1	0	0	0	0	10	4	1	15
心肺蘇生用背板	1	0	0	1	0	0	0	0	11	3	1	15
骨髄針	3	1	0	4	2	0	0	2	8	3	1	12
胸腔ドレーン	6	1	0	7	2	0	0	2	5	3	1	9
メス	7	2	1	10	2	0	0	2	4	2	0	6
ペアン	6	1	0	7	2	0	0	2	5	3	1	9
鑷子	6	1	0	7	2	0	0	2	5	3	1	9
開胸器	3	0	0	3	2	1	0	3	8	3	1	12
その他の常置または持ち込みの機器	車内常置				持ち込み				原則搭載せず			
	1台目	2台目	3台目	合計	1台目	2台目	3台目	合計	1台目	2台目	3台目	合計
シリンジポンプ	1	1		2	0	0		0	0	0		0
携帯電話	1			1	0			0	0			0
輸液ポンプ	1	1		2	0	0		0	0	0		0

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」1台目

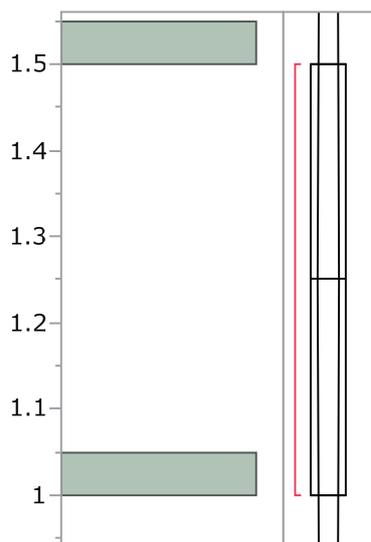
Q5. ①「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」の状況について

Q5-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。

（運転手を含んでお答えください。）

医師（           名）

図Q5-1-1-a.（病院間患者移送/医師同乗なし）1台あたりにのスタッフ数・医師



### 分位点

100.0%	最大値	1.5
99.5%		1.5
97.5%		1.5
90.0%		1.5
75.0%	四分位点	1.5
50.0%	中央値	1.25
25.0%	四分位点	1
10.0%		1
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」1台目

### 要約統計量

平均	1.25
標準偏差	0.3535534
平均の標準誤差	0.25
平均の上側95%	4.4265512
平均の下側95%	-1.926551
N	2

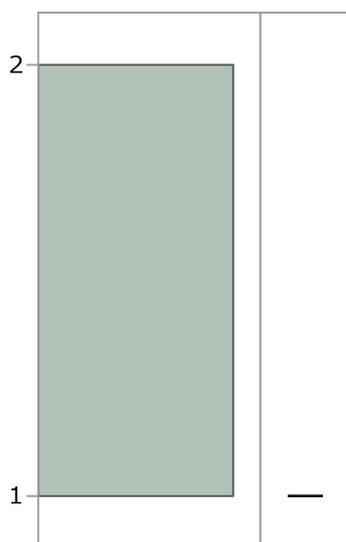
病院間患者転送型で医師同乗なしの場合、多くの施設では医師1名の乗車が標準的であることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」1台目

Q5-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
（運転手を含んでお答えください。）

看護師（          名）

図Q5-1-2-a.（病院間患者移送/医師同乗なし）1台あたりにのスタッフ数・看護師



### 分位点

100.0%	最大値	1
99.5%		1
97.5%		1
90.0%		1
75.0%	四分位点	1
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		1
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」1台目

### 要約統計量

平均	1
標準偏差	0
平均の標準誤差	0
平均の上側95%	1
平均の下側95%	1
N	9

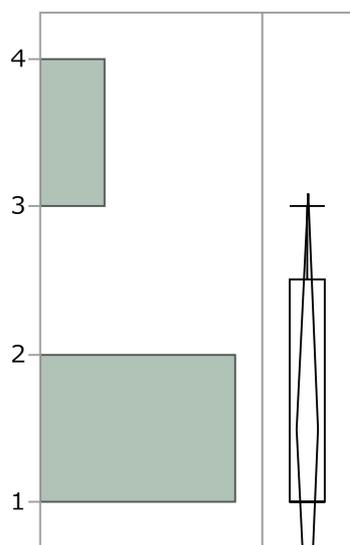
病院間患者転送型で医師同乗なしの場合、多くの施設では看護師1名の乗車が標準的であることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」1台目

Q5-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
（運転手を含んでお答えください。）

救急救命士（        名）

図Q5-1-3-a.（病院間患者移送/医師同乗なし）1台あたりにのスタッフ数・救急救命士



### 分位点

100.0%	最大値	3
99.5%		3
97.5%		3
90.0%		3
75.0%	四分位点	2.5
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		1
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」1台目

### 要約統計量

平均	1.5
標準偏差	1
平均の標準誤差	0.5
平均の上側95%	3.0912232
平均の下側95%	-0.091223
N	4

病院間患者転送型で医師同乗なしの場合、多くの施設では救急救命士1名の乗車が標準的であることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」1台目

Q5-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
(運転手を含んでお答えください。)

その他（職種 ・ 名）

- 医事課
- 運転手(3施設)
- 運転手のみ
- 事務職
- 自動車運転手+同乗者（自動車運転手or事務職員）

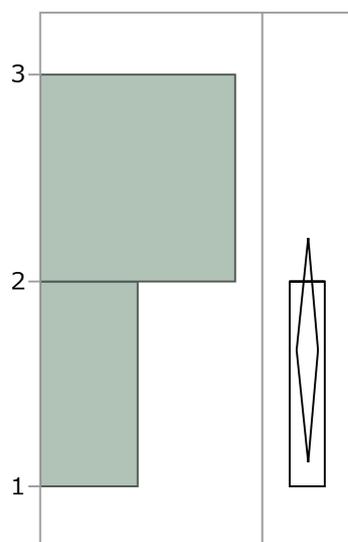
大多数の施設で、運転手も同乗していることが分かる。また、事務員は運転手として同乗していると考えられる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」1台目

Q5-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
 （運転手を含んでお答えください。）

その他（職種 . 名）

図Q5-1-4-a.（病院間患者移送/医師同乗なし）1台あたりにのスタッフ数・その他・人数



### 分位点

100.0%	最大値	2
99.5%		2
97.5%		2
90.0%		2
75.0%	四分位点	2
50.0%	中央値	2
25.0%	四分位点	1
10.0%		1
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」1台目

### 要約統計量

平均	1.6666667
標準偏差	0.5163978
平均の標準誤差	0.2108185
平均の上側95%	2.2085929
平均の下側95%	1.1247404
N	6

病院間患者転送型で医師同乗なしの場合、多くの施設ではその他のスタッフ2名の乗車が標準的であることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」1台目

Q5-2. ①の状況において主に**運転する職種**についてお知らせください。

11. ドクターカー専属運転手

12. 医師

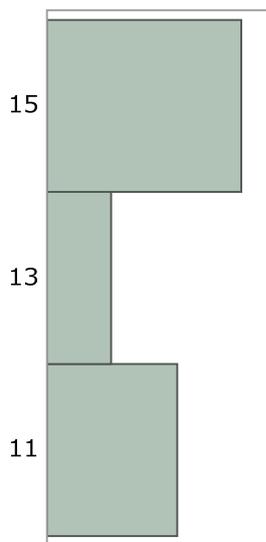
13. 救急救命士

14. 看護師

15. その他（

）

図Q5-2-a.（病院間患者移送/医師同乗なし）運転する職種



### 度数

水準	度数	割合
11	4	0.33333
13	2	0.16667
15	6	0.50000
合計	12	1.00000

欠測値N 105

病院間患者転送型で医師同乗なしの場合、多くの施設ではドクターカー専属運転手が運転していることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」1台目

Q5-2. ①の状況において主に**運転する職種**についてお知らせください。

15. その他（

）

- ドクターカー専属運転手、看護師、事務職
- ドクターカー専属運転手、救急救命士、事務職員
- 医事課
- 運転手（ドクターカー兼務）
- 運用なしのため回答なし
- 事務
- 事務職
- 事務職員
- 病院運転手

その他の運転手として、多くの施設では事務職員が運転していることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」1台目

Q5-3. ①の状況における搭載している資機材についてお知らせください。

（本設問は、厚生労働省においてドクターカー要件を検討する際に重要ですので、正確なご回答をなにとぞお願いいたします。）

※ 常置とは、車内に常に搭載・設置している場合を指します。

※ 通常はドクターカーへの搭載・設置・持ち込みをしておらず、症例に応じて臨時に使用する場合は「原則搭載せず」を選択してください。

全例 救急車タイプ

ドクターカー搭載資機材	車内常置・持ち込み・原則搭載せず
心電図計	車内常置 (11) ・ 持ち込み (2) ・ 原則搭載せず
血圧測定装置	車内常置 (11) ・ 持ち込み (2) ・ 原則搭載せず
血中酸素飽和度測定器	車内常置 (11) ・ 持ち込み (2) ・ 原則搭載せず
呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2 測定器)	車内常置 (7) ・ 持ち込み (6) ・ 原則搭載せず
除細動器(ペースング機能付き)	車内常置 (9) ・ 持ち込み (4) ・ 原則搭載せず
除細動器(ペースング機能無し(AED含む))	車内常置 (4) ・ 持ち込み (2) ・ 原則搭載せず (3)
人工呼吸器	車内常置 (9) ・ 持ち込み (4) ・ 原則搭載せず
自動心マッサージ器	車内常置 (1) ・ 持ち込み (11) ・ 原則搭載せず
超音波診断装置	車内常置 (4) ・ 持ち込み (3) ・ 原則搭載せず (6)
吸引器	車内常置 (13) ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
気道確保資器材	車内常置 (8) ・ 持ち込み (2) ・ 原則搭載せず (3)
ビデオ硬性挿管用喉頭鏡	車内常置 (1) ・ 持ち込み (2) ・ 原則搭載せず (9)
酸素投与資器材	車内常置 (13) ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
固定用資機材	車内常置 (7) ・ 持ち込み (6) ・ 原則搭載せず
分娩用資機材	車内常置 (2) ・ 持ち込み (11) ・ 原則搭載せず
マギール鉗子	車内常置 (7) ・ 持ち込み (2) ・ 原則搭載せず (4)
創傷保護用資器材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」1台目

	(5)	(1)	(7)
スクープストレッチャー	車内常置 (6)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (7)
担架	車内常置 (5)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (8)
バックボード	車内常置 (9)	・ 持ち込み (30)	・ 原則搭載せず
保温用毛布	車内常置 (10)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (3)
無線装置	車内常置 (5)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (7)
懐中電灯	車内常置 (9)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (4)
トリアージタッグ	車内常置 (7)	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (5)
冷却用資器材	車内常置 (2)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (11)
血糖測定器	車内常置 (4)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (7)
ショックパンツ	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (10)
心肺蘇生用背板	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (11)
骨髄針	車内常置 (3)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (8)
胸腔ドレーン	車内常置 (6)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (5)
メス	車内常置 (7)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (4)
ペアン	車内常置 (6)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (5)
鑷子	車内常置 (6)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (5)
開胸器	車内常置 (3)	・ 持ち込み (2)	・ 原則搭載せず (8)

その他の常置または持ち込みの機器（下記に記載ください）

シリンジポンプ	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
携帯電話	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
輸液ポンプ	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」2台目

Q5. ①「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」の状況について

Q5-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。

（運転手を含んでお答えください。）

医師（           名）

### 度数

水準	度数	割合
	0	1.00000

欠測値N 117

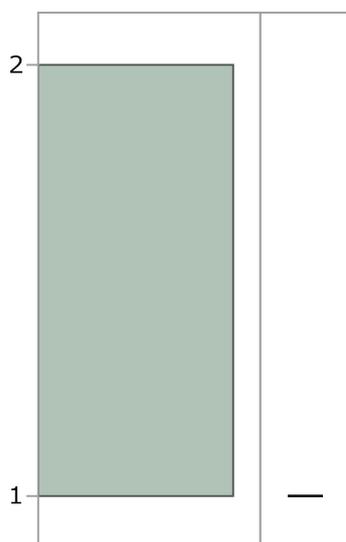
病院間患者転送型で医師同乗なしの場合、医師が同乗している施設は確認されなかった。。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」2台目

Q5-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
（運転手を含んでお答えください。）

看護師（          名）

図Q5-1-1-b.（病院間患者移送/医師同乗なし）1台あたりにのスタッフ数・看護師



### 分位点

100.0%	最大値	1
99.5%		1
97.5%		1
90.0%		1
75.0%	四分位点	1
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		1
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」2台目

### 要約統計量

平均	1
標準偏差	0
平均の標準誤差	0
平均の上側95%	1
平均の下側95%	1
N	3

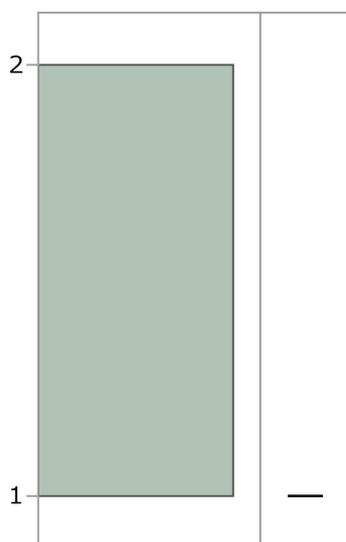
病院間患者転送型で医師同乗なしの場合、3施設では看護師1名の乗車であることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」2台目

Q5-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
（運転手を含んでお答えください。）

救急救命士（        名）

図Q5-1-2-b.（病院間患者移送/医師同乗なし）1台あたりにのスタッフ数・救急救命士



### 分位点

100.0%	最大値	1
99.5%		1
97.5%		1
90.0%		1
75.0%	四分位点	1
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		1
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」2台目

### 要約統計量

平均	1
標準偏差	.
平均の標準誤差	.
平均の上側95%	.
平均の下側95%	.
N	1

病院間患者転送型で医師同乗なしの場合、2台目を有する施設(1施設)では救急救命士1名が同乗している。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」2台目

Q5-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
(運転手を含んでお答えください。)

その他（職種 ・ 名）

- 医事課
- 運転手
- 救急救命士or事務+医師+消防研修救命士



## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」2台目

### 要約統計量

平均	1
標準偏差	0
平均の標準誤差	0
平均の上側95%	1
平均の下側95%	1
N	2

病院間患者転送型で医師同乗なしの場合、2施設ではその他のスタッフ1名の乗車であることが分かる。

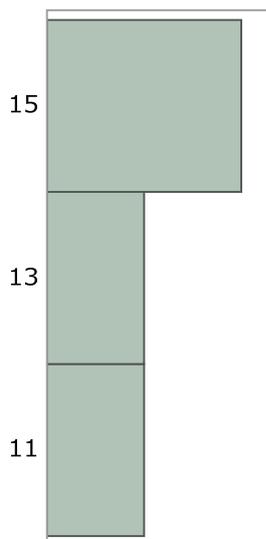
## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」2台目

Q5-2. ①の状況において主に**運転する職種**についてお知らせください。

11. ドクターカー専属運転手
12. 医師
13. 救急救命士
14. 看護師
15. その他（

）

図Q5-2-b.（病院間患者移送/医師同乗なし）運転する職種



### 度数

水準	度数	割合
11	1	0.25000
13	1	0.25000
15	2	0.50000
合計	4	1.00000

欠測値N 113

病院間患者転送型で医師同乗なしの場合、4施設では医師・看護師以外の職種が運転していることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」2台目

Q5-2. ①の状況において主に**運転する職種**についてお知らせください。

15. その他（

）

- 医事課
- 事務（病院職員：トレーニングを受けた者）
- 事務職員

その他の運転手としては事務職員が運転していることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」2台目

Q5-3. ①の状況における搭載している資機材についてお知らせください。

（本設問は、厚生労働省においてドクターカー要件を検討する際に重要ですので、正確なご回答をなにとぞお願いいたします。）

※ 常置とは、車内に常に搭載・設置している場合を指します。

※ 通常はドクターカーへの搭載・設置・持ち込みをしておらず、症例に応じて臨時に使用する場合は「原則搭載せず」を選択してください。

ドクターカー搭載資機材	車内常置・持ち込み・原則搭載せず
心電図計	車内常置 (3) ・ 持ち込み (1) ・ 原則搭載せず (1)
血圧測定装置	車内常置 (4) ・ 持ち込み (1) ・ 原則搭載せず (1)
血中酸素飽和度測定器	車内常置 (4) ・ 持ち込み (1) ・ 原則搭載せず (1)
呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2 測定器)	車内常置 (1) ・ 持ち込み (1) ・ 原則搭載せず (2)
除細動器(ペースング機能付き)	車内常置 (3) ・ 持ち込み (1) ・ 原則搭載せず (1)
除細動器(ペースング機能無し(AED含む))	車内常置 (2) ・ 持ち込み (1) ・ 原則搭載せず (1)
人工呼吸器	車内常置 (4) ・ 持ち込み (1) ・ 原則搭載せず (1)
自動心マッサージ器	車内常置 (1) ・ 持ち込み (1) ・ 原則搭載せず (3)
超音波診断装置	車内常置 (2) ・ 持ち込み (1) ・ 原則搭載せず (2)
吸引器	車内常置 (4) ・ 持ち込み (1) ・ 原則搭載せず (1)
気道確保資器材	車内常置 (2) ・ 持ち込み (1) ・ 原則搭載せず (2)
ビデオ硬性挿管用喉頭鏡	車内常置 (1) ・ 持ち込み (1) ・ 原則搭載せず (3)
酸素投与資器材	車内常置 (4) ・ 持ち込み (1) ・ 原則搭載せず (1)
固定用資機材	車内常置 (4) ・ 持ち込み (1) ・ 原則搭載せず (1)
分娩用資機材	車内常置 (4) ・ 持ち込み (1) ・ 原則搭載せず (4)
マギール鉗子	車内常置 (2) ・ 持ち込み (1) ・ 原則搭載せず (2)
創傷保護用資器材	車内常置 (2) ・ 持ち込み (1) ・ 原則搭載せず (2)
スクープストレッチャー	車内常置 (2) ・ 持ち込み (1) ・ 原則搭載せず (2)

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」2台目

担架	車内常置 (2)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (2)
バックボード	車内常置 (3)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (1)
保温用毛布	車内常置 (4)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
無線装置	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (3)
懐中電灯	車内常置 (3)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (1)
トリアージタグ	車内常置 (3)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (1)
冷却用資器材	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (3)
血糖測定器	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (3)
ショックパンツ	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (4)
心肺蘇生用背板	車内常置	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (3)
骨髄針	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (3)
胸腔ドレーン	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (3)
メス	車内常置 (2)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (2)
ペアン	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (3)
鑷子	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず (3)
開胸器	車内常置	・ 持ち込み (1)	・ 原則搭載せず (3)

その他の常置または持ち込みの機器（下記に記載ください）

シリンジポンプ	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず
輸液ポンプ	車内常置 (1)	・ 持ち込み	・ 原則搭載せず

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」3台目

Q5. ①「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」の状況について

Q5-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。

（運転手を含んでお答えください。）

医師（           名）

### 要約統計量

平均	.
標準偏差	.
平均の標準誤差	.
平均の上側95%	.
平均の下側95%	.
N	0

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」3台目

Q5-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
(運転手を含んでお答えください。)

看護師（           名）

### 要約統計量

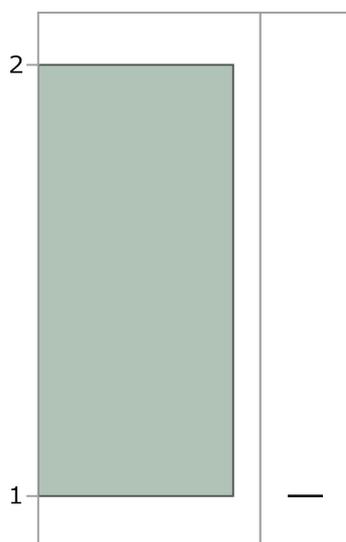
平均	.
標準偏差	.
平均の標準誤差	.
平均の上側95%	.
平均の下側95%	.
N	0

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」3台目

Q5-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
（運転手を含んでお答えください。）

救急救命士（        名）

図Q5-1-1-c.（病院間患者移送/医師同乗なし）1台あたりにのスタッフ数・救急救命士



### 分位点

100.0%	最大値	1
99.5%		1
97.5%		1
90.0%		1
75.0%	四分位点	1
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1
10.0%		1
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」3台目

### 要約統計量

平均	1
標準偏差	.
平均の標準誤差	.
平均の上側95%	.
平均の下側95%	.
N	1

病院間患者転送型で医師同乗なしの場合、3台目を有する施設(1施設)では救急救命士1名が同乗している。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」3台目

Q5-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
 （運転手を含んでお答えください。）

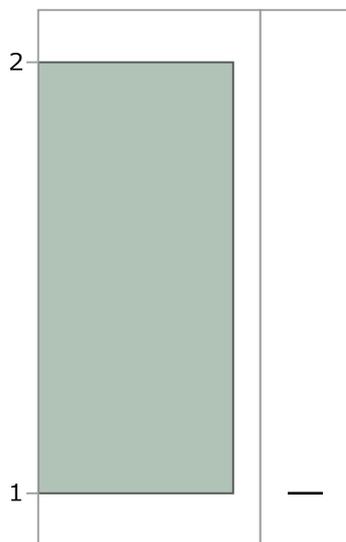
その他（職種 . 名）

●医事課

Q5-1. ①の状況で1台に同乗する医療機関スタッフについてお知らせください。  
 （運転手を含んでお答えください。）

その他（職種 . 名）

図Q5-1-2-c.（病院間患者移送/医師同乗なし）1台あたりにのスタッフ数・その他・人数



### 分位点

100.0%	最大値	1
99.5%		1
97.5%		1
90.0%		1
75.0%	四分位点	1
50.0%	中央値	1
25.0%	四分位点	1

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」3台目

10.0%		1
2.5%		1
0.5%		1
0.0%	最小値	1

### 要約統計量

平均	1
標準偏差	.
平均の標準誤差	.
平均の上側95%	.
平均の下側95%	.
N	1

病院間患者転送型で医師同乗なしの場合、3台目を有する施設(1施設)ではその他のスタッフ1名が同乗している。

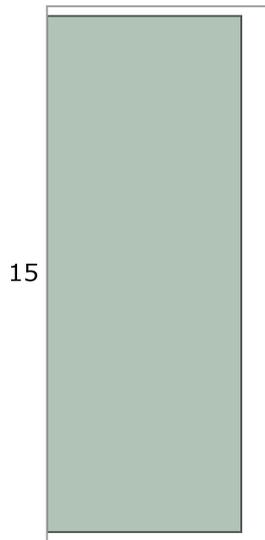
## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」3台目

Q5-2. ①の状況において主に運転する職種についてお知らせください。

11. ドクターカー専属運転手
12. 医師
13. 救急救命士
14. 看護師
15. その他（

）

図Q5-2-c.（病院間患者移送/医師同乗なし）運転する職種



### 度数

水準	度数	割合
15	1	1.00000
合計	1	1.00000

欠測値N 116

病院間患者転送型で医師同乗なしの場合、3台目を有する施設(1施設)ではその他の運転手が運転していることが分かる。

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」3台目

Q5-2. ①の状況において主に運転する職種についてお知らせください。

15. その他（

）

●医事課

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」3台目

Q5-3. ①の状況における搭載している資機材についてお知らせください。

（本設問は、厚生労働省においてドクターカー要件を検討する際に重要ですので、正確なご回答をなにとぞお願いいたします。）

※ 常置とは、車内に常に搭載・設置している場合を指します。

※ 通常はドクターカーへの搭載・設置・持ち込みをしておらず、症例に応じて臨時に使用する場合は「原則搭載せず」を選択してください。

ドクターカー搭載資機材	車内常置・持ち込み・原則搭載せず
心電図計	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
血圧測定装置	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
血中酸素飽和度測定器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
呼気二酸化炭素測定器具(EtCO2 測定器)	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
除細動器(ペースング機能付き)	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
除細動器(ペースング機能無し(AED含む))	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
人工呼吸器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
自動心マッサージ器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
超音波診断装置	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
吸引器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
気道確保資器材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
ビデオ硬性挿管用喉頭鏡	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
酸素投与資器材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
固定用資機材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
分娩用資機材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
マギール鉗子	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
創傷保護用資器材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
スクープストレッチャー	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)

## 「病院間患者転送（タイプC）／医師同乗なし」3台目

担架	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
バックボード	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
保温用毛布	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
無線装置	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
懐中電灯	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
トリアージタッグ	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
冷却用資器材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
血糖測定器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
ショックパンツ	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
心肺蘇生用背板	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
骨髄針	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
胸腔ドレーン	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
メス	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
ペアン	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
鑷子	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)
開胸器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず (1)

その他の常置または持ち込みの機器（下記に記載ください）

	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
--	----------------------

2018年2月23日

救命救急センター  
センター長先生 御侍史

長崎大学病院 高山 隼人  
奈良県立医科大学 野田 龍也

(厚労科研) ドクターカー運用に関する実態調査のご依頼

いつも大変お世話になっております。

厚生労働科研「救急医療体制の推進に関する研究班」(H28-医療-指定-027 主任研究者 山本保博)では、ドクターカーの運用実態に関する調査を行っております。ドクターカーの運用は増加傾向にあり、本年は全国の救命救急センターを対象にドクターカー運用実態を調査し、3年前に行った同様の調査と比較することとなりました。

この調査は、ドクターカーについて、今後の厚生労働省における議論の基本資料となります。

お答えいただいた内容は統計的に処理され、個別の施設名が分からない状態で公開する予定です。ご回答に要する時間は15分間程度を想定しております。ご回答は、ドクターカー運用に携わっている臨床医または事務の担当者の方にお願いいたします。

お忙しいところを誠に恐縮でございますが、調査票へご記入の上、3月9日(金)までにご発送いただきますよう、なにとぞお願い申し上げます。

(この調査は、ドクターカーを運用していない施設におかれても、ご回答・ご返送をお願いいたします。)

問い合わせ先：

長崎大学病院 地域医療支援センター 高山 隼人

TEL 095-819-7346 メール h-takayama@nagasaki-u.ac.jp

返送先(同封の切手付き封筒をご利用ください)：

奈良県立医科大学 公衆衛生学 野田 龍也

(奈良県橿原市四条町 840)

## ドクターカー運用の実態に関する全国調査

本調査では、ドクターカーを「診療を行う医師を派遣するための救急走行が可能な車両」と定義しており、その車両の運用形態から以下の類型に分けております：

◆ タイプA（消防要請による医師派遣型）

(1) 消防からの要請に基づき、(2) 医師が、(3) 医療機関の緊急走行車両（一般車両、救急車等）に乗車して、(4) 傷病発生現場または搬送途上のランデブー（ドッキング）・ポイントへ向かい、(5) 診療（死亡確認を含む。）を行うもの。

◆ タイプB（消防運用型）

(1) 消防からの要請に基づき、(2) 医師が、(3) 消防機関の救急車等に乗車して、(4) 傷病発生現場または搬送途上のランデブー（ドッキング）・ポイントへ向かい、(5) 診療（死亡確認を含む。）を行うもの。

◆ タイプC（転院搬送型）

(1) 消防からの要請がない状態で、(2) 医師が、(3) 患者を搬送する車両に同乗して活動するものです。

新生児搬送専用のドクターカーは本調査の対象外です。なお、ドクターカーを運用していない施設におかれましても、問1へのご回答とご返送をお願いいたします。

病 院 名 :

記入担当者名 :

\*上記お名前等は、回答に関する問合せにのみ利用いたします。

問1. 貴施設ではドクターカーを運用していますか。

1. 運用なし（医師が救急隊の要請で車両出動することはない） ➡ 回答は終了です。  
2. 運用あり（医師が救急隊の要請で車両出動することがある）

問2-1. ドクターカーの運営方式についてお知らせください。（複数回答可）

1. 病院車運用方式（自施設の車両に医師が乗車）  
2. ワークステーション方式（自施設内に救急隊の救急車が待機）  
3. ピックアップ方式（救急隊の救急車が医師をピックアップ）

【複数解答時】 主たる運用をひとつお選びください→ ( 1 . 2 . 3 )



- ドクターカーに関するコストについてお聞きします。

問6-1. (病院車運用方式のみ回答ください) ドクターカー購入の費用負担について

1. 全額病院負担で、補助金は受けていない
2. 病院負担だが、補助金を使用している
3. その他 ( )

問6-2. (病院車運用方式のみ回答ください) 運転手の費用について

1. 全額病院負担で、補助金は受けていない
2. 病院負担だが、補助金を使用している
3. その他 ( )

問7. 主に算定している診療報酬についてお答えください。(複数選択可)

1. 救急搬送診療料
2. 初診料
3. 往診料
4. 救急救命管理料
5. その他 ( )

- ドクターカーの運用件数についてお聞きします。

問8. ドクターカーとしての年間運用件数についてお知らせください。またそのうち、自病院へ搬送している件数についてもお知らせください(後者は件数が不明であれば、〇〇%と概算でも可)

出動件数 件/年 (平成28年度)

上記のうち、自病院搬送件数 件/年 (平成28年度)

問9. 貴センターの年間救急車受け入れ件数についてお知らせください。

救急車の受け入れ件数 件/年

- ドクターカーの運用と地域MC協議会(地域MC協議会がない場合は地域MC協議会を都道府県MC協議会と読み替えてお答えください。)との連携についてお聞きします。

問10-1. ドクターカー要請に関する傷病者の基準について

1. 要請基準あり(院内で決定し、地域MC協議会で協議している。)
2. 要請基準あり(院内で決定し、地域MC協議会で協議していない。)
3. 要請基準なし(その場の判断に任されている)
4. その他 ( )

問10-2. 搬送距離や搬送予想時間等により要請を受けない基準があるかどうかお聞きします。  
(以下、「要請範囲等の基準」と称します。)

1. 要請範囲等の基準あり (院内で決定し、地域MC協議会で協議している。)
2. 要請範囲等の基準あり (院内で決定し、地域MC協議会で協議していない。)
3. 要請範囲等の基準なし (その場の判断に任されている)
4. その他 ( )

問10-3. ドクターカー要請された傷病者に接触後、搬送先病院等について一定の取り決め(基準)があるかお聞きします。「全て自病院に搬送」「傷病に応じて自病院以外の病院へ搬送」「軽症等の場合には救急隊の通常搬送に任せる」等、救急医療体制におけるドクターカー搬送基準の有無をお聞きします。)

1. 搬送先等の基準なし (その場の判断に任されている)
2. 搬送先等の基準あり  
→基準策定の際に協議した機関をお知らせください (複数可)  
( 自院 ・ 他院 ・ 地域MC協議会 ・ その他 ( ) )

問11. ドクターカーの運用や症例を事後検証する場についてお知らせください。

1. 事後検証を院内及び地域MC協議会の双方 (または合同) で実施
2. 事後検証を院内のみで実施
3. 実施していない

問12. ドクターカー運用にあたってお困りの点についてお知らせください。(複数回答可)

1. 特に問題点はない
2. 同乗する医師の確保
3. 同乗する看護師の確保
4. 運転手の確保
5. 人件費
6. 運行経費
7. その他 (自由記載)

問13. その他、ご意見や補足がございましたらご記入ください。

「病院車運用方式」(問2-1)を行っている場合、別紙へお進みください。

「ワークステーション方式」または「ピックアップ方式」のみの場合は、回答はここで終了です。ありがとうございました。

## (別紙)

複数台の車両を運用している場合はこの別紙をコピーしてお使いください。

ドクターカーに利用される車両は、同じ1台の車両であっても、医師が同乗しない診療関連行為（病院間患者搬送など）と混合して運用されることがあります。この別紙は、搭乗している人員及び資器を運用状況ごとに調査することが目的です。ドクターカー用の車両を複数台有している場合は車両ごとに回答をお願いいたします（この別紙をコピーしてください）。

Q1. ドクターカーに利用される車両の車種についてお知らせください。

1. 傷病者の収容が可能な車両（救急車タイプ）
2. 医療従事者の搬送のみ可能な車両（Rapid Response Car：乗用車タイプ）
3. その他（ ）

Q2. ドクターカーに利用される車両の年式、走行距離をお知らせください

年式（ ） →（購入時： 新車 ・ 中古車 ）  
総走行距離（ ）

Q2. ドクターカーに利用される車両の運用状況についてお知らせください。

（年間件数は、ドクターカーに利用される車両がドクターカー以外にも兼用されている場合も含めてお答えください。）

運用状況	年間件数	(左のうち、医師同乗ありの件数)
現場等※への駆けつけ型		
病院間患者転送		

※現場等とは、傷病発生地点または搬送途上の救急車との合流地点を指します。

※消防運用型（タイプB）は本設問の対象外です。

- 以下、この車両を「現場等への駆けつけ型」（医師同乗あり）として利用する場合についてお聞きします。（病院間患者転送の場合の設問は後述します。）
- 1つの車両を「現場等への駆けつけ型」と「病院間患者転送」に兼用している場合は、後述の設問（Q4, Q5）にもご回答ください。



酸素投与資器材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
固定用資機材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
分娩用資機材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
マギール鉗子	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
創傷保護用資器材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
スcoopストレッチャー	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
担架	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
バックボード	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
保温用毛布	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
無線装置	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
懐中電灯	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
トリアージタッグ	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
冷却用資器材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
血糖測定器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
ショックパンツ	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
心肺蘇生用背板	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
骨髄針	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
胸腔ドレーン	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
メス	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
ペアン	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
鑷子	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
開胸器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず

その他の常置または持ち込みの機器（下記に記載ください）

	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず

- ここから先は、この車両を「病院間患者転送」（医師同乗あり）として利用する場合についてお聞きします。（現場等への駆けつけ型の場合の設問（Q3）は上にあります。）
- 1つの車両を「病院間患者転送」（医師同乗なし）に兼用している場合は、その設問（Q5）にもご回答ください。ここから先の設問（Q4）は「医師同乗あり」の病院間患者転送です。



固定用資機材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
分娩用資機材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
マギール鉗子	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
創傷保護用資器材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
スcoopストレッチャー	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
担架	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
バックボード	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
保温用毛布	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
無線装置	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
懐中電灯	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
トリアージタグ	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
冷却用資器材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
血糖測定器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
ショックパンツ	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
心肺蘇生用背板	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
骨髄針	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
胸腔ドレーン	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
メス	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
ペアン	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
鑷子	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
開胸器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず

その他の常置または持ち込みの機器（下記に記載ください）

	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず

- ここから先は、この車両を「病院間患者転送」（医師同乗なし）として利用する場合についてお聞きします。
- 1つの車両を「現場等への駆けつけ型・医師同乗あり（Q3）」や「病院間患者転送・医師同乗あり（Q4）」に兼用している場合は、それらの設問にもご回答ください。ここから先の設問（Q5）は「医師同乗なし」の病院間患者転送です。



酸素投与資器材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
固定用資機材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
分娩用資機材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
マギール鉗子	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
創傷保護用資器材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
スクープストレッチャー	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
担架	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
バックボード	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
保温用毛布	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
無線装置	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
懐中電灯	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
トリアージタッグ	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
冷却用資器材	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
血糖測定器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
ショックパンツ	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
心肺蘇生用背板	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
骨髄針	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
胸腔ドレーン	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
メス	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
ペアン	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
鑷子	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず
開胸器	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず

その他の常置または持ち込みの機器（下記に記載ください）

	車内常置 ・ 持ち込み ・ 原則搭載せず

【ご回答、誠にありがとうございました。】

調査票は同封の切手つき封筒にてご返送ください